特定非営利活動法人
ぷれいす東京
TOKYO

2020年度
年間活動報告書

目次

1. ご挨拶

新型コロナウイルス感染拡大下で透けて見えるHIVサービスの脆弱さ 2

2. 佐藤郁夫さんを偲んで 3

3. 部門報告

事務・総務 5

ホットライン 11

Sexual Health Project 23

Gay Friends for AIDS 24

ネスト 29

バディ 40

HIV陽性者と判定保留/確認検査待ちの人、その周囲の人への相談サービス 44

研究・研修 54

新型コロナウイルス感染拡大下で透けて見えるHIVサービスの脆弱さ

認定NPO法人ぷれいす東京　代表　生島 嗣

2020年1月から新型コロナウイルスの感染拡大に関連した相談が寄せられるようになった。最初は中国からの旅行者たちだった。湖北省から観光で来日し、関東、関西などのホテルに宿泊中のHIV陽性者たちから、母国の空港が閉鎖され帰国できず、手持ちの薬が足りなくなったという相談であった。

2020年5月15日には、厚生労働省 健康局 結核感染症課に「新型コロナウイルス感染症に対する要望書」を提出した。この要望書は、日本全国の市民団体、HIV陽性者、研究者の32の組織・個人が賛同したものであった。

要望事項は以下の4点。

1）HIV/エイズの予防対策や治療への影響の現状把握と改善に向けた取り組みを行うこと、新型コロナウイルス感染症の流行が長期化する場合への対策を準備すること。

2）新型コロナウイルスに感染した人及びその周囲の人々の人権を守り、差別・偏見をなくすべく手段をつくすこと。

3）クラスター対策等での個人情報の収集については、市民との合意形成を重視し、常態化を避けること。

4）社会において脆弱性をもつ人々の背景に配慮し、当事者参加型による啓発・支援の対策を構築すること。

しかし、2021年4月に厚生労働省エイズ動向委員会が発表した2020年報の速報値によると保健所によるHIV検査数は、2019年の142,260件に比べ、2020年は68,998件と半分に落ち込んでいた。

「エイズ患者」つまりエイズ発症で感染が判った人の報告数は、あまり変化がない。一方で「HIV感染者」無症状で感染に気づく人数が前年より160人ほど減少している。この数字は、最近の動向から解釈すると、感染の広がりが止まったのではなく、自発的にHIV検査を受ける人数が大きく減少したことで、未発症で判明するHIV感染者数が減ったのではないかと推測される。この状況が続けば、今後のHIVの感染拡大、エイズ発症で感染に気づく人の増加が強く懸念される。

これまで、BRTA JAPAN（研究代表者 横幕 能行氏）にて、職場で郵送HIV検査キットを配布するプロジェクトを手伝っているが、本年度から「HIV検査体制の改善と効果的な受動推奨のための研究」（研究代表者 今村顕史氏）でコミュニティセンターが無い地域のMSMとトランスジェンダーを対象にした、郵送HIV検査キットの配布トライアルが始まり、その手伝いもするようになった。地元のゲイバー、LGBT団体、拠点病院との連携を軸に、無事、第1段階のトライアルを終了した。

その他、全国のHIVに関するコミュニティセンターを中心としたALL JAPANキャンペーンの取り組み、横幕氏による特別研究枠での厚生労働行政推進調査事業「新型コロナウイルス感染拡大期における保健所HIV等検査の実施体制の確立に向けた研究」においても、愛知県との連携で、保健所以外のHIV検査のメニューを研究費ベースで広げる試行も続いている。

新型コロナウイルスの感染拡大を機会に、地域住民の選択肢が増えていくことを期待したい。

ぷれいす東京ではフリーダイヤルによるHIV陽性者や確認検査待ちの人、そのパートナーや家族のための相談サービスを提供している。国内でHIV陽性と判明する人の6割以上が、一般の医療機関の中で導入されたスクリーニング検査で判定保留となっているのだが、今後は郵送HIV検査キットでの判定保留者（HIV陽性の可能性があり、確認検査を受ける必要がある人たち）からの相談対応が増えていくと想像される。そうした結果を受け取った人たちが、安全に地域の拠点病院へ受診できるよう、支援するのが私たちの役割だと考えている。

こうした様々な変化がある中ではあるが、今後も多くのスタッフたちと共に、HIV感染不安の相談、ゲイ向けの相談、陽性者や周囲の人の相談といった相談の最前線のなかで、見聞きする「満たされていないニーズ」から、社会の課題に引き続き向きあっていきたいと考えている。

佐藤郁夫さんを偲んで

2021年1月18日（月）に、ぷれいす東京の理事でプログラム・コーディネーター（電話相談部門＆ネスト・プログラム）であった、佐藤郁夫さんが永眠されました。

佐藤さんは2002年のボランテイア研修に参加し、電話相談員としてぷれいす東京での活動をスタートしました。この長年にわたる功績を偲ぶとともに、心よりご冥福をお祈りします。スタッフ一同、改めて彼の存在の大きさを実感しています。

佐藤さんは、1月4日、帰宅途中に駅で倒れ、緊急搬送、脳出血と診断され、入院しました。パートナーのよしさんは連絡表に「パートナーです。」と記入し、2番目の連絡先に妹さんの連絡先を記入しました。それにもかかわらず、救急外来で対応した医師は、診療情報は血縁者のみにしか伝えられないと告げ、隣室から妹さんに電話で連絡をするということがおきました。また、2週間後に容態が急変した際の連絡も妹さんにのみでした。佐藤さんが、妹さんたちとパートナーさんとの間にしっかりと家族としての関係を構築していたため大きな問題にはならず、妹さんからの連絡で、よしさんは病院に駆けつけ、妹さんたちと一緒に佐藤さんの最期を看取ることができました。同性婚が認められていれば、このような事は起きないのにと思わずにはいられませんでした。

佐藤さんとよしさんは、2013年にNLGR＋で人前結婚式をあげています。その思いを、「検査をうけ、陽性とわかったばかりの人がいるかもしれない、もし、陽性だったとしても、希望をもちつづけることで、（自分たちのように）幸せになれるということを伝えたい。」と語っていました。

また、二人は全国5箇所で提訴されている、「結婚の自由をすべての人に」訴訟（同性婚訴訟）の東京の原告になっており、二人は実際に、地元の区役所に婚姻届をだし、不受理という結果を受け取っています。

同性婚の実現に間に合わなかった彼の訃報は、国会でも、テレビやニュース記事など、様々な人たちの語りのなかで取り上げられました。

ぷれいす東京では、2月7日（日）に「佐藤郁夫さんを偲ぶ会」をYouTubeのライブ配信で開催しました。HIV関係、同性婚訴訟関係、ご友人の方など、22名の方にスピーチをしていただき、最後に妹さんお二人と、パートナーさんから挨拶していただきました。予定の2時間を超える会となりましたが、常時約300人の視聴と、のべ1,566回の再生がありました。

2021/1/20「佐藤郁夫氏逝去のお知らせ」
（https://ptokyo.org/news/13399）
2021/2/4「佐藤郁夫さんを偲ぶ会」のご案内
（https://ptokyo.org/news/13418）

同時に募集していた追悼メッセージは、実に97名から寄せられ、偲ぶ会のライブ配信の前後に紹介させていただきました。くわえて、配信中にも50名近くの方からチャット欄にコメントが寄せられました。

テキスト・メッセージは「「佐藤郁夫さんを偲ぶ会」ご報告と御礼（https://ptokyo.org/news/13443）」よりご覧いただけます。

佐藤郁夫さんのぷれいす東京での歩み

2002年10月	ボランティアとして登録、電話相談部門で活動
2005年4月	電話相談部門のコーディネーターに着任
2009年4月	厚生労働省委託「HIV陽性者とその周囲の人のための電話相談」事務担当
2012年7月	ネスト・プログラムのコーディネーターを兼任
2015年5月	ぷれいす東京理事に就任
2021年1月18日	逝去（享年61歳）

そのほか、外部から依頼された講演の講師、HIV検査の相談員、冊子やWebサイト制作の協力など、様々な活動に取り組んでいました。

また、JaNP＋（日本HIV陽性者ネットワーク・ジャンププラス）でのスピーカー活動、ボーリングサークル、各地のLGBTコミュニティ活動にも積極的に参加していました。

佐藤郁夫さんが残したもの、大切にしてきたものをスタッフ一同で引き継いで、これからも活動に取り組んでいきたいと思います。

（文責：生島 嗣）

YouTube　ぷれいす東京チャンネル

・ポジティブ・トーク１　いく編
2020 年 10 月 11 日

・令和の若者たちの性事情
～東京 HIV と性の教育セミナー
2020 年 11 月 22 日

「性と人権 同性婚訴訟始まる　同性パートナーシップと何がどう違うのか」

・ポジティブ・トーク 2
2020 年 12 月 6 日

メディア関係

・HIV：共に生きる陽性者の思い 「夫夫」で治療に向き合い
毎日新聞　2017 年 1 月 18 日

・【追悼】ぷれいす東京理事で、同性婚訴訟原告の一人でもあった佐藤郁夫さん
g-lad xx　2021 年 1 月 21 日

・本当に立ち直ったのは HIV 感染から 5 年目のこと。人目をはばからずにわんわん 泣いた。 医療現場で体験した差別や偏見
ハフポスト日本版　2019 年 12 月 16 日

YouTube

・東京都「Words of Love Let's talk about HIV／AIDS」特別編
2020年12月11日

・akta　HIV陽性者やその周囲の人の手記リーディング Living Together オンライン第2回
佐藤郁夫さん（ぷれいす東京）
2021年2月7日（収録：2020年11月15日）

・性教育 YouTuber　シオリーヌ
2020年10月28日

【同性婚】自分の選んだ人と家族になる権利をすべての人に認めてほしい

・LiV Life　感染を知ったきっかけ、検査について
佐藤郁夫さん　よしさん
2020年10月5日

・LiV Life　カミングアウト　佐藤郁夫さん　よしさん
2020年10月5日

・LiV Life　医療従事者とのコミュニケーション
佐藤郁夫さん　よしさん
2020年10月5日

・かずえちゃん　僕らのカミングアウト
2018年8月22日

「彼氏は HIV です」付き合って 16 年目のゲイカップル！

同性婚訴訟関係

・結婚の自由をすべての人に訴訟（同性婚訴訟）
【東京・第1回】原告佐藤さん意見陳述要旨
2019年4年15日

・東京訴訟 原告及び弁護団からのお知らせ
原告佐藤郁夫氏のご逝去について
2021年1月26日

・結婚の自由をすべての人に訴訟（同性婚訴訟）
【東京・第6回】代理人意見陳述要旨（原告ら訴訟代理人永野靖弁護士）
2021年2月24日

・同性婚裁判の尋問を求める署名に1万8000人以上が賛同。「どうか原告の声を聞いて。不要だと言わないで」
ハフポスト日本版　2021年2月24日

・死ぬまでに愛する人と「夫夫」になりたい。法廷で語ったその願いは、叶わなかった。
BuzzFeedNews　2021年2月25日

・同性婚裁判の原告が死去。パートナーは医師から病状説明を拒まれた
ハフポスト日本版　2021年2月25日

・石川大我参議院議員が小泉環境相から「同性婚には賛成だ」との答弁を引き出しました
g-lad xx　2021年3月25日

・THE PAGE（ザ・ページ）【国会中継】参院予算委　来年度予算で一般質疑
2021年3月24日

立憲民主党 石川大我議員が東京同性婚訴訟の原告、佐藤郁夫さんが脳出血で倒れた際の、病状説明/危篤の際の連絡が、17年間ともに生きてきた同性パートナーに伝えられなかった事実について田村厚労大臣に見解を求めています。

個人アカウント

・ブログ　ぷらっと行く。
http://puratto19.seesaa.net/

・Twitter　@puratto19

1. 2020年度のハイライト

●コロナ禍での取り組み

・ネスト・プログラムのオンライン化

加藤 力也

COVID-19の感染拡大の影響により、2020年度スタート時のネスト・プログラムは中止・延期とせざるを得なかった。4月中いくつかのプログラムで試行的にZOOMを利用したオンラインでの開催を行い、スタッフ間で問題点などを確認、オンライン参加のためのグラウンドルールの整備など準備を行った上で、5月以降ほぼ全てのプログラムのオンライン化を実施した。

外出することに抵抗がある利用者だけではなく、これまで距離があるために参加できなかった方々も、各々自宅などから気軽にプログラムに参加することが可能になった。

反面、これまで対面でのプログラムに継続参加していた利用者の一部は、オンライン化を契機に遠ざかってしまった。プライバシーなどを含むオンライン参加への抵抗感や、通信環境・場所の確保の困難さなどがその原因ではないかと思われ、今後の大きな課題となっている。

プログラム参加に必須である利用登録についても、直接事務所に来所が難しい方々のためにオンラインでも行えるようになった。これにより全国各地からのアクセスがあり、より広範囲に渡って支援への道筋を立てられた。

今後もしばらくはオンライン開催がメインとなる見込みのネスト・プログラムだが、ZOOMの使用に慣れていない利用者向けにZOOM初心者ミーティングを立ち上げるなど、より多くの陽性者が参加しやすいものになるよう改善を続けていきたい。

・コロナ禍でのYouTube「ぷれいす東京チャンネル」の取り組み

生島 嗣

当団体の恒例イベントである活動報告会が昨年はコロナ禍で開催が難しくなったため、経験は無かったが、手探りでYouTubeライブ配信に挑戦した。それ以降、少しずつ動画を作成しアップしてきた。特にHIV陽性者や周囲の人からの等身大の情報発信は、これまで圧倒的に数が少なかったので、HIV陽性者や周囲の人も多く参加する団体として、LIVING TOGETHERのその一歩先の情報発信を実践していきたいと考えている。

・チャンネル登録者278人
・2020年度12本の投稿　再生回数　4,019回
・LIVE配信3回、再生回数：2,479（活動報告会、Positive Talk2、佐藤郁夫さんを偲ぶ会）
その他の投稿：スタッフ・インタビュー1、Positive Talk、令和の若者たちの性事情 ～東京HIVと性の教育セミナー2020、長谷川さんと考える「誰かを見送ること」「自分の終活」、など

・コロナ禍において東京都HIV/エイズ電話相談を継続するために

楊井 怜子

2020年1月、ホットライン部門は平日/土日毎日「東京都HIV/エイズ電話相談」を受ける体制へと移行した。同時期に世の中はコロナ禍へと突入。東京都の「コロナ禍でも電話相談を継続してほしい」との要望を受け、一日も休まずに電話相談を実施してきた。コーディネーターの佐藤さんが中心となり、体制の移行と感染症対策の取り組みを同時並行で進めたのが、2020年だった。電話相談の特性上、自宅でリモートワークというわけにはいかない。スタッフが安心して来所、活動ができるよう様々な対策をした。例えば「パーテーションの設置」「室内の換気に伴う暑さ/寒さ対策として冷暖房器具の新調」「体調が悪い際は安心して休めるフォロー体制を作る」など。スタッフからは「感染症対策をしっかり行ってくれたので、安心して業務に携わることができた」といった声をもらっている。何よりも、このような状況の中で業務に入ってくれるスタッフの存在がなければ継続できなかった。最後に・・・今年1月に佐藤さんが急逝された。佐藤さんの思いを引き継ぎHLスタッフ一同で協力しながら、コロナ禍をなんとか乗り切っていきたい。

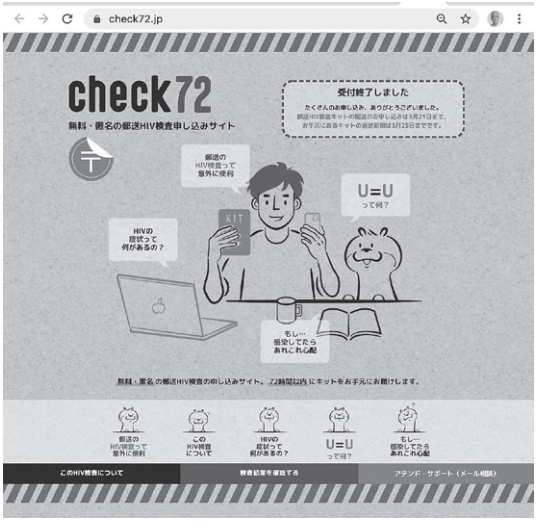
●「check72」

生島 嗣

このサイトは、厚生労働科学研究事業補助金エイズ対策政策研究事業「HIV検査体制の改善と効果的な受動推奨のための研究」（研究代表者：今村顕史/東京都立駒込病院）からの委託で、認定NPO法人ぷれいす東京が制作・管理・運営している。

パイロット研究として、webサイトを通して北陸地域を対象に郵送検査キットの配布を実施し、新たなHIV検査手法としての検証の実務を担当した。実施に当たっては、HIV診療拠点病院、地元ゲイバー、NGO、webサイトなどとの協力関係を構築した。事前webアンケートの終了

者は 205 人、業者による郵送検査キットの申込は 20 日余りで 173 件、検体返送数は 132 件、判定保留（HIV 陽性の可能性がある）は 0 件であった。また、郵送検査実施後のアンケート調査も行っており、現在回収中である。今後は、今回の実証研究の分析・評価を行い、課題を検討し、各地域において、COVID-19 流行下のような社会環境の変化にも対応できる効果的な検査モデルの構築を手伝っていく予定である。



https://check72.jp/

2. ぷれいす東京について

○定例会議：事務局会議（毎月2回）、運営委員会（毎月1回）
理事会（随時）

○役員
理事：任期は 2 年で、2020 年度の理事は以下です。
・生島 嗣（代表を兼任）
・牧原 信也（運営委員長を兼任）
・池上 千寿子
・樽井 正義
・根岸 昌功
・兵藤 智佳
・山下 敏雅
・佐藤 郁夫
・加藤 力也
・野坂 祐子
監事：常住 豊

○事務所スタッフ：フルタイム2名、パートタイム5名

○部門コーディネーター

〔ホットライン部門〕	佐藤、(1 月 -) 阿曽、楊井、生島が中心となり共同で運営
〔Sexual Health Project〕	生島
〔Gay Friends for AIDS 部門〕	桜井
〔ネスト部門〕	佐藤、加藤、原田
〔バディ部門〕	牧原
〔HIV 陽性者と周囲の人 / 確認検査待ちの人への相談サービス部門〕	生島、牧原
厚生労働省受託事業	佐藤、牧原
〔研究・研修部門〕	生島
〔事務・総務部門 経理担当〕	伊澤

フルタイム・スタッフ、パートタイム・スタッフに加え3人が部門コーディネーターとして活動しています。また、人員の少なさを事務所ボランティアの方々がカバーしてくれています。

○会員：251名（うち正会員55名、活動会員196名）
○賛助会員：個人53名
団体7団体：医療法人社団七海会あおぞらクリニック、株式会社アルバコーポレーション、イプソスヘルスケアジャパンリミテッド、サーチコア株式会社、ジャパンメディカル株式会社、中村キース・ヘリング美術館、一般財団法人日本児童教育振興財団内 日本性教育協会（50音順、敬称略）

（50音順、敬称略）

●活動助成をいただいた団体
公益財団法人東京都福祉保健財団、公益財団法人東京しごと財団

●寄付をいただいた団体
ヴィーブヘルスケア株式会社、MSD株式会社、
「LGBTQと組織開発における心理的安全性」実行委員会、
オフィスTwo I、ジョンソン・エンド・ジョンソン日本法人グループ JAPAN COMMUNITY IMPACT、
そらにじひめじ、中外製薬株式会社

（50音順、敬称略）

●チャリボン・募金箱によるご寄付
News Café、株式会社バリューブックス（敬称略）

多くの個人の方からもご寄付をいただきました。お名前の掲載は控えさせていただきますが、心よりお礼申し上げます。また、「Donate a Photo」プロジェクトでは、たくさんのみなさまに応援いただき、ありがとうございました。残念ながら途中で終了してしまいましたが、ジョンソン・エンド・ジョンソン日本法人グループからは「Donate a Photoにおける貴団体への写真投稿は、昨年12月31日までの写真投稿枚数の推移より、契約期間内に十分10,000枚を達成できたと考えております。この度の貴団体への支援に関しましては、然るべき手続きを行った上で相応の対応をさせていただきます。」とのありがたいお申し出をいただきました。

3. ぷれいす東京の日常活動

●受託事業

厚生労働省

・「HIV 陽性者等の HIV に関する相談・支援一式（関東地域におけるピア・カウンセリング等支援事業）」

東京都

・東京都 HIV/ エイズ電話相談
・東京都 HIV 検査情報 Web の制作（http://tokyo-kensa.jp/）
・東京都によるゲイ・メディアへの広告制作

企業からの事業受託／後援事業

・鳥居薬品株式会社の後援で、冊子「Living with HIV ～身近な人から HIV 陽性と伝えられたあなたへ～」の手記とその活用方法などを紹介する Web サイトを開設。

●他団体との協働プロジェクト

・Living Together 計画

HIVのリアリティを伝えるプロジェクトを、aktaとぷれいす東京が窓口になって行っています。

・TOKYO AIDS WEEKS 2020（ページ右参照）

・MSM 首都圏グループ

コミュニティセンター akta、ぷれいす東京、名古屋大学が連携して、HIVの検査環境を改善するため、保健所の研修会などの企画運営を行っています。

・Not Alone Cafe 東京

月に一度、新宿二丁目で開催するカフェ・イベントに協力しています。このカフェは日本に来てまもないゲイ、バイセクシュアル男性のためのもので、日本語があまりできなくても、日本語の練習ができる場、情報が手に入る場です。この運営に協力しています。

・LGBT 支援ハウス

家族やパートナーからの暴力、メンタルの不調により働けず貧困状態になり、ホームレス状態に陥ったLGBT当事者を「ハウジングファースト」の視点から支援するグループです。その運営に協力しています。

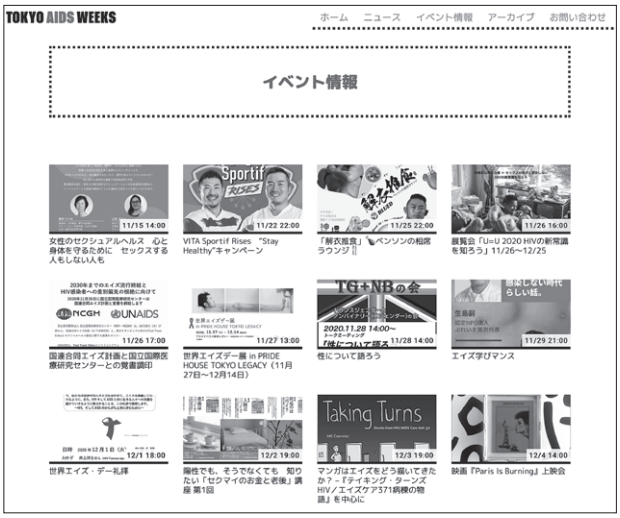
・プライドハウス東京レガシー

LGBTQのコミュニティセンターで、「プライドハウス東京」コンソーシアムのメンバーとして参加しています。2020年度はエイズデーにHIV陽性者の手記と写真を展示したイベントを企画しました。

・要望書の提出

2020年5月15日に、厚生労働省健康局結核感染症課に「新型コロナウイルス感染症に対する要望書」を提出しました。ぷれいす東京は呼びかけ団体の一つで、日本全国の市民団体、HIV陽性者、研究者の32の組織・個人が賛同しました。また、2021年1月25日に、国会で審議される感染症法（感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律）の改正案に対し、HIV/エイズ分野のNGO/NPO有志が声明を発表しました。ぷれいす東京も賛同団体となっています。

今年も 12 月 1 日の世界エイズー前後の期間（11 月 15 日～ 12 月 15 日）に TOKYO AIDS WEEKS 2020 を開催し、オンライン･会場開催あわせて、のべ 26 のイベント･団体の参加がありました。



ぷれいす東京は、12 月 6 日（日）に、「ポジティブ･トーク～ HIV 陽性者とかたる」、12 月 13 日（日）に「PrEP 処方ドクター（東京、大阪）に聞く～ online トーク」をオンラインで開催しました。また、11 月 27 日（金）～ 12 月 14 日（月）には、プライドハウス東京、NPO 法人 akta、ぷれいす東京の 3 団体共催で「世界エイズデー展 in PRIDE HOUSE TOKYO LEGACY」を、新宿御苑前にオープンした LGBTQ コミュニティセンター「プライドハウス東京レガシー」にて開催しました。6 年に渡り綴られたユウジさんの日記「僕らのポジティブ・ダイアリー」に新しい日記も書き下ろしていただき、Gay Friends for AIDS が中心となって展示などを行いました。写真家・堀井ヒロツグさんの作品 “Voices / からだの声を聴く”、akta の U=U の展示もあり、大変好評でした。

今年はオンライン開催が中心になったこともあり、「ポジティブ・トーク～ HIV 陽性者とかたる」をはじめ、現在も YouTube などでご覧いただけるものがあります。各イベントの詳細については、TOKYO AIDS WEEKS 2020 開催リポート（https://aidsweeks.tokyo/news/429）をご覧ください。

TOKYO AIDS WEEKS 2020 開催にあたり、ヴィーブヘルスケア株式会社に協賛をいただきました。この場をお借りして、お礼を申し上げます。

また、普段から交流がある青森レインボーパレードからお誘いを受け、6月7日（日）にWeb開催された青森レインボーパレードにオンラインフロートを出艇しました。

●外部委員会への参加

生島や池上らが、国や自治体などをはじめとする外部機関にHIV/エイズ関係の委員として参加しています。

東京都内の医療機関などでは、行政や民間団体などと垣根を越えて連携し、HIVにどう向きあっていくのかを協議する場が設けられています。ぷれいす東京は、会議の場への参加のみにとどまらず、会議をきっかけとして保健所や医療機関からくる問い合わせや相談に対して積極的に協力しています。

- 厚生労働省エイズ動向委員会 委員
- 東京都エイズ専門家会議 委員
- 公益財団法人エイズ予防財団「同性愛者等に対するHIV/エイズ予防啓発事業」連絡協議会 委員
- 独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構 障害者雇用サポーター
- 一般社団法人日本エイズ学会 理事
- 一般社団法人日本エイズ学会 監事
- 公益財団法人友愛福祉財団 理事
- 新宿区HIV／AIDS関係機関ネットワーク連絡会 委員
- 独立行政法人国際協力機構（JICA）エイズ対策支援委員会 委員
- 日本性教育協会運営委員会 副委員長
- 特定非営利活動法人エイズ＆ソサエティ研究会議 副代表
- 葛飾区エイズ連絡会議 委員

●新規ボランティア研修会の実施

牧原 信也

毎年行っている新規ボランティアの研修を今年も行いました。今年はCOVID-19の流行を受け、初めてオンラインでの開催となりました。説明会を9月5日（土）に開催し14名が参加､研修会を9月20日（日）と21日（月･祝）の両日に開催しました。研修には、協働団体からも4名の参加があり、合計で14名が参加しました。

研修の内容は、オンラインに合わせ、時間を見直したり、グループワークもやり方を変えたり、例年以上に工夫が必要になりましたが、無事に終えることができました。準備は大変でしたが、新たな発見があった年だとも思いました。部門研修も、オンラインを中心とした例年とは違う体制になりましたが、これから細く長く、楽しみながら、ぷれいすの活動に参加・ご協力いただければと思います。

▼新規ボランティア説明会

9月5日（日）9：50～11：45
ZOOMによるオンライン
参加者合計14名（個別も含む）

▼新規ボランティア研修会

9月20日（日）・21日（月・祝） 10：00～17：00
ZOOMによるオンライン
参加者合計14名

講義は、1日4～5コマを2日間開催。1コマは50分～90分､休憩10分。プログラムの内容は以下のとおり。

・9月20日（日）
1. 社会的な背景 池上 千寿子
2. 医学的基礎知識① HIVの基礎知識と検査法 福原 寿弥
3. 手記を読むワークショップ 生島 嗣・スタッフ
4. ネスト・プログラムの取り組み 加藤 力也／佐藤 郁夫
5. 制度や社会サービス 牧原 信也

・9月21日（月・祝）
1. 医学的基礎知識② 性感染症の基礎知識 福原 寿弥
2. セクシュアリティの多様性について 大槻 知子
3. セイファーセックス・リスクアセスメント 生島 嗣・スタッフ
4. 相手のある保健行動～コンドーム使用と使用依頼～ 生島 嗣・スタッフ

●Webサイトの運営

2020年4月23日に、寄付のランディングサイト「私たちは、ぷれいす東京です。」（https://ptokyo.org/weare/）が公開されました。ぷれいす東京の簡単な紹介と、市川誠一さん、大平勝美さん、岡慎一さん、桜井なおみさん、沢田貴志さん、高久陽介さん、長谷川博史さん、松本

俊彦さん（五十音順）からの応援コメント、オンライン寄付などについて掲載されています。ぜひご覧ください。2020年３月に作成した「HIV と新型コロナウイルス関連情報」のお知らせページは現在も随時更新中です。また、2020年７月には、ポルトガル語、スペイン語の相談サービス案内のページができました。CRIATIVOS- 保健プロジェクトとぷれいす東京が共同で実施する、LINE 上での HIV/AIDS、セクシュアリティや心身の健康に関する相談サービス案内です。

厚生労働科学研究事業補助金エイズ対策政策研究事業「HIV 検査体制の改善と効果的な受動推奨のための研究」（研究代表者：今村顕史 / 東京都立駒込病院）からの委託で、ぷれいす東京が「check72」というサイトを制作・管理・運営しています（P. 6 参照）。

その他にも、YouTube「ぷれいす東京チャンネル」（P. 5 参照）、Facebook、Twitter、Instagram といったソーシャル・メディアも活用し Web 上で随時情報発信を行っています。

ぷれいす東京関係

・ぷれいす東京（PC 版・スマホ版）
https://www.ptokyo.org/

・Living with HIV
～身近な人からHIV陽性と伝えられたあなたへ～
https://lwh.ptokyo.org/
冊子無料配布プロジェクトを実施中

・"P-LATINO" Comece tirando dúvidas
- つながることから始めよう！
https://p-latino.ptokyo.org/

研究班関係

・地域におけるHIV陽性者等支援のためのウェブサイト
https://www.chiiki-shien.jp/

・Love Life and Sexual Health（LASH）
https://lash.online/

・Stay Healthy and be HAPPY！
https://stayhealthy.tokyo/

・PrEP in JAPAN
https://prep.ptokyo.org/

・BRTA JAPAN
https://brta.jp/（事務局を担当）

委託

・東京都HIV 検査情報 Web　http://tokyo-kensa.jp/

・性行為で感染する病気への対策してますか？
https://shp.ptokyo.org/hepatitis/

・check72　https://check72.jp/

コラボレーション

・TOKYO AIDS WEEKS　https://aidsweeks.tokyo/

・とも・ナビweb　～HIVで通院されている皆さまへ～
https://www.janpplus.jp/tomonavi/
（特定非営利活動法人日本HIV陽性者ネットワーク・ジャンププラスとの共同プロジェクト）

Facebookは以下のページがあります。
（　　）内URL https://www.facebook.com/ 省略

PLACE TOKYO（PLACETOKYO）
Gay Friends for AIDS（ptokyoGF/）
LASH online（LoveLifeAndSexHealth/）
U=U_JAPAN（UU_Japan-169773930400714/）
Update_HIV（updateHIV/）
Tokyo AIDS Weeks（TokyoAIDSweeks/）

そのほか、
Twitter（@placetokyo、ほか）
Instagram（@placetokyo）
YouTube「ぷれいす東京チャンネル」、ほか
があります。

●冊子などの制作物

ぷれいす東京では、HIV 陽性者のサポートや一般へ向けた予防啓発など、さまざまな活動の成果を冊子などの形にまとめています。これらの冊子は、陽性者や周囲の人などの当事者、ぷれいす東京にボランティアなど何らかの形で関わってくださっている方々、あるいは教育やセクシュアリティ、医療、福祉などの専門家をはじめ、広くさまざまな層へ向け、一部を除き原則有償実費にて頒布しています。

2020年10月に、陽性者向けにポジティブライン、対面相談、ネスト・プログラムの案内をまとめたカードを作成しました。また、ぷれいす東京の相談窓口などをまとめた情報カードの改訂版を発行しました。

▼HIV陽性者の手記など「生の声」をまとめた冊子

・『Living with HIV　～身近な人からHIV陽性と伝えられたあなたへ～』
HIV陽性者のパートナー、家族、友だち、職場の仲間など、身近な人からHIV陽性と伝えられた人とHIV陽性者による計24編の手記と、基礎知識やデータを取りまとめた短いコラムを掲載。通知を受けた人への支援ツールとしても活用できる。2013年制作。2017年第4版。

▼予防啓発活動を通じて生まれた冊子

・『Sexual Health Book ②』
感染予防、避妊、デートDVなど性の健康情報だけでなく、性の多様性とコミュニケーションのポイントについてもとりあげ、わかりやすく、しかも自分事として気づくための工夫がなされている。学校、家庭、職場などで教材として活用できる冊子。　2014年制作。

▼肝炎の予防啓発のためのパンフレット

・『性行為で感染する病気への対策してますか？』
厚生労働科学研究費補助金エイズ対策政策研究事業「HIV検査の受検勧奨のための性産業の事業者及び従事者に関する研究」(研究代表者：今村顕史(がん・感染症センター都立駒込病院))からの依頼で制作。2019年制作。
WebサイトからPDF版のダウンロード・閲覧も可能。

●メディアへの協力

今年度もテレビ・ラジオ番組、新聞や雑誌、Webなど各種メディアからの取材依頼がありました。ゲイ・メディアの取材などにも協力・寄稿し、情報発信をサポートしました。また、研究成果や相談対応に基づく情報提供、可能な範囲でのHIV陽性者の紹介を行いました。事前に企画書を提出していただき、内容の妥当性や取材協力者のプライバシーへの配慮などを確認しています。

陽性者向け情報カード

HUFFPOST 日本版	偏見や差別を助長する報道はもういらない。LGBTQ当事者が要望書を提出した理由	5月21日掲載
リディラバジャーナル	コロナショックとHIV（前編）-- 外国籍HIV患者の治療の課題が浮き彫りに	6月16日掲載
リディラバジャーナル	コロナショックとHIV（後編）-- 感染を「自己責任」にしない社会へ	6月17日掲載
東京新聞	困窮ＬＧＢＴに住まいを　コロナ禍でニーズ増　支援団体が寄付金募る	6月29日掲載
ナースときどき女子	HIV陽性者が生きやすい社会を目指す【認定NPO法人ぷれいす東京】	8月4日掲載
NHK総合テレビ	「クローズアップ現代」深刻化する“住居喪失クライシス”（取材協力）	9月9日放送
環境新聞社「シルバー新報」	早期治療で陽性者も労働者！～新宿区「ぷれいす東京」	9月25日掲載
newTOKYO	今年も赤いリボンの季節が到来。最新の知識やリアルな声が分かる「TOKYO AIDS WEEKS」が開催！	11月17日掲載
BuzzFeedNews	「危ない性行為も受け入れた」「クラブでアガるため…」リアルな経験談が、あなたに伝えること	11月25日掲載
東京新聞	HIV、多様な視点で啓発　世界エイズデーに合わせ　オンライン講座など催し	11月26日掲載
FMおのみち	エイズ啓発番組に協力	12月1日～3日、8日～10日放送
毎日新聞	コロナで失業、無一文　元外資系社員のゲイ男性を救ったもの	12月5日掲載
g-lad xx	【追悼】ぷれいす東京理事で、同性婚訴訟原告の一人でもあった佐藤郁夫さん	1月21日掲載
BuzzFeedNews	死ぬまでに愛する人と「夫夫」になりたい。法廷で語ったその願いは、叶わなかった。	2月25日掲載
ゲイ雑誌「サムソン」に寄稿	2020年6月号（2020/4発売）まで連載（この号で休刊）	

部門報告（ホットライン）

1. 活動のあらまし

HIV/ エイズに関して、不安や質問がある人の相談を受けたり情報を提供する場として、

＊「ぷれいす東京 HIV/ エイズ電話相談」

＊「東京都 HIV/ エイズ電話相談（平日 / 夜間 / 休日）」（東京都委託事業）

を運営している。

2. スタッフの構成（2021年3月現在）

・コーディネーター　1名

（※2021年1月19日より不在のため、現在は阿曽、楊井、生島が中心となり共同で運営）

・世話人　5名

・スタッフ　32名（実働）

3. 活動内容

○「ぷれいす東京HIV/エイズ電話相談」

電話番号：03（3361）8909［1回線］

実施日：日曜日　14：00 ～ 17：00

※新型コロナウイルスによる緊急事態宣言を受けて、2020年4月12日より休止中。

○「東京都HIV/エイズ電話相談（平日/夜間/休日）」（東京都委託事業）

電話番号：03（3227）3335［2回線］

実施日：月～金曜日　12：00 ～ 21：00

（但し、祝日の場合は、14：00 ～ 17：00）

土 / 日曜日　14：00 ～ 17：00

○スタッフミーティング

毎月1回、第3日曜日　11：30 ～ 13：30

合わせて、ケースカンファレンスや学習会を行っている。

○世話人会

部門内の調整・企画の場として有志により構成。ホットライン部門研修に携わっている。

第3日曜日に必要に応じてミーティングを開催。

○東京都HIV/エイズ電話相談連絡会

東京都福祉保健局エイズ対策係との二者による定例会議。毎月第2金曜日に都庁にて開催している。

○東京都HIV/エイズ電話相談連絡会全体会

東京都福祉保健局エイズ対策係とぷれいす東京に係るスタッフで構成され、2012年度から始まった。年1回開催。

※ 2020年度はコロナ感染拡大のため中止した。

○日本エイズ学会学術集会・総会での発表

コーディネーターの佐藤郁夫が、第34回日本エイズ学会学術集会・総会にて『新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の、地域におけるHIV/エイズ不安相談への影響』といった演題で、オンデマンドで発表を行った。

4. 2020年度の相談状況

1)「ぷれいす東京HIV/エイズ電話相談」

●相談実績報告（2020年4月1日～ 2021年3月31日）
※新型コロナウイルスによる緊急事態宣言を受けて、
4/12以降の相談を休止した。

年間活動日数	1日間
総相談時間数	3時間
活動スタッフ数	のべ1.0名
年間相談数	7件
	男性6件 女性1件 不明0件
	うち 陽性者0件
	確認検査待ち0件
	陽性者周囲0件
	確認検査待ち周囲0件

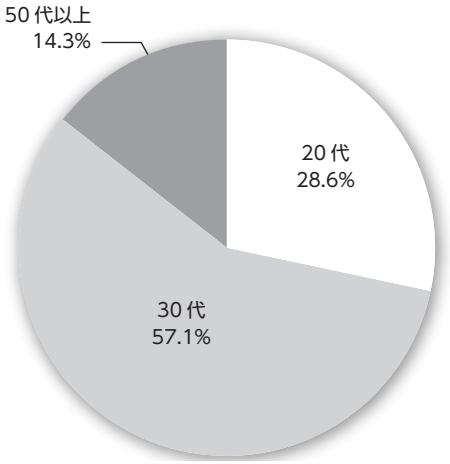
●相談件数〈ぷれいす東京〉

今年度の相談件数は、7件（昨年度：468件）だった。月平均/7件（同:39件）、1日平均/7件（同:9.4件）だった。過去の推移は、396件、515件、468件、7件だった。

●相談者の内訳〈ぷれいす東京〉〔グラフ1〕

性別は、「男性6件」（85.7%）、「女性1件」（14.3%）、「不明0件」だった。男女の割合は、ここ5年間同様の傾向を示している。年代は、「30代」57.1%（昨年度：23.7%）がかなり増加した。「50代以上」14.3%（同：11.3%）は少し増加した。「19才以下」0.0%（同：2.7%）、「20代」28.6%（昨年度：37.1%）、「40代」0.0%（同：18.6%）は減少した。

グラフ1　相談者の年代（ぷれいす東京）n=7
2020年4月～2021年3月

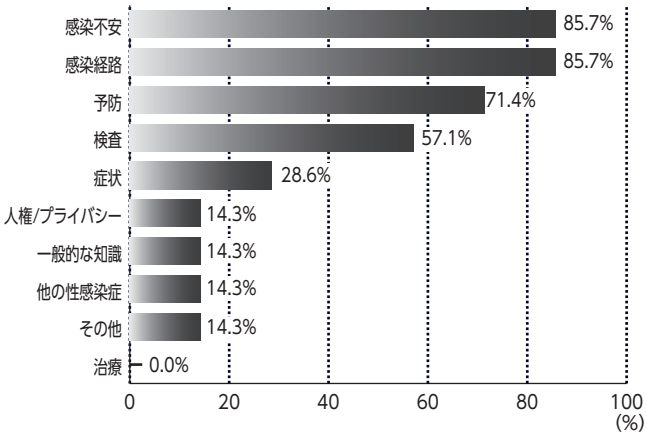


●相談内容（複数回答有）〈ぷれいす東京〉〔グラフ2〕
（%は、内容／相談件数）

相談内容の内訳は「感染不安」が中心で全体の85.7%（昨年度:90.2%）、同じく「感染経路」85.7%（同:83.1%）、「予防」71.4%（同:43.4%）、「検査」57.1%（同:58.1%）、「症状」28.6%（同：19.4%）、「人権・プライバシー」14.3%（同：13.9%）、「一般的な知識」14.3%（同：36.5%）、「他の性感染症」14.3%（同：26.1%）、「治療」0.0%（同：17.9%）、「その他」14.3%（同：9.4%）となった。

昨年度と比較すると「予防」・「症状」・「その他」が増加し、「感染不安」・「一般的な知識」・「他の性感染症」・「治療」は減少し、他は大きな変動がなかった。

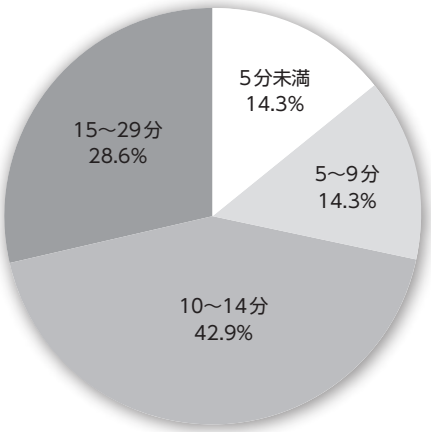
グラフ2　相談内容（ぷれいす東京）＊複数回答あり
2020年4月～2021年3月



●相談時間〈ぷれいす東京〉〔グラフ3〕

全体的な傾向は昨年度と同様だったが、30分以上の相談がなかった。「5分未満」14.3%（昨年度：21.6%）、「5分～9分」14.3%（同：27.6%）、「10分～14分」42.9%（同:16.9%）、「15分～29分」28.6%（同:26.5%）、「30分～44分」0.0%（同:5.1%）、「45分～59分」0.0%（同:1.5%）、「60分以上」0.0%（同：0.9%）と変動した。

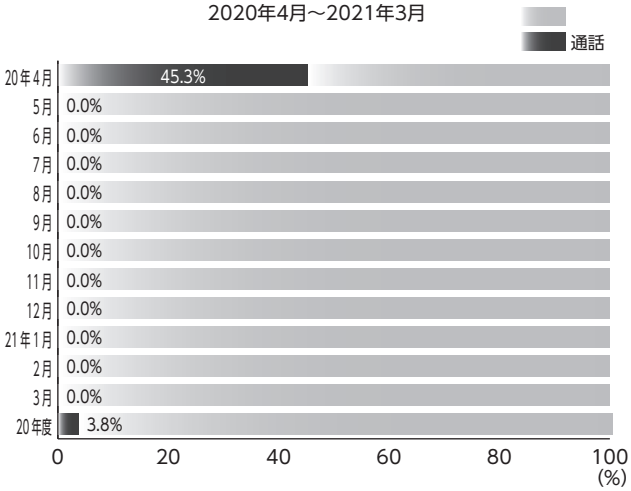
グラフ３　相談時間（ぷれいす東京）n=7
2020年4月～2021年3月



●回線占有率〈ぷれいす東京〉〔グラフ４〕　算出方法：総通話時間／総相談時間（超過は分母に加算）

回線占有率は、昨年度は 50％以上の月が７ヶ月だったが、今年度は０ヶ月になった。その結果、今年度の回線占有率が 45.3％（昨年度：51.7％）に減少した。

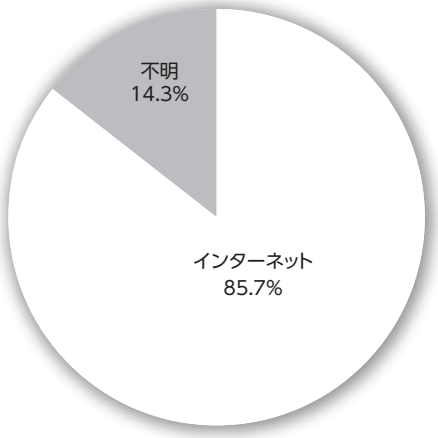
グラフ４　回線占有率（ぷれいす東京）
2020年4月～2021年3月



●情報源〈ぷれいす東京〉〔グラフ５〕

「インターネット」が全体の 85.7％だった。続いて「不明」14.3％、それ以外は０％だった。「インターネット」６件の内訳は、「ホームページ」1 件（16.7％）、「検索」5 件（83.3％）だった。

グラフ５　情報源（ぷれいす東京）n=7
2020 年４月～2021 年３月



●他県の割合〈ぷれいす東京〉

東京都外からの相談は５件（71.4％）と、昨年度の 341 件（72.9％）とほぼ変動なし。引き続き全国から相談があることを示している。

●陽性者及びその周囲への対応〈ぷれいす東京〉

HIV 陽性者からの相談は０件（昨年度：13 件）だった。確認検査待ち（スクリーニング検査が陽性／要確認／判定保留で、確認検査の結果が出ていない：以下、確認検査待ち）０件（同：３件）、陽性者周囲の相談０件（同：３件）、確認検査待ち周囲の相談０件（同：２件）だった。

2)「東京都HIV/エイズ電話相談(平日/夜間/休日)」(東京都委託事業)

この相談は東京都から委託を受け、2020年1月より「ぷれいす東京」が単独で行っている事業である。

●相談実績報告(2020年4月1日～2021年3月31日)

年間活動日数	359日間
総相談時間数	2,535時間/のべ5,070時間
活動スタッフ数	のべ1,723名
年間相談数	5,692件
	男性 4,467件　女性 1,217件
	不明 8件
	うち 陽性者 271件
	確認検査待ち 40件
	陽性者周囲 69件
	確認検査待ち周囲 4件

●月別相談件数〈東京都〉

今年度の相談件数は5,692件(昨年度:3,472件)で2,220件の増加だった。2020年1月より相談時間の枠が変更になっているため、昨年度との単純な比較はできないので省略する。

●相談者の内訳〈東京都〉〔グラフ6〕

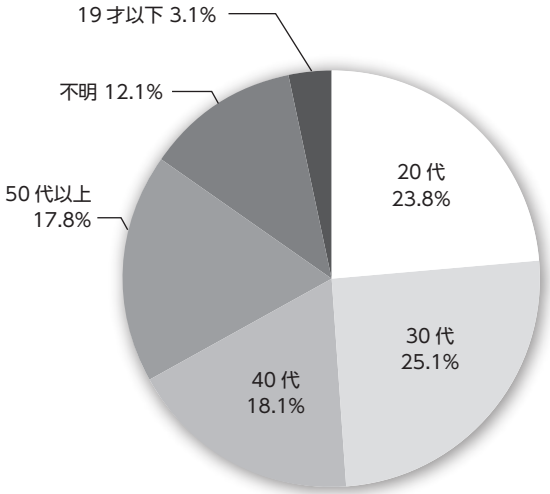
性別は、「男性」78.5%(昨年度:75.9%)、「女性」21.4%(同:24.0%)、「不明」0.1%(同:0.1%)だった。性別の割合の大きな変動は見られなかった。

年代は、「30代」25.1%(同:20.6%)、「20代」23.8%(同:23.9%)、「40代」18.1%(同:16.6%)、「50代以上」17.8%(同:10.8%)、「19才以下」3.1%(同:2.8%)の順だった。「30代」⇄「20代」が入れ替わったが、その他の大きな変動はなかった。「不明」は12.1%(同:25.3%)で減少した。これは、アンケートを相談の前に聞くよう変更したことにより聞き忘れが減ったためだと考えられる。

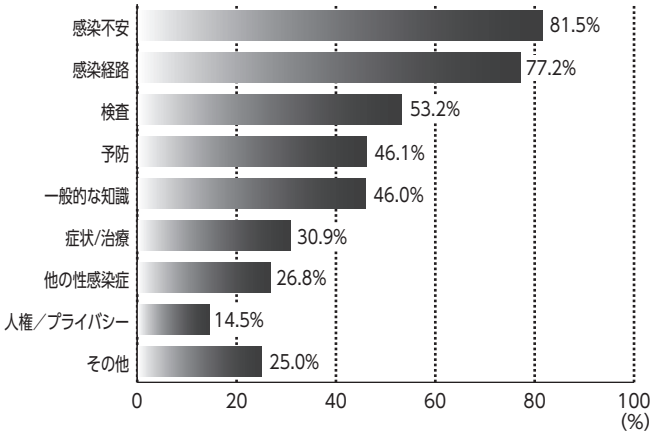
●相談内容(複数回答有)〈東京都〉〔グラフ7〕

今年度の相談内容の内訳は、「感染不安」が81.5%(昨年度:86.6%)で最も多かった。続いて「感染経路」が77.2%(同:79.6%)、「検査」が53.2%(同:48.7%)、「予防」46.1%(同:41.3%)、「一般的な知識」46.0%(同:28.7%)、「症状/治療」30.9%(同:32.6%)、「他の性感染症」26.8%(同:21.9%)、「その他」25.0%(同:12.8%)、「人権/プライバシー」14.5%(同:8.7%)という順位になった。

グラフ6　相談者の年代(東京都) n=5,692
2020年4月～2021年3月



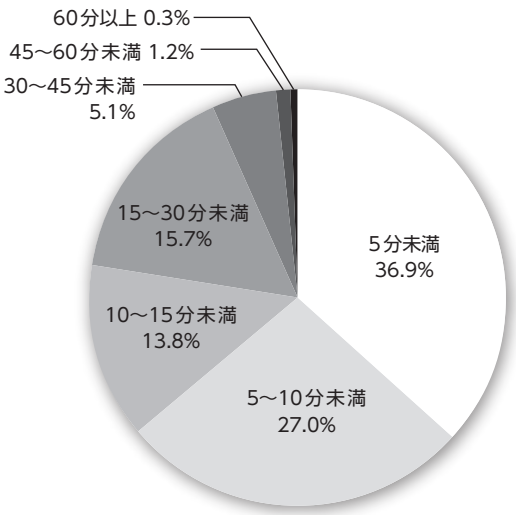
グラフ7　相談内容(東京都) *複数回答あり
2020年4月～2021年3月



●相談時間〈東京都〉〔グラフ8〕

10分未満の相談が63.9%（昨年度：62.9%）と半数以上を占めた。全体の93.4%（同：93.4%）が30分以内におさまり、60分以上の相談は0.3%（同：0.4%）だった。昨年度とさほど変化はなかった。

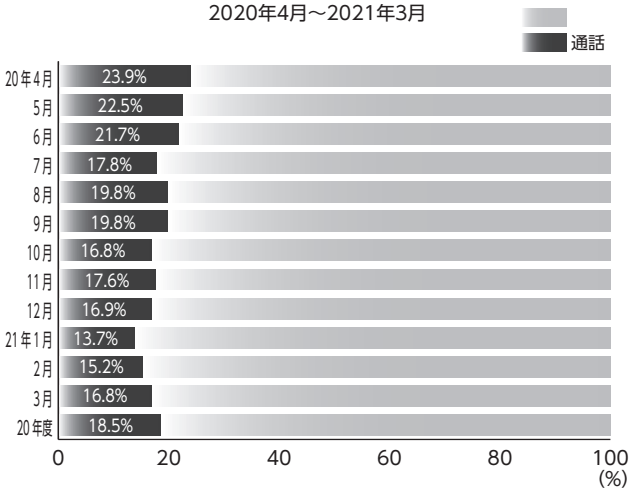
グラフ8　相談時間（東京都）n=5,692
2020年4月～2021年3月



●回線占有率〈東京都〉〔グラフ9〕算出方法：総通話時間／総相談時間（超過は分母に加算）

今年度の回線占有率は、4月、5月、6月は20%を超えたが、それ以外は20%未満となり、全体的に回線占有率が下がった（昨年度の平均回線占有率：37.9%）。社会の関心が新型コロナウイルス感染症に集中しHIVに関するニュースや関心が減少したことが、電話相談にも影響していると考えられる。

グラフ9　回線占有率（東京都）
2020年4月～2021年3月

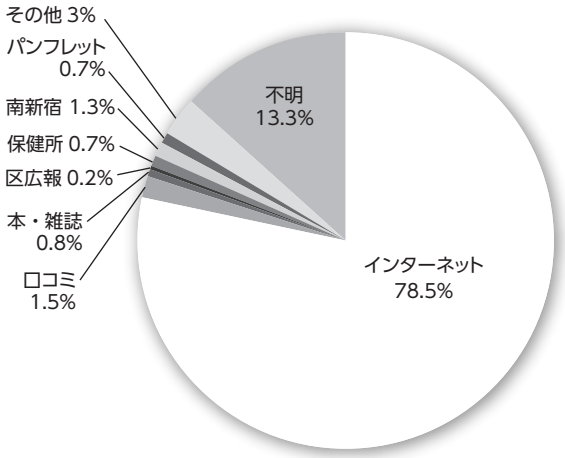


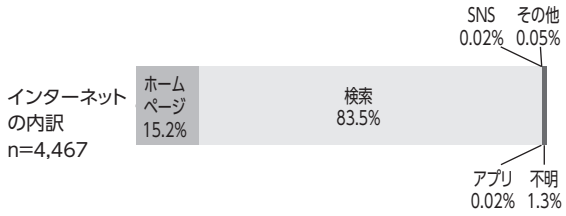
●情報源〈東京都〉〔グラフ10〕

「インターネット」は全体の78.5%（昨年度:68.1%）だった。続いて「不明」13.3%、「その他」3.0%、「口コミ」1.5%、「新宿東口（南新宿）」1.3%で、それ以外は1%未満だった。

「インターネット」4,467件の内訳は、「ホームページ」678件（15.2%）、「検索」3,729件（83.5%）、「不明」56件（1.3%）、「その他」2件（0.05%）、「SNS」1件（0.02%）、「アプリ」1件（0.02%）だった。

グラフ10　情報源（東京都）n=5,692
2020年4月～2021年3月





●他県割合〈東京都〉

東京都外からの相談は3,439件（昨年度：1,767件）で、全体の60.4%（同：50.9%）を占めた。昨年度より約10%上昇した。「東京都」の電話相談だが、全国のニーズに対応していることがわかる。

●陽性者及びその周囲への対応〈東京都〉

HIV陽性者からの相談は271件（昨年度：139件）で、132件増えた。確認検査待ちは40件（同：12件）、陽性者周囲は69件（同:15件）、確認検査待ち周囲は4件（同:2件）だった。東京都の相談における陽性者等の相談率は、6.7%（同:4.8%）だった。平日の相談を受けることになり、陽性者等の相談を受ける機会がより増えた。特に陽性者周囲からの相談が増えた。

3) 相談全体のまとめ（ぷれいす東京／東京都）

①東京都HIV/エイズ電話相談の平日のシフトが始まる

東京都の５年間の相談件数は、1,951 件、2,230 件、2,679 件、3,472 件、5,692 件と推移。2020 年１月 20 日から平日の相談が開始したため、今年度の件数が大きく増加した。東京都とぷれいす東京を合わせたのべ相談員数は、昨年度が 820 名だったが、今年度は 1,724 名となった。シフト運営のための相談員の調整は、今まで以上に大変である。平日相談時間の増加に伴い、一人当たりのシフトへの参加回数が増えたり、６時間以上の長時間にわたり相談を受けることもあり、相談員の負担が増えている。

更に現在、新型コロナウイルス感染拡大を受けて来所を控えるスタッフが増えており、特定のスタッフのシフト参加回数が増加している。また室内の密を避けるため最低限の２名体制でシフトを運営しており、相談件数が多い際の負担増加など、シフトに参加する相談員の心の負担も増してきていると考えられる。

②リピーターの相談

今年度もリピーターが存在したが、特徴は大きく二分される。一つは、何年もかけてきている長期的リピーターで、その多くは日常接触などで不安になり確認のためにかけてくる。もう一つは、一定の期間だけかけてくるリピーターで、多くは性的接触などの具体的な心配事があり、検査結果を受け取るまで続く。しかし中には、陰性の結果が信じられず、検査結果を受け取った後もしばらく相談が続くケースもあった。

③新型コロナウイルスの影響

2020 年に入り、日本でも新型コロナウイルスの感染拡大により緊急事態宣言が発令され、活動自粛を求められている。電話相談にも、２月頃からその影響が出てきた。大きなニュースがあるとその時間帯の相談件数が極端に減少するが、その後、相談件数が若干回復する状況が見られた。コロナに影響を受ける相談者は、大きく次の３つのタイプに分類できる。①元々 HIV への感染不安があり、コロナ関連の報道等により精神的に影響を受ける人②新型コロナウイルスと HIV（ウイルス）を混同することで不安になる人③新型コロナウイルスに関心が向かうことで、HIV への関心が薄れる人。しかし、タイプ③の人は電話をかけなくなっている可能性が高い。新型コロナウイルスの感染収束の見通しが立たない中で、今後も動向に注意する必要があるだろう。

④陽性者などの相談

東京都 HIV/ エイズ電話相談に寄せられた、HIV 陽性者・確認検査待ちとその周囲の人からの相談をまとめた。

□陽性者（271件）

1）陽性者のリピーター（205件／陽性者の75.6%）

※男性：205件／ 30代：22件、40代：124件、60代：59件／東京：73件、他県132件

・年間の相談回数が100回以上というリピーターが存在した。

・トピック的な相談がある場合もあるが、多くは日常に起きた出来事に関する相談だった。

・HIV以外の課題を抱えている相談者もおり、慎重な対応が求められる場合があった。

2）感染後６ヶ月以内の陽性者（15件／陽性者の5.5%）

※男性：14件、女性：1件／20代：4件、30代：6件、40代：2件、不明：3件／東京：8件、他県：7件

HIV告知直後の漠然とした不安の他に、

・治療費、服薬などについての心配。

・家族に言わなければいけないか？家族にうつさないか？

・在留資格が切れてしまうことが一番心配。

・告知された病院では拠点病院の案内がなく、自分で調べてくれと言われた。

・美容整形の手術を受けたいが、陽性だとダメだと言われた。どうすればいい？

・過去に性的関係があった人に連絡した方がいいか？…などの相談があった。

3）感染後６ヶ月以上と長期療養中の陽性者（51件／陽性者の18.8%）

※男性：51件／20代：7件、30代：13件、40代：11件、50代以上：5件、不明：15件／東京…22件、他県…15件、海外…1件、不明…13件

[緊急や困難な事例]

・転院した先でクレーマー扱いされてしまったが、どうしたらいいか？

・数年前にHIVが判明。薬剤耐性ができており、抗HIV薬の選択肢が少ない。

・HIV陽性が判明したばかりで、頭痛・疲れやすいなどの体調不良あり。これからどうなるのか心配。

・HIV判明後も自分をずっと支えてくれていたパートナーが急逝した。誰かと話したくて電話した。

[専門的知識が必要な事例]

・院内処方から院外処方に変わることについて。他科診療との兼ね合いについて。

・歯科を紹介して欲しい。
・更年期の治療が始まるが、抗HIV薬との作用はないのか。
・不動産の相談。
・職場関係や職場でのトラブルについて。(3件)
・近々海外勤務になりそう。現地での医療費や薬代がいくらかかるか教えて欲しい。(3件)
・転職の相談。(2件)
・転院の相談。(2件)
・外国人。新型コロナウイルス感染拡大の影響で、母国で抗HIV薬の調達ができなくなった。(6件)
・社会保険についての質問。(2件)
・生命保険についての質問。(3件)

[プライバシー関連]
・運転免許の申請の際に障害者手帳を出したら「何の障害ですか？」と聞かれた。
・就職面接の時にHIV陽性を伝えるべきか。
・健康診断をした。結果用紙の既往歴の所に病気のことを書かれた。

[その他]
・長期療養のメンタルについて。(4件)
・新型コロナウイルスについて。(3件)
・日常の報告。
・梅毒の相談。

□確認検査待ちの相談(40件)
※男性：34件、女性：6件／20代：10件、30代：17件、40代：9件、50代以上：1件、不明：3件／東京…11件、他県…28件、不明…1件

[術前検査]
・術前スクリーニング検査で判定保留。検査した病院から、どこかで確認検査を受けるよう言われた。男性同性間で性行為あり。陽性の場合、病院の紹介をしてもらえるか。いきなり治療が始まるか？偽陽性の確率はどのくらいか？
・皮膚科の術前検査で要確認となった。女性と予防のない性行為が数回あり。確認検査の結果が心配。
・術前検査で要確認となった。男性同性間での性行為あり。行為後、自覚症状は特になかった。どれくらいの確率で陽性になるか？

[自主検査]
・交通事故の人を介助して免許証についた血を触ってしまった。その後、気になる症状が出て心配。
・男性同性間で予防なしのオーラルセックスあり。行為の後必ずWP経過後に、HIVなどの性感染症検査を受検し毎回陰性。ところが、ここ最近連続で判定保留になってしまう。確認検査の結果は毎回陰性となるが、なぜ最近判定保留になってしまうのか？
・男性同性間で予防なしの性行為あり。しばらくして発熱など体調不良あり。行為から30日未満で保健所にて即日検査を受けた結果、判定保留。その後の確認検査でWB法が判定保留/PCRが陰性。結果として陰性と判断された。陰性確定と捉えていいのか？
・相手が予防をしていないかもしれない行為があった。その後、発熱や発疹などの症状あり。クリニックでHIV検査して確認検査待ち。別のクリニックでも検査した結果、抗原が陰性、抗体が陽性となった。このようなことがあるのか？

[郵送検査]
・郵送検査キットで検査したら要確認検査の結果が出た。陽性になる確率は？陽性と出た場合、その後の流れは？将来結婚して子供を作ることはできるか？
・郵送検査の結果が「陽性」だった。確認検査を受ける予定だが、どこか医療機関を紹介して欲しい。過去に予防のない性行為あり。
・郵送検査を受けて「陽性」となり、確認検査待ち。もしも陽性だったら専門病院に行きたいが、ブロックと中核の拠点病院の違いは何か。治療法の進歩について。薬の副作用は？
・男性同性間で予防のない性行為あり。定期的に郵送検査をしてチェックしていたが、今回陽性と出て、要確認検査となった。今、確認検査受けられる所ありますか？偽陽性率はどのくらいか？
・今日すぐに検査したいが予約できますか？海外の郵送検査キットで定期的に検査しているが、今回うっすら線が出たのですぐに検査したい。
・郵送検査で陽性となった。気になる行為は、過去に海外の風俗でオーラルセックスあり。もしも陽性だったら今後の生活はどうなるのか。親には隠しておきたい。

[会社での検査]
・職場の抗原抗体検査で陽性となった。確認検査を受けるよう言われた。どこで検査すればよいか。思い当たる行為は全くない。
・会社の健康診断のオプションでHIV検査を軽い気持ちで受けたが、スクリーニング検査で陽性となった。判定保留なので確認検査して、と言われた。男性同性間で予防のない性行為あり。確認検査はどうしたらいいか？

3) 相談全体のまとめ（ぷれいす東京／東京都）

□陽性者周囲の相談（69件）

※男性：51件、女性：18件／20代：8件、30代：31件、40代:10件、50代以上:15件、不明:5件／東京:27件、他県：39件、不明：3件

・（パートナー）日本在住の中国人。中国に住むパートナーから陽性が判明したと連絡あり。パートナーを日本に呼び寄せたい。日本で治療を受けることができるか。
・（パートナー）パートナーが高熱などの症状で入院。陽性が判明。エイズ発症かもしれないとの診断。パートナーは大丈夫なのか？すごく不安。
・（パートナー）つい最近パートナーが陽性と判明。今度初めて病院にウイルス量などを測りに行く。性行為の際は予防をしているが、パートナーの治療が始まりU＝Uの状態になるまでは心配。これからもパートナーを支えていこうと考えている。周囲に相談できる人がいないので電話相談を利用。
・（性行為の相手）男性同性間で予防なしの性行為あり。行為後、相手から「陽性者でずっと治療しており、ウイルスも検出限界値以下だから大丈夫」と言われた。72時間以内に治療する方法もあるが、その必要はあるか？（似たような相談が他に5件）
・（夫）陽性の妻が仕事から帰ってきて、血圧がかなり低い状態。普段の血圧はわからないが心配。
・（母親）息子がHIVなのではないか？親としてどう接したらよいかわからない。
・（母親）息子がHIV陽性とわかった。本人に精神疾患があり相談するのが難しい。息子の嫁は陰性。二人の間で予防の無い性行為があるのに感染しないということがあるのか？
・（父親）妻子がいる息子が陽性と判明。家族中ショックを受けている。どう接したらよいか？ HIVに関する基本的な知識を教えてほしい。
・（友人）ベトナム人の友人がHIV陽性で日本で働いている。今は薬があるが、新型コロナウイルスの影響により帰国して薬を入手することができなくなるかもしれない。彼は日本語ができない。相談先や医療機関を紹介してほしい。（似たような相談他に2件）
・（医療機関勤務）手術中の医療事故でHIV陽性者の血液がついた器具が自分の指に刺さった。毛細血管が少し傷ついた。勤務先からは「今後定期的な血液検査をするしかない。それ以上は対応できない」と言われた。自分で調べたら72時間以内であれば予防できる方法があるようだが、どうすればよいか？（似たような相談他に2件）

□確認検査待ち周囲の相談（4件）

※男性：4件／20代：1件、30代：2件、40代：1件／東京都：3県、他県：1件

・（パートナー）パートナーと即日検査を受けたら、彼女が確認検査待ちになった。自分は陰性。基本的な予防はして性行為しているが、自分に感染するか？
・（パートナー）子宮頸癌の定期検診で、HIVが引っかかった。検査した医療機関で「再検査が半年後」と言われたと言っている。半年後はおかしいのでは？
・（友人）予防のない性行為を行った友人から入院したとの連絡があった。「HIVかも。もう一度検査する」とのことで自分も検査対象になる。初期症状はどのようなものか。自分には自覚症状はなかったと思う。いつから検査できる？
・（パートナー）妻が病院で検査して確認検査待ち。偽陽性の確率は？妻は妊婦検診で陰性、出産している。大丈夫ですよね？

□陽性者相談などのまとめ

数年前に相談員から「陽性者相談などの対応が難しい」との声があがった際、ケースカンファレンスを実施した。ケースカンファレンスでは、「相談者の不安な感情を受け止めること」と「専門家が対応した方がよいこと」を分けて考えることを話し合った。ホットライン部門では「相談者の不安な感情を受け止めること」に専念して、「専門的な対応」はぷれいす東京ポジティブラインに繋ぐことで、相談員の心理的な負担を和らげようと考えた。ところが今年度の陽性者などからの相談内容を見ると、専門家でも対応が難しい相談が見受けられた。例えば地方からの相談では、プライバシーの問題など陽性者の暮らしにくさが見えてきた。

相談員は、相談者の気持ちを受け止めようと努力をしているが、専門家のサポートや専門的な知識が必要な相談が多く、対応が難しい場合があった。ぷれいす東京ポジティブラインの相談員とも連携した学習会やケースカンファレンスを通じてスキルアップする必要があると同時に、相談者にどのような言葉をかけてぷれいす東京ポジティブラインに繋がってもらうかも課題である。

5. 活動実績（2020年4月1日～2021年3月31日）

1）シフト等活動状況

ミーティング等稼働状況	回数	のべ人数	
電話相談シフト	359日	846シフト（1シフト3h）	
スタッフミーティング	12回	133	4/19、5/17、6/21、7/19、8/16、9/13、10/18、11/15、12/20、1/17、2/21、3/21
世話人会	1回	6	8/16
緊急スタッフミーティング	1回	16	6/6
平日運営会議	6回	17	4/4、6/20、8/17、11/5、11/10、11/26
感染不安Q&A会議	4回	20	6/22、8/20、9/10、10/22
労働契約に関する会議	4回	14	9/24、9/25、9/29、9/30
東京都電話相談全体会	0回	0	
東京都ボランティア講習会	0回	0	
個別ミーティング	12 回	28	4/2、4/15、4/21、5/3、5/8、5/12、5/14、5/26、5/28、6/2、6/13、6/16
シフト引き継ぎ	2 回	6	9/26、3/28
ホットライン部門研修	2 回	11	10/4、10/25
モニタリング	2 回	4	
実地研修	4 回	10	
新人修了ミーティング	1 回	3	12/6
東京都電話相談連絡会	12回	24	4/17、5/8、6/12、7/10、8/14、9/11、10/9、11/13、12/18、1/8、2/12、3/12

5. 活動実績（2020年4月1日～2021年3月31日）

2) 新人スタッフ研修

他部門と共同の募集を実施。合同でのオリエンテーション・基礎学習を行なった後、ホットライン部門の専門研修を実施した。

(1) 合同研修事前オリエンテーション
(2) ぷれいす東京スタッフ合同研修
(1)(2)の詳細については、事務・総務部門の報告を参照

3) ホットライン部門研修

電話相談員に必要な基礎講義を学習後、各研修生とも相談電話事例を用いてロールプレイング、電話相談のモニタリング、実地研修の個別指導へ。全課程修了後、再度本人の意思を確認し、ホットラインスタッフに迎えた。研修の実施・指導はホットライン部門の世話人を中心に、現役スタッフが担当した。今年度は研修全体を見直し、日数と時間を短縮した。またコロナ感染拡大を受け、部門別研修を全てリモート研修に変更した。

ぷれいす東京合同研修
※事務・総務部門の報告を参照
- 事前オリエンテーション
- 合同研修（2 日間）or 補講

ホットライン部門別研修［1 日目］：6 時間
- グラウンドルールの確認
- ピア・カウンセリング
- HIV 検査について
- 相談デモンストレーション
- リスクアセスメント

ホットライン部門別研修［2 日目］：5 時間
- グラウンドルールの確認
- 検査相談デモンストレーション
- ロールプレイング（1）～（3）
- 質疑応答／研修振り返り
- モニタリング／実地研修に向けて

モニタリング：各 3 時間× 1 回
- グラウンドルールの確認
- モニタリング
- ケース毎の振り返り
- 実地研修に向けて疑問点の解消
- 振り返り

実地研修：各 3 時間× 2 回
- グラウンドルールの確認
- 実地研修
- ケース毎の振り返り
- 知識の確認
- 振り返り（毎回）／今後について（最終回）

〔講師〕生島 嗣（ピア・カウンセリング）・折茂 淳（HIV 検査について）
〔担当スタッフ〕阿曽 義文 / 足立 惟子 / 佐藤 郁夫 / 白幡 素子 / 丸井 淑美 / 山田 恒

6. スタッフの声

「東京都電話相談がぷれいす東京に移って」

織部 佳積

2019 年の冬、平日の東京都 HIV/ エイズ電話相談がこれまでの委託先では存続不可能と分かった時、毎日毎日、ただ、相談者一人一人の声だけが頭を巡っていた。「ここに繋がる事が出来て本当に良かった」「誰にも話せなかった」「ようやく安心出来た」…そして、安堵で泣く声を思い出し、東京都の電話相談が担って来たものの重さを痛感した。

ぷれいす東京が平日の電話相談を引き継いでくれると分かった時、本当に有り難かった。ぷれいすに移って来て最初に電話を取った時、ただもう嬉しくて、顔が意味なくにやけていたのを良く覚えている。

とは言え、引き受けて下さった途端に新型コロナの大流行があり、他にも大変なことがいろいろ起きた中、1 日も欠かさず電話相談が続けられたことは、素晴らしいと思う。特に、若いスタッフの皆さんは、とても良いチームワークでシフトを回して下さっている。相談は、人の心の重荷を受け取る場なので、精神的にきついことも多い。これからも、皆の力で、何でも話し合い、楽しく続けていければ嬉しく思う。

「正しくやさしい電話相談を目指して」

木津 英昭

ホットラインのボランティアを始めて一年になる。「HIV に感染したかもしれない」… かかってくる電話の主訴は大体が感染不安だ。コロナ騒ぎがピークの時には（今もそうではあるが…）相談件数も減ってしまい「HIV は感染症の王様じゃなかったのか？ぽっと出のコロナなんかに圧されてどうするんだ！」と憤ることもあったが、最近はまたもとの相談件数に戻りつつある。

いろいろな相談がある。いろいろな人がいる。みんな不安を抱えている。HIV はもう怖い病気ではない。医学の進歩のおかげで死の病ではなくなった。その事実をうまくシェアできたらと毎回試行錯誤だ。少しでも電話を切った後に楽になってほしい。そういう思いで受話器をとる。

一年やってボクは少し変わった。HIV について正しい知識を自分の言葉で語り続けていたら、HIV のイメージがボクの中でいい風に変わってきたんだ。。正しい知識がボクをやさしくする。　検査前の不安相談に「HIV じゃないから大丈夫」とは伝えられなくても、「HIV でも大丈夫」は嘘偽りなく差し出せることができるようになった。これからどんな風になるかはわからないが、正しくやさしい電話相談員であり続けたいと思う。これからもよろしくお願いします。

「電話相談は生もの」

長月 博之

「電話相談は生もの」という言葉を研修中に初めて聞いた時、私のイメージは「この相談は一度きりだ」とか、「保存が利かないものだ」とか、やや漠然としたものに終止していたように思います。そして現在“試用期間中”ではありますが、実際にホットラインのシフトに入るようになり、この言葉の意味するところが、自分なりにですが、少しだけ分かったような気がしています。

実際の相談は、想像以上の「緊張」を伴うものでした。これは私がまだ業務に慣れていないからということだけが要因ではなく、今現在、対話する相談者と自分を意識したことから生まれた「緊張」だったように思います。つまりそれは、相談者が発する一つ一つの言葉には、話を聞いてほしいという切実な思いや、HIV/ エイズに対する強い不安が濃密に含まれていて、私がその思いをしっかり認識し、受け止める準備ができた時に、初めて表れる状態でした。この「緊張」状態の中で交わされる対話の内容は、常に動き移ろいますが、正しい知識や正確な情報などによって、落ち着いたり、一定の場に収まったりします。私はこの一連の流れが、「生もの」と呼ばれる所以なのかなと感じました。

「緊張」を伴う今、研修中たくさんの先輩スタッフさんから教えて頂いた心構えやノウハウを、あらためて理解したり再確認したりしています。晴れて“一人前”スタッフになれるよう、頑張りたいと思います！

7. まとめ

今年度の大きな特徴は、2020年1月より開始した平日電話相談の運営と新型コロナウイルスの感染症対策を同時に進めたことである。この1年を通して強く実感したのは、電話相談は「今社会で何が起きているのかを映す鏡である」ということである。以下、電話相談を通じて見えてきた新型コロナウイルスの影響の事例をいくつか挙げたい。

①**相談件数への影響** … 1年を通して相談件数が日/時間帯によって大きく変動し、全体的に減少傾向が続いている。社会の関心がコロナに向かう一方でHIVへの関心が薄れていることを実感し、懸念している。

②**HIV検査状況への影響** … コロナ感染拡大の影響を受けて、全国でHIV検査を中止する保健所が増えている。電話相談でも「検査を受けたいが地元の保健所が検査をやっていない。どうしたらいいか？」といった、検査を受けにくい現状を反映した相談が増加した。

③**HIV検査の精度に関する問い合わせの増加** … 新型コロナウイルスの検査としてPCR検査が広く世の中に知られるようになった。新型コロナのPCR検査の精度に関する報道(「1回目の検査では陰性と出たのに、2回目の検査では陽性となった」などの事例の報道)が出るようになると、HIV検査の精度に関しても不安を感じた相談者から問い合わせが増えた。

④**外国人陽性者への影響** … 来日中の外国人陽性者から「コロナの影響で、これまで母国で入手していた抗HIV薬が入手できなくなった」といった相談がくるようになり、ぷれいす東京ポジティブラインとの連携がますます重要になっている。

また平日電話相談の開始とコロナの感染拡大により、シフトに入る相談員一人一人の負担が増えた。何よりも、相談員は相談者の様々な不安をじかに受け止めるため心の負担も大きく、相談員のメンタルケアの必要性を感じている。

一方で陽性者相談やPEP/PrEPに関する問い合わせなど、専門知識を必要とする相談も増え、相談員の知識情報のアップデートも必要になってきている。感染症対策、相談員のメンタルケアや最新の知識情報のアップデートなど様々な取り組みを同時並行で進めながら、今後も各スタッフが電話相談を安心して継続できるような環境作りをしていきたい。

［データ作成と報告］阿曽 義文　　［まとめ］楊井 怜子

部門報告（Sexual Health Project）

性の健康とHIV/エイズをテーマに活動しています。

SHPミーティング（参加人数）

・2020年11月21日（土）4人
・2020年11月23日（月）6人
・2021年3月9日（火）お花見準備会　3人

動画配信などの手伝い

・2020年6月 活動報告会　1人
・2021年2月 佐藤郁夫さんの追悼メッセージの貼り付け作業　2人

SHPスタッフが 企画・運営したイベント

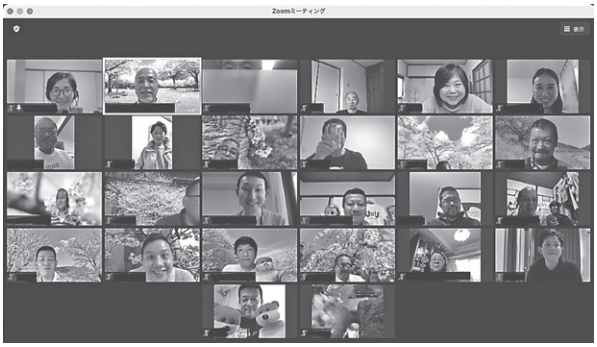
・2021年3月21日（日）13：00～　お花見　4人

SHPスタッフが 企画・運営したイベント

・オンラインお花見会

毎年恒例のお花見でしたが、COVID-19の影響で2020年、2021年と開催することができませんでした。そこで、2021年3月21日（日）に、オンラインお花見会を開催しました。スタッフも含めて26アカウント27名（1組カップルでご参加）でした。鎌倉から桜を中継してくださった方もおり、多少なりともお花見気分を味わって頂けたのではないでしょうか。途中、ブレイクアウトルームを利用して、「大阪について」、「趣味の話」、「佐藤郁夫さんについて」「酒飲みの部屋」の4つのテーマに分かれてそれぞれ話していただきました。

以下の写真は、当日の参加者の同意を得て、撮影しました。



1. 電話相談

●2020年度活動記録

(1)実施日

毎週土曜日　19時～21時

(2)年間相談活動日数

29日（2019年度：49日）

※4/11 ～ 6/13の土曜日

（新型コロナ感染症拡大による中止）

※1/9 ～ 3/27の土曜日

（相談員確保が難しくなったため中止）

(3)電話相談活動時間数

58時間（2019年度：98時間）

(4)相談体制

相談員４名（1/19から３名）＋シフト担当１名

(5)年間相談件数

69件（うち陽性者等の相談９件）

（2019年度：相談件数171件、うち陽性者等23件）

(6)ろう者ゲイ（聴覚障がい者）のメール相談

0件

●2020年度相談件数

(1) 全般

表１は月別の相談件数および１日あたりの平均件数を表している。

2020年度の年間相談件数は前年度と比べ、102件減少した。コロナ感染症などにより中止にしたので減少するのは分かっていたが、通常に相談活動のあった月もほぼ全て前年より平均件数が減少した。１日あたり1.91件の減少だった。

表１　月別の相談件数及び一日当たりの平均件数

		2020年度			（参考）2019年度		
年	月	相談件数（件）	実施日数（日）	平均件数（件）	相談件数（件）	実施日数（日）	平均件数（件）
2020年	4月	3	1	3.00	17	4	4.25
	5月	0	0	0.00	14	3	4.67
	6月	5	2	2.50	17	5	3.40
	7月	9	4	2.25	17	4	4.25
	8月	13	5	2.60	16	5	3.20
	9月	8	4	2.00	12	4	3.00
	10月	11	5	2.20	11	3	3.67
	11月	10	4	2.50	18	5	3.60
	12月	10	4	2.50	10	4	2.50
2021年	1月	0	0	0.00	11	4	2.75
	2月	0	0	0.00	15	5	3.00
	3月	0	0	0.00	13	4	3.25
	合計	69	29	1.63	171	50	3.46

(2) 相談時間

表２は相談時間を10分単位にまとめたものである。

2020年度は、10分以内で終わる相談が５割以上であった。なお、1件あたりの平均相談時間は12.99分で、前年度の11.47分より増加した。21分～ 30分の相談が大幅に増えた。

表２　相談時間

相談時間（分）	2020年度		2019年度	
	件数	割合	件数	割合
～ 10	39	56.5%	107	62.6%
11 ～ 20	12	17.4%	30	17.5%
21 ～ 30	11	15.9%	14	8.2%
31 ～ 40	5	7.2%	15	8.8%
41 ～ 50	1	1.4%	4	2.3%
51 ～ 60	0	0.0%	1	0.6%
61 ～	1	1.4%	0	0.0%
合　計	69	100.0%	171	100.0%

(3) 相談者の年代

表3は相談者の年代別の相談件数を表している。

2020年度は30代は増えたが、20代・40代が前年より減少し、年代不明が50%以上になった。特定のリピーターが相変わらず続いているのが理由だと思う。

表3　年代別の相談件数

年代	2020年度		2019年度	
	件数	(割合)	件数	(割合)
10代	0	0.0%	8	4.7%
20代	7	10.1%	34	19.9%
30代	17	24.6%	20	11.7%
40代	7	10.1%	24	14.0%
50代	1	1.4%	2	1.2%
60代以上	1	1.4%	2	1.2%
不明	36	52.2%	81	47.4%
合　計	69	100.0%	171	100.0%

(4) 相談電話の発信地域

表4は相談電話の発信地域を示している。

2020年度は前年度と大きくは変わらなかったが、発信地不明が年代と同じく50%以上になった。

表4　相談電話の発信地域

地域	2020年度		2019年度	
	件数	(割合)	件数	(割合)
東京	10	14.5%	24	14.0%
東京以外の関東	10	14.5%	28	16.4%
関東以外	11	15.9%	36	21.1%
不明	38	55.1%	83	48.5%
合　計	69	100.0%	171	100.0%

(5) 相談電話の情報源

表5は相談電話を知った情報源を表している。

2020年度は、「インターネット」と「携帯電話・モバイル」の合計が33.3%で、前年度より減少し、「インターネット」が43.3%から31.9%と減少した。

表5　相談電話を知った情報源

情報源	2020年度		2019年度	
	件数	(割合)	件数	(割合)
ゲイ雑誌	1	1.4%	2	1.2%
検査機関・パンフレット	0	0.0%	1	0.6%
他の相談電話	3	4.3%	0	0.0%
インターネット	22	31.9%	74	43.3%
携帯電話・モバイル	1	1.4%	3	1.8%
口コミ	0	0.0%	2	1.2%
その他	4	5.8%	1	0.6%
不明	38	55.1%	88	51.5%
合　計	69	100.0%	171	100.0%

(6) 相談者のセクシュアリティ

表6は相談者のセクシュアリティを表している。

「ゲイ」からの相談が8割近くを占めている。Gay Friends for AIDS 電話相談(以下、Gフレ電話相談)の対象外のセクシュアリティからの相談が2割以上から1割に減り、他にやっている電話相談がない時間帯でも掛かってくることが少なくなった。

表6　相談者のセクシュアリティ

区分	2020年度		2019年度	
	件数	割合	件数	割合
ゲイ	62	89.9%	121	70.8%
ゲイ周囲	0	0.0%	0	0.0%
既婚者・バイセクシュアル	0	0.0%	9	5.3%
男性に性的興味を持った	1	1.4%	2	1.2%
レズビアン	0	0.0%	0	0.0%
トランスセクシュアル等	0	0.0%	0	0.0%
異性愛者(男)	4	5.8%	10	5.8%
異性愛者(女)	0	0.0%	11	6.4%
不明	2	2.9%	18	10.5%
合　計	69	100.0%	171	100.0%

●相談内容について

2020年度は、69件の相談のうち陽性者対応9件(後述)と異性間性行為(男・女)5件と無言0件を除いた55件について検討し、HIV関連相談とHIV以外の相談に分類した。前年度と同様に1回の相談で複数の内容の相談が寄せられているケースも見受けられた。複数の相談を独立させて計上した結果、HIVに関連した相談が118ケース、HIV以外の相談(非HIV関連)が64ケース、合計182ケースとなった。

また、ろう者ゲイ(聴覚障がい者)のメール相談は0件であった。

(7) HIVに関連した相談…118ケース

図1はHIV感染不安や検査あるいはHIV以外の性感染症(STI)などに関する相談(以下:「HIV関連相談」)の内訳である。

2020年度の相談の特徴を前年度と比較してみると、「他のSTI」が7.1%→12.7%と増加し、「予防なしアナルセックス感染不安」が7.1%→7.6%、「アナルセックスとフェラチオ両方の行為の感染不安」が5.4%→6.8%、「検査に関して」が19.6%→20.3%とほぼ変動なし、「予防なしフェラチオ感染不安」が7.6%→1.7%と減少した。

リスクのある行為をして相談してくるケースは、前年度同様にリスクが有る事を分かっていながら、行為を止められないといったケースが複数あり、前年度から継続して相談して来ているケースもあった。その様な相談には今後の予防について共に考えると同時に検

査により現状を知る事をアドバイスしている。フェラチオに関する相談は、毎年のことであるが、する側・される側ともに予防をしている者は、相談票の記載からは読み取れなかった。アナルセックスでは適切な予防をしながらもフェラチオをする事による感染リスクを知らず行為の後に不安になり相談してきたケースが複数あった。

「その他の性行為の感染不安」では、相手の正常な皮膚を舐めた等、感染の可能性の無い行為で心配になり相談してきたケースが目立った。

「予防の情報提供」に関しては、今年度も、どの様にセーファーセックスをしたら良いか迷っている相談者に相談員の経験を基に、適切なアドバイスを行っていたようだ。

(8) HIV以外の相談(非HIV関連相談)…64件

図2は、セクシュアリティ(性的指向)、ライフコース(ゲイとしての生き方)、そして人間関係などゲイとしてのアイデンティティに関わる「非HIV関連相談」の内訳である。

前年度と比較すると「ライフコース(ゲイとしての生き方)」が13.6％→12.5%、「メンタルヘルス等」が7.4%→7.8%、「セクシュアリティ」が13.6%→10.9%、「恋愛・人間関係」が7.4%→20.3%と変動した。

ライフコース(ゲイとしての生き方)」では、カミングアウトやハッテン場に関する相談などがあった、「恋愛・人間関係」では、出会いの機会、結婚しているが男性と関係を持っていると言った相談などが寄せられた。

「セクシュアリティ」では、自分の性的指向への迷いに関する相談などが寄せられた。

(9) 陽性者等の対応について…9件

2020年度の陽性者等の対応は、HIV陽性者からの相談が9件、パートナーや友人など陽性者本人以外からの相談が0件、検査での要確認の相談が0件で、全相談件数に対する陽性者等の割合は、直近の3年間では、14.1％→13.5%→13.0%と推移している。

陽性者等の相談内容は、周囲への告知や黙っている事の悩み、発症による感染発覚後、どれ位、生きられるかといった相談や、日々の生活の中で襲ってくる漠然とした不安、他の陽性者と話がしたい、関係を持った相手への通知をどうしたらよいか、という相談などがあった。

図2　非HIV関連相談の内訳（n=64）

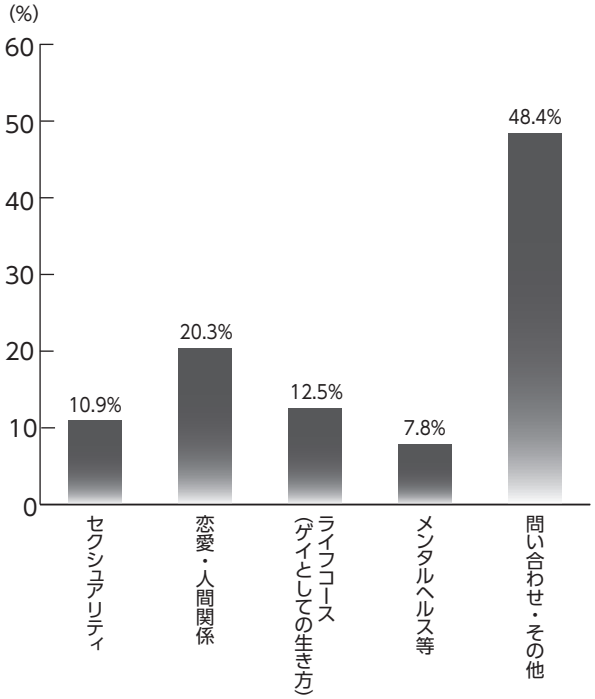
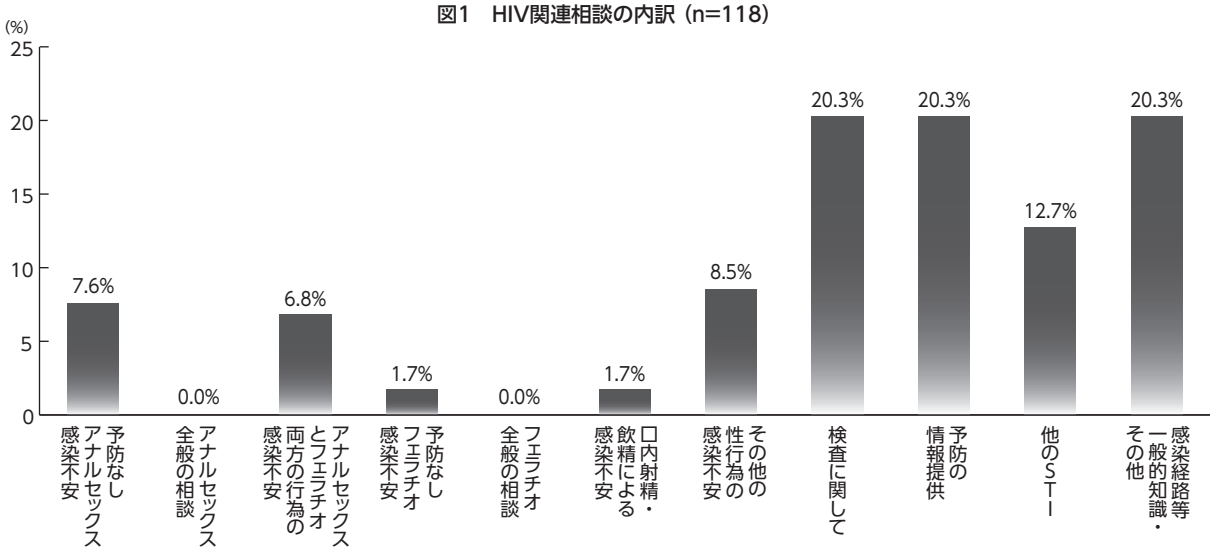


図1　HIV関連相談の内訳（n=118）



●今後の課題

A. 相談員の増員、学習等

今年度も仕事の関係などでシフトを変更する事が非常に多かった。その際にはシフト調整係が活躍した。

今後、仕事などの関係でシフトに入れなくなるスタッフが出る事も考えられるため、引き続き人員の育成を検討していく必要がある。

B. 相談日数・時間枠の検討と広報の必要性

今年度の相談件数は、コロナ感染症などで中止していた時期があるので、単純に前年度と比較が出来ないので割愛する。

広報では、今年度は情報源の不明件数が過半数だったが、やはりインターネット及び携帯電話モバイルで知った相談者が多いので、そこに重点的に広報をして行きたいと思う。

C. 陽性者等の対応に関して

今年度は13%しかなく過去5年間で一番少なかった。これは、ポジティブラインが土曜日もやっていることや、過去に頻繁にかかっていた陽性者のリピーターから、かかってこなくなったからかもしれない。相談員それぞれにHIVとの関わり方に違いはあるがHIVを身近に感じているゲイとして、これからも陽性者等が孤立しないよう対応していきたい。

専門性の必要とされる情報に関しては、適切な相談機関を案内しているが、Gフレ電話相談実施時間に他の相談電話が実施されていない事を考えると、現在よりも陽性者の必要とする情報等について更に知識を深めて行く努力をしていきたい。

D. 非HIV関連相談に関して

今年度も様々な相談が寄せられた。非HIV関連の相談では、相談員ごとの価値観の違いにより、回答に違いが生じると思われるが、人それぞれ置かれた環境の違いから相談者自身でしか答えを出せない事、他の相談員の場合違う回答になる可能性を伝えた上で、自身の経験など参考になりそうな話をしている。

専門外ではあるが、セクシャリティやゲイとして生きる事など、相談機関が少ない事などを考えると今後も可能な限り対応していきたい。相談者の今後の人生の選択に大きく影響する事も考えられるので、今後もミーティングやケースカンファレンスで情報を共有し、様々な考えや指向など共有していきたい。

【データ作成・報告】よし

2. イベントでの活動

●TOKYO AIDS WEEKS 2020

世界エイズデー展 in プライドハウス東京レガシー

日時：11月27日（金）～12月14日（月）

会場：LGBTQセンター『プライドハウス東京レガシー』にて、世界エイズデーの企画展

このイベントは、TOKYO AIDS WEEKS 2020参加イベントとして開催

以下、告知文。

2006年6月～2012年9月まで、ユウジさんにより、3ヶ月に1度、6年に渡り綴られた日記「僕らのポジティブ・ダイアリー」を展示します。2年前にHIV感染を知ったユウジさんがその事実と向き合いつつ、家族、恋人、友たちとの何気ないやり取りの中で感じたことが、エピソードがユウジさんの感性で綴られています。

合わせて展示するのが、堀井ヒロツグさんの写真“Voices / からだの声を聴く”（2014）。

また、U=U（効果的なHIV治療＝セックスの相手に感染しない）の展示も行います。あなたのHIV/AIDSの知識をアップデートしてください。会場にはあなたの声を投稿できるポストも設置します。

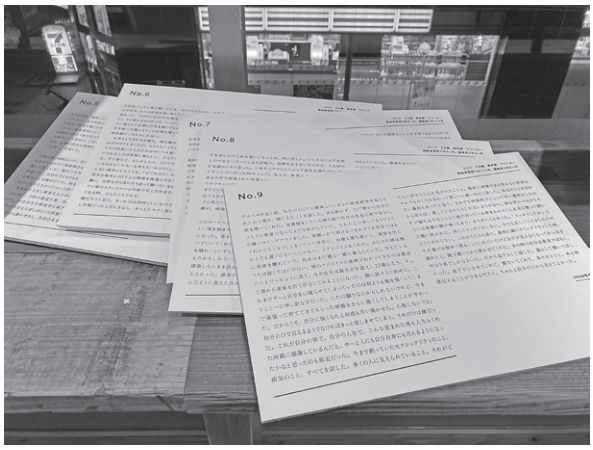
主催：PRIDE HOUSE TOKYO「ウェルネスサポート・ソーシャルケア」チーム

共催：認定NPO法人ぷれいす東京、NPO法人akta。

●TOKYO AIDS WEEKS 2020報告文

2020年11月27日（金）～12月14日（月）に開催された、プライドハウス東京レガシーでの「世界エイズデー展」は、Gフレにとっては久々の展示メインのイベントとなりました。

ユウジさんの手記パネルが会場のカウンター席一面に並び、ひとりの陽性者の心境などを時系列で現在まで追いかけたあとに、aktaさんのU=Uの展示をご覧いただく構成となっており、様々な「変化」を感じられるイベントになったと思います。閉館ギリギリに来られた方の中には全ての手記を読みたいということで日を改めて再訪された方もいたようです。



プライドハウス東京、NPO 法人 akta、ぷれいす東京の３団体共催ということでしたが、展示用のパネルの準備や撤収は他団体スタッフのかたにもお手伝いいただきました。特に、展示にあたり当初はパネルを手に取って読みやすいスタイルでお読みいただけるようにと考えていたところ、パネルに触れずに読める形にしたほうがコロナ対策に良いということで、プライドハウスの皆様がレイアウトを改善してくださいました。また手記ライターのユウジさんには書き下ろしの手記を提供いただきました。お手伝いいただいた皆様ありがとうございました。

（sakura）

●最後に

今年の Gay Friends for AIDS の活動は大きな変化の時となった。電話相談は、新型コロナウイルスの影響で、４月から 10 日間、翌 1 月から 22 日間、相談員確保が難しくなったため相談を中止した。

例年、ブース出展などをしていた、東京レインボープライドパレード 2020 もオンラインだけとなり、特に活動は行わなかった。

TOKYO AIDS WEEKS2020 では、プライドハウス東京レガシーにて、世界エイズデー展を開催した。

Ⅰ．活動概要

主な活動は、ネスト・プログラムの企画・運営、プログラムのための人材育成・研修である。

(A)ネスト・プログラム

HIV陽性者やそのパートナー、家族が、安心して話し合ったり、学習や情報交換をしたり、交流したりすることを目的としている。プログラムの多くはHIV陽性者を対象としているが、陽性者のパートナーや家族を対象としたものも開催している。プログラムに参加するには事前の利用登録が必要で、事務所にて専任相談員が当事者確認をし、守秘義務などのルールに同意を得た上で行っている。2020年度からはオンラインでも利用登録ができるようにした。プログラムでは、相談員や司会進行役のスタッフのもと、毎回、最初にグラウンドルールを確認している。

また正式なネスト・プログラムではないが、相談の延長線上でいくつかの小グループ・ミーティングを開催している。今年度は新たに、ZOOMの使い方に自信がない方のためのZOOM初心者ミーティングと、プログラムについてのご意見を伺う会として「ぷれいすトーク in ネスト」を開催した。

ネスト・プログラムに関わるスタッフ、相談員などで会議を設け、企画運営をしている。また、毎月ネスト・ニュースレターを発行して、ネスト・プログラムの案内などを掲載している。メール版も配信し、Web上やSNS（Facebook・Twitter）でも広報している。ニュースレターのPDF版も公開している。

2020年度は、新型コロナウイルスの影響などにより複数のプログラムを休止し、これまで対面で開催していたプログラムをオンラインで開催した。これについては、第34回日本エイズ学会学術集会・総会にて、「ネスト・プログラムのオンライン開催についての考察」のタイトルで加藤が発表を行った。これまでのプログラム参加に関するグラウンドルールに加えて、オンライン参加の際のグラウンドルールを新たに設けた。

ネスト　ZOOMミーティング・グラウンドルール

① ミーティングへの参加は登録した人、本人のみです。登録名でご参加ください。

② 一人で参加できる環境を準備してください。
パートナーや家族（同居人）も参加できません。

③ ミーティングのURLの転送や他人への開示は厳禁です。

④ 画面のスクリーンショットや撮影（録音）は厳禁です。

⑤ 顔出しでのご参加をお願いします。

また前述の通りZOOMの操作に不慣れな方向けに「ZOOM初心者ミーティング」を立ち上げた。さらに参加者や進行役のネスト・スタッフからの意見を参考に、進行などについて工夫を重ねながらプログラム運営を行っている。

(B)人材育成・研修

2012年度より積極的に人材育成を行なっている。ぷれいす東京のボランティア合同研修修了者を対象に、ネスト・スタッフ研修を行なっている。また、プログラムのセクレタリー（受付業務）やファシリテーター（司会進行役）として活動するスタッフには、別途、オリエンテーションと実地研修を行なっている。プログラム参加者の中から、スタッフとしても活動に参加するHIV陽性者やパートナーも増加している。従来新陽性者PGMにほぼ限定されていたピア・ファシリテーターによるミーティングの運用を、他のプログラムへと拡充している。

Ⅱ．2020年度活動実績

(A)ネスト・プログラム
（2020年4月1日～2021年3月31日）

○スタッフ数（2021 年 3 月 31 日現在）　5 名
○ネスト・スタッフ数（2021 年 3 月 31 日現在）73 名
○実利用者数　145 名
（うち新規利用者数　48 名）
○のべ利用者数　570 名
（うちピア・ファシリテーターなど積極的参加　73 名）
○プログラム開催数　103 回
プログラム内容は**表 1** を参照
○ネスト・ニュースレター　月 1 回　年 12 回発行

その他に、ネスト・プログラム・スタッフ会議や、新陽性者 PGM ファシリテーターによる各回・各期の振り返りミーティング、その他各プログラム担当ファシリテーターやセクレタリーの振り返り、多目的室の整備など、ネスト・プログラムを運営していくために、陽性者が積極的に関わって多くの会議や活動が行なわれている。

(B)人材育成・研修

○ 2020 年度 ネスト・スタッフ研修修了者数　5 名

表1　ネスト・プログラムと参加状況

プログラム名	実施回数	のべ参加者	ピア・ファシリテーターなど	スタッフ・ファシリテーターなど	セクレタリー	講師・ゲストなど
(イ)グループ・ミーティング	**57 回**	**334 名**	**53 名**	**31 名**	**46 名**	
1 新陽性者ピア・グループ・ミーティング(PGM)	14 回	62 名	18 名	15 名	14 名	—
2 ミドル・ミーティング(40才以上の男性陽性者)	12 回	142 名	3 名	12 名	5 名	—
3 U40ミーティング(10代,20代,30代男性陽性者)	12 回	33 名	15 名	—	12 名	—
4 異性愛者のための交流ミーティング	12 回	68 名	12 名	—	12 名	—
5 ミックス・トーク10(MT10)	1 回	5 名	2 名	—	1 名	
6 陰性パートナー・サポートミーティング	4 回	15 名	—	4 名	—	—
7 群馬サテライト・ミーティング	2 回	9 名	3 名	—	2 名	—
8 川崎サテライト・ミーティング	—	—	—	—	—	—
9 Women's Salon（女性陽性者のためのプログラム）	—	—	—	—	—	—
10 大人女子会（更年期女子会から名称変更）	—	—	—	—	—	—
11 もめんの会(HIV/AIDSを支える母親の会)	—	—	—	—	—	—
(ロ)学習会/ワークショップ/セミナー	**9 回**	**73 名**	**3 名**	**12 名**	**2 名**	**30 名**
1 ストレス・マネジメント講座	6 回	23 名	—	5 名	1 名	6 名
2 アサーション・コミュニケーション	1 回	6 名	—	2 名	—	2 名
3 就職支援セミナー	2 回	44 名	3 名	5 名	1 名	22 名
4 専門家と話そう	—	—	—	—	—	—
5 ベーシック講座「知っとこ！社会福祉制度」	—	—	—	—	—	—
6 ベーシック講座「HIVってどんな病気？」	—	—	—	—	—	
(ハ)交流会	**19 回**	**42 名**	**0 名**	**19 名**	**0 名**	**0 名**
1 就職活動サポートミーティング	9 回	17 名	—	9 名	—	—
2 介護職として働く陽性者のための交流会	4 回	9 名	—	4 名	—	—
3 医療者（看護師）として働く陽性者のための交流会	6 回	16 名	—	6 名	—	—
4 障害者枠で働く陽性者の交流会	—	—	—	—	—	—
5 教師として働く陽性者のための交流会	—	—	—	—	—	—
6 ピア＋トーク	—	—	—	—	—	—
7 カップル交流会（＋/＋or＋/－カップル）	—	—	—	—	—	—
8 パーティ（サマー・年末）	—	—	—	—	—	—
(ニ)小グループ・ミーティング、その他	**18 回**	**48 名**	**17 名**	**17 名**	**2 名**	**0 名**
1 English Speaker's Meeting	6 回	22 名	12 名	6 名	1 名	—
2 ZOOM初心者ミーティング	11 回	19 名	4 名	9 名	1 名	—
3 ぷれいすトーク in ネスト	1 回	7 名	1 名	2 名	—	—
4 既婚者ゲイ・バイセクシュアル男性ミーティング	—	—	—	—	—	—
5 中国語を話すHIV陽性者のミーティグ	—	—	—	—	—	—
プログラム参加者総数	**103 回**	**497 名**	**73 名**	**79 名**	**50 名**	**30 名**

※プログラムはすべてオンライン開催

Ⅲ．2020年度活動報告

(A)ネスト・プログラム

ぷれいす東京 Web サイトの「ネスト・プログラム」には、ネスト・プログラムの報告や参加感想文が多数掲載されているので、あわせてお読みください。

(A)-(イ)グループ・ミーティング

表（イ） ネスト・プログラムと参加状況

プログラム名	実施回数	のべ参加者	ピア・ファシリテーターなど	スタッフ・ファシリテーターなど	セクレタリー	講師・ゲストなど
(イ)グループ・ミーティング	57 回	334名	53 名	31 名	46 名	—
1 新陽性者ピア・グループ・ミーティング(PGM)	14 回	62 名	18 名	15 名	14 名	—
2 ミドル・ミーティング(40才以上の男性陽性者)	12 回	142 名	3 名	12 名	5 名	—
3 U40ミーティング(10代、20代、30代男性陽性者)	12 回	33 名	15 名	—	12 名	—
4 異性愛者のための交流ミーティング	12 回	68 名	12名	—	12 名	—
5 ミックス・トーク10(MT10)	1 回	5 名	2 名	—	1 名	—
6陰性パートナー・サポートミーティング	4 回	15 名	—	4 名	—	—
7群馬サテライト・ミーティング	2 回	9 名	3 名	—	2 名	—

グループ・ミーティングは、2021 年 3 月末現在 11 プログラムある（うち 5 プログラムは今年度休止）。

■ 新陽性者ピア・グループ・ミーティング(PGM)【HIV感染がわかってから6ヶ月以内の陽性者】

HIV 感染がわかってから 6 ヶ月以内の陽性者が対象。少人数（原則 5 ～ 7 名）で、2 時間のミーティングを 2 週間毎に計 4 回実施。2001 年 4 月に第 1 期をスタートし、2021 年 3 月までに通算で 392 回開催、参加者数はのべ 2,118 名（実人数：582 名）。

感染告知を受けて心身共に不安定になりがちな最初の数ヶ月間を同じ立場の仲間と過ごすことで、問題の解決のヒントや先の見通しを得てもらい、新たなスタートを切ってもらうことがこのプログラムの大きな目的である。また、このプログラムをきっかけとして今後も連絡を取り合う仲間を得たり、ぷれいす東京が提供する他のサービスに繋がるきっかけとなる場合もある。

進行は HIV 陽性当事者であるピア･ファシリテーターと、進行を担当するスタッフ・ファシリテーターの 2 名で行うのが原則だが、ピア・ファシリテーター 2 名で進行を行うこともある。

2020 年度は前年度から跨いで開催となった第 102 期の

3 回目からオンライン開催に切り替わった。プログラム中のワークショップ実施の工夫など、各回での反省点を踏まえてアップデートを繰り返している。

■ ミドル・ミーティング【40代以上の男性陽性者】

毎月第 2 土曜日に開催。基本的には 40 代以上の男性 HIV 陽性者が対象。

初参加の参加者がいる回も多く、長く参加している参加者と相互にエンパワーし合う場面も見られる。それぞれが定期的に挨拶を交わすサポート・ミーティングとなっている。

2020 年度は 4 月にオンライン開催を試行し、翌月から本格的にオンラインに移行した。これにより他県など遠方からの参加者も増えている。

■U40ミーティグ【10代～30代の男性陽性者】

原則毎月 1 回開催。曜日や日にちを敢えて固定せずに、様々な人が参加しやすいように開催している。進行は、参加者としての経験もあり研修を修了したピア・ファシリテーターが複数名のチーム体制で担当している。

■ 異性愛者のための交流ミーティング【異性愛の男女の陽性者】

2011 年 9 月立ち上げ。原則奇数月第 4 土曜日と偶数月

第３金曜日の開催。2013年５月より、研修を修了したピア・ファシリテーターが進行を担当。

異性愛の陽性者が交流する場は限られており、この場を通じて難しさを共有できる仲間づくりが広がって、活発なミーティングとなっている。

■ ミックス・トーク10(MT10)【10人までの陽性者】

性別・年代・セクシュアリティなどの枠を超えて、さまざまな人と少人数でじっくり話したいという要望を受けて立ち上げたプログラム。参加は先着10名とし、定員となった場合はキャンセル待ちとなる。

進行は４名のピア・ファシリテーターがチーム体制で担当。

■ 陰性パートナー・サポートミーティング【HIV陽性者の陰性パートナー】

偶数月第１土曜日の開催。海外からの参加者の便宜を図り、10月よりこれまでの13時スタートから17時スタートに変更になった。

セクシュアリティ・婚姻状況などは不問で、男性だけではなく女性のパートナーの参加もあり、多様な参加者が集まっている。陽性者の周囲で生活する人たちにとっては、他でなかなか話せないことを話せる場となっている。

■ 群馬サテライト・ミーティング

現地在住のボランティア・スタッフからの申し出がきっかけとなり、北関東や東北などアクセスしやすい地域の陽性者に向けて2017年１月に立ち上げたプログラム。2020年度は２回開催した。

オンライン化によって地域開催の意味合いが薄れてはしまったが、今後は現地参加とオンライン参加のハイブリッド開催も取り入れつつ、各地域での陽性者ピア・グループ・ミーティグのサポートの一環として継続する予定。

以下のプログラムは2020年度の開催はなかった。

■ Women's Salon【女性陽性者】
■ 大人女子会【女性陽性者】
■ もめんの会【母親を中心とした陽性者の親】
■ 川崎サテライト・ミーティング

(A)-(ロ)学習会／ワークショップ／セミナー

HIVと長く付き合いながら、自分らしく生きていくために必要なスキルを身につけるためのワークショップや、専門家からの情報や、社会制度の基礎など、陽性者に役立つ情報を提供する学習会、企業の人事担当などを招いて行う「就職支援セミナー」などを開催している。

2021年３月末現在６プログラムある（うち３プログラムは今年度休止）。

表（ロ）　ネスト・プログラムと参加状況

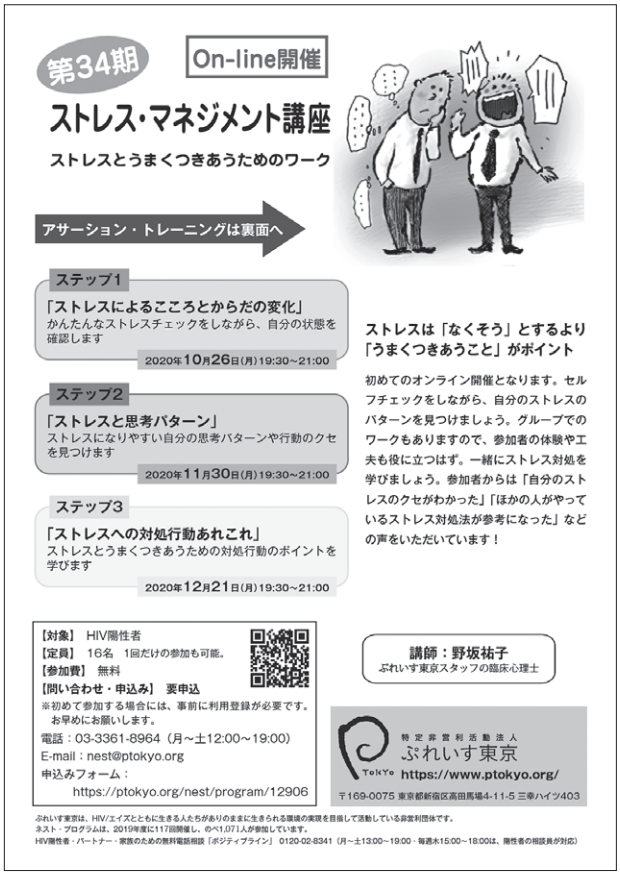
プログラム名	実施回数	のべ参加者	ピア・ファシリテーターなど	スタッフ・ファシリテーターなど	セクレタリー	講師・ゲストなど
(ロ)学習会／ワークショップ／セミナー	9回	73名	3名	12名	2名	30名
1 ストレス・マネジメント講座	6回	23名	—	5名	1名	6名
2 アサーション・コミュニケーション	1回	6名	—	2名	—	2名
3 就職支援セミナー	2回	44名	3名	5名	1名	22名

■ ストレス・マネジメント講座～ストレスとうまくつきあうためのワーク～

各期は全３回のプログラムからなり、ストレスに関するワークをしながらマネジメントスキルを身につけることを目指している。2020年度は34期と35期をオンラインで開催した。

ストレスに伴う心身の状態に自覚的になることや、否定的で極端になりやすい思考や認知について学習することで、ストレスに対する自分の構えや傾向を知ることができる。また、より健康的な対処法を考えることで、ストレスに直面したときに、悪循環に陥らないように積極的な対処をすることができる。

参加者のストレス状態や生活状況は様々であるが、参加者同士で話し合うことで、自分の状態や傾向について新た



な気づきを得ることができる。HIV にまつわる不安や恋愛や性に関する話題も出ることが多く、他の参加者と話し合うことで、安心感が得られたり、新たな対処法に気づいたりするようであった。

■ アサーション・トレーニング～自分も相手も大切にする自己表現～

相手も自分も大切にする自己表現＝アサーティブなコミュニケーションを身につける、ワークショップ形式の講座。これまで対面で 2 日間の開催であったが、オンライン・プログラムに組み直し 1 日で完結する形に変更した。オンライン開催にあたり定員を 16 名に拡大した。

■ 就職支援セミナー

企業の人事担当者などを招き、企業がどのような視点で応募者を見ているのか、求人情報、社内の情報管理や配慮についてなどを話していただき、陽性者の就職・転職活動に役立ててもらうセミナー。

2020 年度は 6 月と 11 月にオンライン開催。プログラムの後半には質疑応答の時間を設けたり、オンラインの特性を活かし、ブレイクアウトルームで希望する企業担当者と直接やり取りできる時間を設けた。

以下のプログラムは 2020 年度の開催はなかった。

■ 専門家と話そう
■ ベーシック講座「知っとこ！社会福祉制度」
■ ベーシック講座「HIV ってどんな病気？」

(A)-(ハ)交流会

表（ハ） ネスト・プログラムと参加状況

プログラム名	実施回数	のべ参加者	ピア・ファシリテーターなど	スタッフ・ファシリテーターなど	セクレタリー	講師・ゲストなど
(ハ)交流会	19 回	42名	0 名	19 名	0 名	0 名
1 就職活動サポートミーティング	9 回	17 名	—	9 名	—	—
2 介護職として働く陽性者のための交流会	4 回	9 名	—	4 名	—	—
3 医療者(看護師)として働く陽性者のための交流会	6 回	16 名	—	6 名	—	—

境遇や立場がより近い陽性者同士で集まって、日ごろ疑問に思っていることや経験を可能な範囲で共有して、交流をする場である。

2021 年 3 月末現在 8 プログラムある（うち 5 プログラムは今年度休止）。

■ 就職活動サポートミーティング

2017年度より隔月土曜日開催であったが、今年度より平日と土曜日を折り混ぜて毎月開催している。様々な立ち位置や希望を持つ参加者の、就職・転職に関する情報交換の場。お互いの状況を聞き合いながら、自分の方向性を考えるきっかけをつかんでもらう場である。

■ 介護職として働く陽性者の交流会

偶数月開催。介護に従事している陽性者同士で、仕事の悩み・将来のことなどを話し合あう場。このミーティングでは、働き方を変えることを検討中の人達からの参加も受け入れている。

■ 医療者（看護師）として働く陽性者の交流会

奇数月開催。介護職と同様、同じ立場の陽性者と話してみたいという要望から生まれたプログラム。日ごろHIVを持ちながら医療現場で働く中で、疑問に思ったり不安に感じることなどについて話し合う場。初期は看護師のみが対象であったが、現在は医療現場で働く有資格者が参加可能となっている。

以下のプログラムは2020年度の開催はなかった。

■ 障害者枠で働く陽性者の交流会
■ 教師として働く陽性者の交流会
■ ピア＋トーク
■ カップル交流会（＋／＋or＋／ーカップル）
■ パーティ（サマー・年末）

2020年度はその他のプログラムとして、新たにZOOM初心者ミーティングとぷれいすトーク in ネストを立ち上げた。

■ English Speaker' s Meeting

初回は「Poetry Workshop “HIV & POETRY”」として、英語の詩を用いたワークショップを開催。2回目以降は英語を話す陽性者同士のグループ・ミーティングとして開催している。英語が堪能なピア・スタッフ3名が運営に携わっている。

■ ZOOM初心者ミーティング

オンライン・プログラムはZOOMを利用しているが、その使い方などに不安を持つ利用者を対象に簡単なレクチャーを行うプログラム。6月にスタートし、8月以降は月に2回のペースで設定している。

■ ぷれいすトーク in ネスト

対面からオンラインへと急激に開催状況が変化したネスト・プログラムの運営について、利用者からご意見を伺う場として設定した新規プログラム。それぞれの視点から貴重な意見を多く頂けた。今後も継続開催し、今後の活動に活かしていく予定。

以下のプログラムは2020年度の開催はなかった。

■ 既婚者ゲイ・バイセクシュアル男性ミーティング
■ 中国語を話す陽性者のミーティング

(A)-(ニ)小グループ・ミーティング、その他

表（ニ） ネスト・プログラムと参加状況

プログラム名	実施回数	のべ参加者	ピア・ファシリテーターなど	スタッフ・ファシリテーターなど	セクレタリー	講師・ゲストなど
(ニ) 小グループ・ミーティング	18回	48名	17名	17名	2名	0名
1 English Speaker's Meeting	6回	22名	12名	6名	1名	—
2 ZOOM初心者ミーティング	11回	19名	4名	9名	1名	—
3 ぷれいすトーク in ネスト	1回	7名	1名	2名	—	—

相談の延長線上でいくつかの小グループ・ミーティングを開催している。中国語や英語など外国語話者のためのミーティングの他、希望者があれば開催を検討するいくつかのミーティングがある。

小グループ・ミーティングは通常のネスト・プログラムのように利用登録を必須としていないが、グラウンドルールの確認などでプライバシーに対する配慮を行なっている。

(B)人材育成・研修

ネスト部門の人材育成・研修は、2012年度に初めて行った。2020年度も新人ボランティア合同研修修了者を対象に、ネスト部門のボランティア募集を行い、11月3日（火・祝）にネスト部門研修をオンラインで開催、ネスト部門を希望した7名のうち5名が参加した。生島とピア・プログラムの担当スタッフ2名が担当し、プログラムでは、ぷれいす東京などのオンライン・サポートについてや、SNS上での経験から学んだことをシェアするような参加型のワークショップを行なった。後半にはぷれいす東京への提案と自分が活動にどう関われるかについて話してもらった。

現在、「ボランティア合同研修」→「ネスト・スタッフ研修」から、プログラムのファシリテーターやセクレタリーへとつながる流れを継続しているが、プログラムのオンライン化に伴い、多目的室の入場時のチェックなどゲートキーパー的な役割を担うセクレタリーや、グループ・プログラムのファシリテーターなど、ネスト・プログラムに関わるボランティア・スタッフの活動の幅が狭まり、充分に活躍してもらうことができなかった。どのようにネスト・プログラムに関わってもらえるかを話し合う「ぷれいすトーク in ネスト」のスタッフ向け版などを活用し、今後、どのよ

うにプログラム運営に携わってもらうか改めて検討していきたい。

Ⅳ．最後に

2011 年 1 月より利用登録制がスタートし、利用者の安全性が大幅に向上した。これまでの利用登録者は 1,308 人（2021 年 3 月末現在）となっている。新型コロナウイルスの影響により、新規利用登録者の数は例年の半数程度に止まった。

ネスト・プログラムでは、利用者である当事者の声からその要望に応える形で新規プログラムの企画を行ってきた。今年度はオンライン化が進んだ一方、休止せざるを得ないプログラムが多く、そのような状況の中でも「ZOOM 初心者ミーティング」と「ぷれいすトーク in ネスト」を新たに立ち上げた。2021 年度に入ってからは、休止中のプログラムも少しずつ再開してきている。

2019 年度の終わりから続く新型コロナウイルスの影響は、今後もしばらくは続く見込みである。オンライン化によって遠方の利用者が参加しやすい環境になった反面、これまでの参加者が離れてしまうというデメリットも発生している。新しいネスト・プログラムのあり方について、運営スタッフだけではなく、現場で関わるボランティア達と共に考えていきたい。

また、ネスト・プログラム・コーディネーターとして活動を支えてくださっていた佐藤郁夫さんが 1 月に急逝した。長年にわたる功績を偲びつつご冥福をお祈りします。

謝辞

今年度も多くの個人のみなさまと団体からご寄付をお寄せいただきました。社会情勢が厳しくなっているなかでご支援いただいたことを深く感謝いたします。助成していただいた東京都福祉保健財団、ご寄付をお寄せいただいたヴィーブヘルスケア株式会社、MSD 株式会社、オフィス Two I（五十音順、敬称略）、そして多くの個人のみなさまに改めて御礼申し上げます。

（文責：加藤 力也、佐藤 郁夫、原田 玲子、生島 嗣）

Ⅴ．感想文

ミドル・ミーティング参加者の感想文
（「ぷれいす東京 Web サイト」2020 年 5 月掲載より）

■「『一人ではない』は大事な事」

太郎（感染告知 1998 年／ 50 代）

二度目の On Line でのミーティングに参加させていただきました。前回は、どんな感じなんだろうと思っていましたが、参加者の皆さんの顔を見ながらのミーティングは、すごく楽しかったです。

今回もあっという間の 2 時間で、参加して良かったと思いました。

今、コロナウイルスの影響で、外出も自粛しなければならない状態が続いています。なかなか人と話す機会が減り、どうしても一人になる事が多くなりました。

そんな中で、On Line でのミーティングは素晴らしい取り組みだと思います。

不安な状況の中、お互い今思っている事、考えている事を話せるのは、「一人ではない」という事を感じさせてくれます。特に、田舎に住んでいる自分にとっては嬉しい事です。

画像越しではありますが、参加された皆さんの笑顔で、元気をいただきました。また明日から頑張ろうという気持ちになれます。

「人と会う、話す」事の大切さを実感しました。ありがとうございました。

早くコロナウイルスが終息して、ミドル・ミーティングが再開される事を楽しみに待ちたいと思いますが、また On Line でミーティングがあれば是非参加させていただきます！

ミドル・ミーティング参加者の感想文
（「ぷれいす東京 Web サイト」2020 年 5 月掲載より）

■「コロナと HIV の接点」

ちゃお（2011 年感染発覚／ 40 代後半）

ミドル・ミーティングに参加したのは数年ぶりだった。しかも、オンラインミーティングに参加するのは初めてだった。それでも参加した理由は、コロナウイルスによる自粛下の生活が続く中、他の人と、特にポジティブの仲間と話してみたいという要求が自分の中で高まっていたためだ。

ミーティングでは「コロナウイルスに対する恐怖から生じるパニックは、HIV/AIDS の流行初期とよく似ている」「以前はゲイだけが感じていた感染症への恐怖が、いまや社会全体に広がった」という趣旨の意見が出て、大いに共感した。一方、「現在の対策は、

クラスター叩きに集中し過ぎるあまり、人の絆を断ち切るなどの負の側面に配慮していない」という指摘も出た。啓発団体ならではの、高い人権意識を感じた。

当事者として、コロナの問題も射程に収めて、感染症と社会の関わりについて幅広く意見交換でき、有意義な時間だった。

ミドル・ミーティング参加者の感想文
（「ぷれいす東京Webサイト」2020年5月掲載より）
■「静かな気づき」

ケン兄（初参加／60代）

On Line会議慣れしているオヤジではあるものの、2時間カメラに向かっているしんどさを危惧していたが、いざ始まってみると、参加者はみな、すんなりと自然体で会議に引きつけられていたようだった。

ありがたかったのは、新薬の情報や、新型コロナ禍中における通院の工夫など、体験者の生の声が聞けたこと。さらに、「On Lineならでは」と感じたのは、地方の方々の参加である。距離を超えて、同じ境遇の人々とふれあえたことは、大きかった。

また、ひとくくりに「ミドル」といっても、（例えば、パートナーシップ制度に対して）40代50代60代の各世代間や、個人間でも感じ方が異なる。それらを知ることで、自分の立ち位置を再確認することができた。

しかし、（心の中の、ひそかな）驚きは、他の参加者の意見に、静かに耳を傾けている自分に気づかされたことだった。20年前告知を受けた当初のドタバタ、副作用による就労困難、感染者に対する就職差別、（ぷれいす東京の方々の支援を受けて）それらとの闘いのすえに、今、自分が、ここに、いる、そして、他の人々の声を聴いている、という静かな感慨であった。

ミドル・ミーティング参加者の感想文
（「ぷれいす東京Webサイト」2020年5月掲載より）
■「収束と終息をオンライン上で願う」

ヒロユキ（40代／感染がわかって1年6ヶ月／服薬して1年2ヶ月）

通常は談話室で行われているミドル・ミーティングが、オンライン上で開催されるということで、機械の苦手な私が果たしてうまくできるのか不安な部分がありましたが、HIV/AIDS等について話す機会が少なくなっていく状況下でしたし、ぷれいす東京さん初の試み！ということで、是非参加してみようと思いました。

ミーティングには専用アプリが使われ、参加申し込みもいつもと違って要予約で、条件をクリアしてホスト（ぷれいす東京さん）から認証されてからの参加、という流れでした。それまでこのアプリを使ったことのない私でもスムーズに入室することができ、個人情報やプライバシーも保護された環境下だったと思います。また、ミーティング中のスクリーンショットや画面撮影の禁止などが、オンライン特有のグラウンドルールとして加えられていたのも、安心の一つでした。

ミーティングの内容はやはり新型コロナウィルスについての話題が中心でしたが、この感染症とHIV/AIDSに共通したり関連すること、非常時での通院やオンライン診療のこと、自粛中の生活などなど…真面目な話から笑顔も多々みられる話まで、いつもの内容盛り沢山のミドルミーティングでした。

また、普段参加しにくい遠方の方が何人かおられたことも印象に残りました。オンラインならではだと思いますし、緊急事態に関わらずこのような開催がまたあってもいいのかな、と思いました。

最後に、オンラインミーティングを企画して事務所から開催してくださったぷれいす東京の職員の方々に、厚く感謝申し上げます。

異性愛者ミーティング参加者の感想文
（「ぷれいす東京Webサイト」2020年5月掲載より）
■「リアルと変わらない温かさ」

まぁちゃん（アラフォー既婚女性／病歴：15年／服薬歴：14年）

オンラインミーティング、2回参加させていただきました。

遠方なので、なかなか東京でのミーティングには参加できず、とても寂しく思っていましたが、オンラインで参加出来て嬉しかったです。

オンラインでも、リアルでのミーティングと変わらない温かさを感じました。参加者のみんなを、近くにいるように感じました。

この疾患から普段の生活に関するお役立ち情報や、みんなの近況・心暖まる話を聞けたり、たわいない冗談を言い合ったり。。。

やっぱりここは、私の大切な居場所です。

コロナが収束しても、時々はオンラインでミーティングをしていただけたらとても嬉しいです。

異性愛者ミーティング参加者の感想文
（「ぷれいす東京Webサイト」2020年5月掲載より）
■「オンラインミーティングに参加して」
T（男性／ 40代／感染歴：5年／服薬歴：5年）

オンラインでのミーティングに２度参加させて頂きました。

初のオンラインミーティング時に一番気になっていたことは…

自宅から参加できるメリットはある。その反面、オンラインであるが故の個人情報等に対しての不安はありました。

通常のミーティング同様ルールの読み合わせから始まり参加されていた方がルールとマナーを守っていることで、ファシリテーターのサポートもあり自分にとっては初対面の方もいましたが、安心してお話しすることが出来ました。

異性愛者ミーティング参加者の感想文
（「ぷれいす東京Webサイト」2020年5月掲載より）
■「繋がれなかった人が繋がれるon-line」
ナナコ（女性／ 30代／感染：10年／服薬：10年）

初めてのオンラインミーティングで、会話のコツを掴むのに少し戸惑いましたが、楽しい時間を過ごさせて頂きました。

人とのコミュニケーションが希薄な中、オンライン上であっても人と接する機会が出来、とても良いシステムですね。

オンラインなら、遠方の方も参加しやすくなって、今まで同じ陽性者と繋がれなかった人の助けにもなるし、定期的な開催があったら良いなと思いました。

ただ実際に会ってお話出来ると、また違う満足感が得られるので、収束したら仲間とまた会いたいです。ありがとうございました。

陰性パートナー・サポートミーティング参加者の感想文
（「ぷれいす東京Webサイト」2020年7月掲載より）
■「安心できました。」
みつる（男／ 40代／ゲイ／初参加）

HIV感染について、非常にセンシティブになっている当事者から、打ち明けられるというのは、打ち明けられた方も責任を感じるし、誰にも相談できない。特に僕の場合はパートナーが感染者で、セーファーセックスはしているが、それはセーフセックスではない。病院も検査で行く程度の者で、感染予防の一般論を聞かされるのみ。結局、折角打ち明けてくれたパートナーに不安感とかをぶつけてしまうことになってしまう。

信頼して打ち明けてくれたパートナーに不安感をぶつけても、さらに悩みを増やすことになるし、行き場が無いな、と思っていながら、調べていた矢先、自分の立場にピッタリなプログラムを見つけて、早速申し込み。初回ということもあって、なかなか自分の話を開けっ広げに話すという所まではいかなかったけど、同じ様な立場の人がいて、でも、接し方は様々で。少し勇気を貰えた。また、参加してもっと色んな話をしたり、聞いたりしてみたいです。

陰性パートナー・サポートミーティング参加者の感想文
（「ぷれいす東京Webサイト」2020年7月掲載より）
■「海外からのオンライン参加」
あきら（男性／ 40代／ゲイ／ 2回目）

仕事の都合上、海外で生活しています。日本で生活しているパートナーからHIV陽性だという告白を受けて、どうしてよいかわからず、こちらにお世話になりました。このプログラムが、コロナの影響でオンラインミーティングになったことによって、東京以外からも簡単にアクセスでき、相談に乗ってもらえる機会が出来たので、私にとっては非常にありがたい機会でした。

HIVに関わる多くの、さまざまな境遇の人が、どこからでもアクセス出来るいい機会だと思います。オンラインでの開催は、直接会って話をするよりも話はし辛い一面がありますが、より多くの人がアクセス出来、遠方で悩みを一人で抱えている人にとっての救いになると思います。

第14回就職支援セミナー参加者の感想文
（「ぷれいす東京Webサイト」2021年3月掲載より）
■「初めてのブレイクアウトセッションが新鮮でした。」

t（服薬15年／40代）

就職支援セミナーは、過去に何度か参加したことはありましたが、今回はスタッフさんの方で、よくある質問は事前に参加企業様にお尋ねし取りまとめておいてくださったり、セミナー後にZOOMのブレイクアウトセッション機能を使って少人数グループで話をする機会が設けられていたりと、とても新鮮な内容でした。

第14回就職支援セミナー参加者の感想文
（「ぷれいす東京Webサイト」2021年3月掲載より）
■「会場での開催希望！」

ZoomZoom（感染告知2005年／服薬歴8年／参加5回目／50代）

今回多分5回目の参加になると思われます。コロナ禍でZoomでの開催となりましたが、早くFace to Face開催となり人事担当者の熱意を直に感じたいと思います。どうしても外資系ばかりが多くなりハードルが高いと感じますが、給与が渋い現実を突き付けられたことが強い印象となります。

第14回就職支援セミナー参加者の感想文
（「ぷれいす東京Webサイト」2021年3月掲載より）
■「就職支援セミナーに参加して」

俊俊（感染告知2007年4月／服薬歴13年）

6年ぶりの就職支援セミナーでしたが、あの頃よりも遥かに就職への門戸が開かれてきたと感じました。昔はスキルの高い人のみが、障害者であること、LGBTであることを乗り越えられるものだと思いましたが、今回は、それぞれが履歴書の1項目になりつつあるんだと思いました。あと、参加企業の方々から、いつでも問い合わせくださいとの言葉がありましたが、いつでも問い合わせ可能な企業様の情報がぷれいすに問い合わせすれば開示されたら嬉しいとも感じました。

第14回就職支援セミナー参加者の感想文
（「ぷれいす東京Webサイト」2021年3月掲載より）
■「就職支援セミナーに参加して」

ミツ（初参加／50代）

この企画を知ったのは、約7年振りにぷれいす東京に面談に訪れた9月の終わりでした。車の運転しか取り柄が無い自分が、同性愛者やマイノリティに理解を示さない企業に10年以上勤めていた。会社を辞めたばかりであり、とにかく仕事先が無い現状の中、藁をも摑む感じでとにかく参加させて頂きました。

参加を直前に表明したり、ぷれいす東京のスタッフにはご迷惑お掛けしましたが、セミナーの事前の説明会ではzoomやスマホ等の操作方法を懇切丁寧に教えて頂き本当に助かりました。しかしながらやはりパソコンはおろか普段のスマホ操作もろくに操作出来ない自分には、本番のセミナー参加に当たって、ちょっとした不安が有ったのも事実でした。

当日は1時間前から準備をしましたが、自宅にWi-Fi環境が無いので、今回のセミナーをやるに当たって、音漏れの心配の無いカラオケボックスしか適当な場所が見つけられず、雑音にまみれながら、参加にのぞみました。

案の定スマホ操作に苦手な自分は、Wi-Fiのやり方が分からない所からつまずき、もう本番直前なのに、ｚｏｏｍが繋がらず、一応ぷれいす東京はには予め参加表明をしていた筈だったのですが、してなかったらしく、こちらから慌てて連絡を取り、本番の1分前に繋がった状態で、よりによって一番関心の有った企業さんが、一番最初に企業説明をして下さったのに、音は聞こえても画像は見えない有様でした。

二社目に企業説明が始まる頃には画像が見れた所に、隣の部屋にはお客さんを入れないと店の方から申し出たのにカラオケが始まり、企業さんや主催者や参加者に雑音で迷惑を掛け、申し訳なく思いました。

各企業毎の質疑応答では、同じ質問をされた方や、他の参加者を代表した様な分かり易い質問をする方が居て助かった反面、お一人の方がずっと企業さんに熱心に聞かれていた方も居られました。

ｚｏｏｍでは無く、本当に直に企業の方の声を聴きたかったのが本音ですが、企業様と主催者であるぷれいす東京そして参加者の熱意の籠もったセミナーだったと思います。

後、私の様に機械やこの様な場所が不得手の方も居られる様に見受けられたので、フォローして頂けたら大変助かると思いました。

本当にこの様な企画を開いて下さり、心よく来て頂いた企業様と主催者のぷれいす東京には本当に感謝の気持ちで一杯です。

そして参加した皆様には、本当にお疲れ様でした。

就職活動サポートミーティング参加者の感想文
（「ぷれいす東京Webサイト」2020年9月掲載より）

■「就活サポートミーティングに参加して感じたこと、思ったこと」

コザル（告知年：1999年／年代：40代）

今回は参加者が２人ということでしたが、同じ関西にいる人の就職活動の状況をシェアできて良かったです。

就職活動していると同じ就職活動中の人と話すことがあまりないのが現状です。

ですが、同じHIVの人で就職活動を行っている人に、東京に行かなくてもオンライン上で、就職活動の考えや想いを聞くことができるのはすごくありがたいと思いました。

以前は、毎月実施されていたということをお伺いしましたが、ネストでいろんな人と実際に会って話すのも良いのですが、今回のようにオンラインでミーティングが開催されると、いろんな地域の人が参加されることになるので、就職活動中に１人で悩まなくても良くなると感じました。

また、自分の良かった部分、悪かった部分に係わらず、現在の状況を皆さんとシェアすることができるので、何が良くて何が悪かったのかが把握できて、悪かった部分については修正をすることができるので、今後の就職活動に活かしていけるのではないかと思いました。開催については、月１くらいで曜日の制約なく開催してもらえたなら、今回参加できなかった人も参加しやすくなるのではないかと感じました。

就職活動サポートミーティング参加者の感想文（「ぷれいす東京Webサイト」2020年9月掲載より）

■「就活に対する不安や不満を吐き出す場」

Pico（感染告知年2007年／３回目参加／40代）

8/22のオンラインミーティングに出席させていただきました。

自分なりに就職活動を行ってきましたが、自分が知らなかった、就活に役に立つチャンネルを紹介してくださったので、大変助かりました。早速、紹介された就活支援機関や企業の人事情報につながってゆきたいと思っています。

月に一度、ネスト・プログラムとして、就活に対する不安や不満を吐き出す場として、現時点で自分に足りないものは何かを振り返る定期的な機会を設けていただけるのは大変助かります。継続した活動を行っていただきたいと思います。

介護職として働く陽性者の交流会参加者の感想文
（「ぷれいす東京Webサイト」2020年8月掲載より）

■「パソコンはあっても、リモート参加が不安だった」

ヒロシ

コロナでバタバタとしつつ中々、介護ミーティングに参加出来なかったのですが、正直リモートでもミーティングは、苦手分野で、場所も、無く、パソコンは持っているが、やり方もわからない状態で遠のいていました。

ぷれいすに、その旨を相談し、事務所に行き、事務所内でパソコンを貸して頂ける事を知り、リモートでのミーティング場所の提供、リモートでのミーティングの利用、使用方法を教えて頂きました。

実際、自分のノートパソコンを持っていきやり方を教えて頂き、何度か、わからない事が有りましたがサポートをして頂き不安が解消しました。改めて感謝です。

※ぷれいす東京Webサイトには、各プログラムごとに多くの参加感想文が掲載されていますので、ぜひお読みください。

1. スタッフ研修

バディ・スタッフとして活動するには、基礎研修を受けた上で部門研修を修了することを条件としている。基礎研修は、HIV/AIDS に関する知識を身につけるとともに、自己の HIV/AIDS のイメージを認識することを目的としている。部門研修は、バディとしての関わり方をどのようにもつか、自分自身でイメージしてもらうことを目的としている。基礎研修は、年に 1 度の各部門合同での「新規ボランティア研修」にて、部門研修は「バディ・ワークショップ」にて行っている。

(1) 基礎研修

●新規ボランティア研修

今年度は 2020 年 9 月 20 日、21 日の 2 日間、初のオンラインで行なわれた。この研修は各部門合同であり、研修項目も共通したものとなっているが、バディ部門のみならず、ぷれいす東京の全体の活動と HIV 感染症の関連領域も学び、幅広い視点と知識を得てもらうことを目的としている。（詳細は 8 ページを参照）

（実　績）

2020 年度の研修の終了時点での活動希望者は 7 名となった。

(2) 部門研修　　バディ・ワークショップ（8 時間）

バディとして活動を始めようとする自分自身を見つめ直すこと、またクライエントがどのような状態にあるのか理解を深め、その上でバディの役割とは何か、クライエントとの関係性について、自分がバディとして何ができるか、等を考えてもらうことがこのワークショップの目的となっている。また、ワークショップの中では、実際の利用者に協力いただき、利用者の生活についてお話していただくなどしている。

（内　容）

・アイスブレーキング
・自分の最初の喪失について
・自分がバディだったら（仮想体験）
・HIV 陽性者と語る
・喪失を体験するワークショップ
・分かち合いの時

（実　績）

今年度は COVID-19 の影響を受けて開催せず、次年度で開催予定。

2. スタッフ・ミーティング / 交流会

●バディ活動スタッフのためのミーティング

活動中のスタッフを対象として、バディ・ミーティングを行っている。午前ミーティングは、奇数月 / 第 1 土曜日 /11:00 ～、偶数月 / 第 1 木曜日 /11:00 ～に開催、夜間ミーティングは第 3 木曜日の 19:00 ～で開催した。なお木曜日の午前ミーティングについては参加者が少ないため、参加がある場合にのみの開催とした。

参加者は、それぞれが担当しているクライエントとの関わりについて、担当者同士やコーディネーターと相談できたり、お互いにアドバイスしあえる場となっている。また、必要に応じて、個別にクライエントに関わる個別ミーティングやスーパーバイズも実施している。

また、不定期ではあるが、バディ同士の交流を目的とした交流会も開催している。

（実　績）

バディ・ミーティング	2020 年度 4 月と 5 月は非常事態宣言を踏まえ中止、6 月以降は状況に応じた開催とし、最終的には 6 回（中止 14 回）開催、のべ 14 名が参加した。
個別ミーティング	2020 年度は 5 回実施

3. 登録バディのフォローアップ・トレーニング

●フォローアップ研修

基礎トレーニングを終了したスタッフを対象とした研修となっており、待機中のバディに陽性者との関わりについてイメージする機会を持ったり、関係の深い問題について知識を得る機会を提供している。

また、既にバディ活動を行っているスタッフが、自分とクライエントとの関係について、バディの役割について、客観的にとらえる機会になることを目的としている。

4. スタッフの構成（2021 年 3 月末現在）

(1) 性別

男　性	44 人
女　性	20 人
合　計	64 人

(2) 年齢

30 歳代	9 名
40 歳代	28 名
50 歳代	20 名
60 歳代	5 名
80 歳代	2 名

5. 2020年度バディ活動実績

(1) 派遣依頼

・前年度より活動を継続 21名
・活動休止中 6名
・新規依頼 2名
合　　計　　29名

・バディ派遣終了 5名
派遣終了理由　死亡 1名
ニーズの消失 4名

※2021年3月末現在の派遣状況
・活動休止中 6名
・派遣継続中 18名
合　　計　　24名

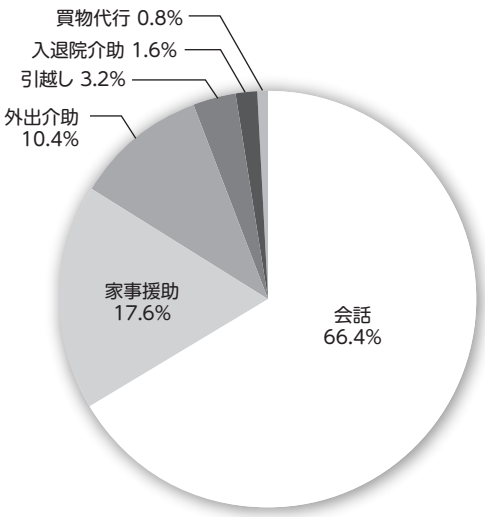
(2) 活動バディ・スタッフ

派遣依頼20名(休止中6名を除く)に対し23名のスタッフを派遣した。(利用者1名に対する実人数でカウント)

(3) 活動内容

今年度のバディ派遣件数は、COVID-19の影響を大きく受け、派遣件数が減少した。直接支援の活動であるため、依頼者の自宅に訪問し、会話等の活動を行うことが多いのだが、今年度はそうした活動を制限せざるを得なかった。活動の有無については、利用者本人とバディの両者と相談しながら、それぞれが不安がない中で継続することを心がけた。

全体の内容別活動のまとめ (n=125)



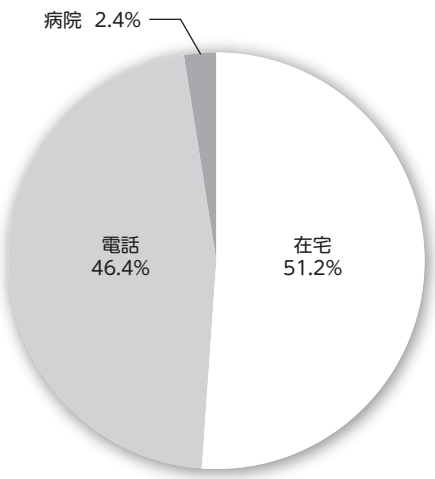
そうした中、スタッフの報告をまとめたところ合計で125件であった。うち、在宅訪問は64件(51.2%)、病院への訪問は3件(2.4%)、電話によるコミュニケーション(訪問連絡等の電話は件数に含まず)は58件(46.4%)であり、今年度の総活動時間は約152時間となった。

(4) 訪問先とサービス内容

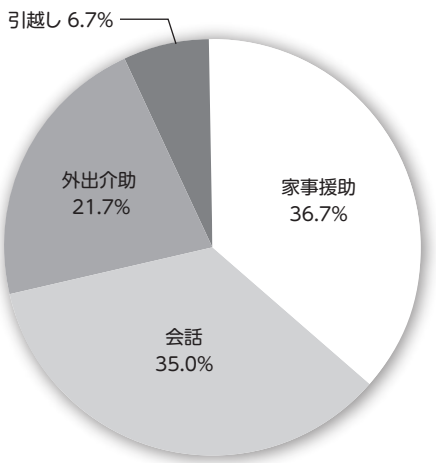
●在宅訪問

在宅での主な活動について、今年度は合計で64件の活動があった。活動内容は、家事援助が22件(36.7%)、会話が21件(35.0%)、外出介助が13件(21.7%)、引越しの手伝いが4件(6.7%)となった。家事援助は、脳症や脳梗塞等の後遺症で記憶障害等のある方の自宅の片付けや清掃、ごみの運び出し等での活動だった。会話は在宅療養している人とコミュニケーションや気分転換を目的とした活動であった。外出介助は、車椅子利用者や、

主な活動先 (n=125)



在宅での活動内容 (n=60)



視覚に障害のある方の外出時の介助であった。今年度は、COVID-19の影響を受け、外出を不安に感じて中止する利用者が多かったため活動が減った。それ以外の活動では、引越し前の荷物梱包の活動が単発であった。ちなみに、外出介助やその他の活動においても、会話をしながら活動しているケースがほとんどであり、利用者はバディとの会話も楽しみながら利用されているようだった。また、在宅でカウントしたが、福祉施設に入所された方の施設訪問もあった。

●病院

病院訪問は、合計で3件、うち2件は入退院時の付き添いでの活動になった。入院先への訪問の希望もあったのだが、COVID-19の影響で面会禁止になっており、訪問ができない状況があった。面会はできなかったが、依頼をうけて自宅から病院に荷物を運ぶ活動も1件あった。

●電話

在宅の方、入院生活を送っている方に、定期的に電話でコミュニケーションをとり、近況確認をしたり、人間関係を継続する活動になっており、電話だけの関係の方もいる。今年度はCOVID-19の影響で訪問ができないケースも増えたため、普段は訪問しているバディも、電話で近況を聞くなど、利用者の近況をきいたり、コミュニケーションを積極的にとった。

6. まとめ

●新規依頼と終了したケースの内容と傾向

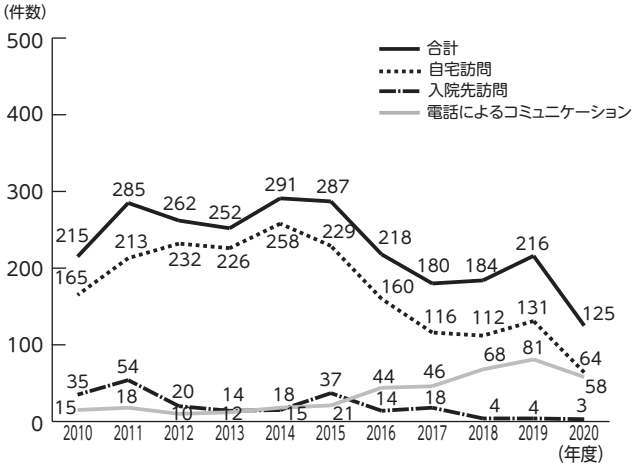
新規に依頼を受けたケースは2件あり、内容は引越しの手伝いでの依頼と自宅の粗大ごみの持ち出しでの依頼があった。引越しの手伝いは、予定日直前の依頼であったため人が見つからず活動はなく終了した。粗大ごみの持ち出しの方は、1月に通院時の付き添いでの依頼があったが実際の利用には至らず終了した方で、今後も継続になっている。2ケースとも、対面相談サービスからつながった方であった。

今年度は活動が終了となったケースは4件で、1件が死亡による終了だった。2010年から継続的に通所や通院の外出介助での活動を行っていた、視覚に障害のある方であった。病院の入退院をしていたが、自宅での生活が難しくなり施設に入所後に亡くなられた。残りの4件はニーズの消失による終了であった。

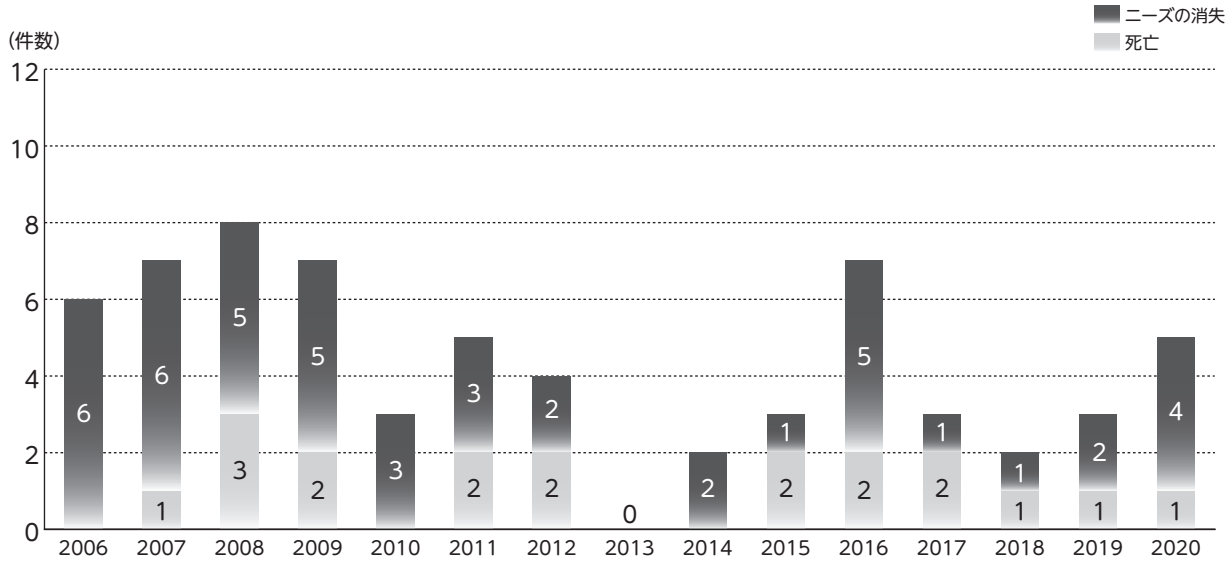
●派遣件数の減少

派遣件数は、昨年度に比べて減少した。COVID-19の影響が大きく、緊急事態宣言と感染拡大から、派遣を休止される方が多かった。何度か再開の調整をし、途中

年次活動件数の推移



活動の終了理由



で再開することもあったのだが、年間を通じるとほぼ活動ができない状況が続いた。ちなみに、緊急事態宣言中も派遣を継続していたケースもあった。活動の継続については利用者と毎回相談して派遣の有無を決めた。

●クライエントの傾向と関わり

クライエントの傾向は、身体に何らかの障害をもちつつ在宅で生活をしている方で、単身の中高年の男性が占める割合が変わらず高い。ちなみに、継続派遣の 18 名中 15 名が男性の単身世帯、なんらかの障害がある方は、半身麻痺等による車椅子使用や杖歩行などの歩行困難が 8 名、精神になんらかの疾患持っている方が 7 名となっている。

クライエントとの関わり期間

関わった期間	件数	うち継続
7年以上	16	15
5年以上7年未満	3	3
1年以上5年未満	8	6
1年未満	2	1
合計	29	25

クライエントとの関わりは、長期的な派遣が多く、7 年以上の関わりを持っているケースは 16 名で、うち 10 名は 10 年以上の関わりをとなっている。

7. 今後の活動にむけて

●活動の継続性と体制づくり

今後の活動の継続にあたって、現在の利用者の多くは、身体や精神になんらかの障害を持っている方が多く、最近では HIV のみならず、高齢化や他の疾病に由来した身体の機能低下等がみられる方もある。単身者も多く、単身者では退院時に利用できる社会資源が少ないため、バディにその役割を期待されるところがあり、今年度も入退院時の支援があった。今後も、公的サービスを活用してもらいつつ、それだけでは補えない部分をバディが補完し、利用者の生活支援、生活の質の向上につがなる活動を、できる範囲で柔軟に対応し、継続することができればと考える。また、周囲の公的機関や関連機関とも連携し、お互いに役割分担をしつつ、相互の補完ができるような活動ができればと考える。また、精神疾患を持つ方については、専門家に助言をもらいながら活動をしていきたい。

今年度は、COVID-19 の影響を受け、活動を制限しなければならない、厳しい 1 年となった。ただ、それは利用者も同じことであり、外出を楽しみにしている方、会話を楽しみにしてくれている方も、行動を制限をし生活を送る、ストレスの多い 1 年になっていた。そんな中、バディがでできることは非常に限られたが、電話で近況を聞いたり、手紙を書いてみたり、それぞれで工夫をしながら、改めて利用者との関係性を確認したような 1 年であったように思う。今後も活動については、利用者と相談しながら、バディができることを、相互の不安がない中で、無理なく続けていければと考える。そのためにも、コーディネーターとして、バディ・スタッフができるだけモチベーションを保ちながら活動できるよう、知識や情報を増やせる勉強会を開催したり、日頃の活動をフォローができればと考える。

最後に、日頃から活動を続けていただいているバディ・スタッフのみなさま、今年度も活動にご協力いただき、本当にありがとうございました。バディ活動は、ボランティアのみなさんがあっての活動です。未だに、頼りにならないコーディネーターではありますが、今後もご協力をいただけますよう、どうぞよろしくお願いいたします。

謝辞

今年度も個人のみなさまと団体からご寄付をいただきました。社会情勢が厳しいなか、ご支援いただいていることに深く感謝いたします。助成をしていただいた公益財団法人東京都福祉保健財団、寄付をいただいた多くの皆様に御礼申し上げます。

（文責　バディ・コーディネーター　牧原 / 九岡）

(1) ぷれいす東京　相談サービス報告

ぷれいす東京では、HIV 陽性者、判定保留・確認検査待ちの人、その周囲の人へ、電話や対面、E-mail/ 書簡などによる相談サービスを提供している。電話や対面による相談については、2009 年 4 月以降、厚生労働省の委託事業として、HIV 陽性者や確認検査待ちの人、その周囲の人のための専用の相談電話「ポジティブライン」0120-02-8341（月～土 :13:00 ～ 19:00）と、プライバシーに配慮した個室で行う「対面相談サービス」（月～土 :12:00 ～ 19:00）を提供している。なお相談は原則匿名で行っている。対応は、HIV に関する電話相談や直接的なケアを担当してきた相談員（社会福祉士 / 医師）、3 人が担当している。2016 年度からポジティブラインでは、HIV 陽性の相談員による相談時間を毎週木曜日 15:00 ～ 18:00 に設けており、2 名の相談員でシフトを組んで対応している。この 2 名は、既にぷれいす東京において、他の電話相談の経験がある者で、さらに研修を行った上で業務にあたっている。なお、相談員の情報交換、業務確認を目的とした相談員ミーティングも定期的に行っている（今年度は 4 回開催）。また、刑事事件等による身柄拘束者および受刑者との書簡によるやりとり「お手紙プロジェクト」も継続しており、2 名で対応している。

即日検査や郵送検査の普及に伴う、「判定保留 / 確認検査待ち」の結果を受けとる人の増加を踏まえ、ぷれいす東京の web サイトに「判定保留 / 確認検査待ちの人」に向けたページを作成し情報発信している。「誰にも話せない、どうしよう」「これからどうなるの」「結果が出るまでの過ごし方のコツ」といった不安に対するメッセージから、検査の情報、相談窓口の紹介などを行っている。

「判定保留 / 確認検査待ちの人へ」
http://ptokyo.org/consult/pending_results

また、来日する外国人に向けた英語のサイトを 2017 年 12 月からぷれいす東京のホームページ上に公開しており、コンテンツの中には日本の医療制度、ビザについての FAQ（https://ptokyo.org/en/faq）がある。このページを見て、事務所に海外から相談メールが来ることが増えている。なお、メールでの相談は以下の集計には含まれていない。

＜陽性者相談員から　相談員 J ＞

木曜日の 15 時から 18 時に行っている陽性当事者による相談は、今年度で 5 年目となりました。開始当初と比べて当事者相談の存在が周知されてきたおかげで、最近では陽性当事者の対応時間帯であることを知った上で電話をかけてくる方が増えています。

陽性の方からは、具体的な困りごとの有無にかかわらず同じ立場の者と話がしたかったという声をよく聞きます。特に地方在住の方では陽性判明後年月が経っている方でも、当事者相談に電話して初めて他の陽性者と話ができたと話す方が多くいらっしゃいます。今年度は新型コロナウイルスの影響で他の陽性者と話をする機会が減ってしまったので、当事者相談を定期的に利用することでストレスの軽減を図っている方もいらっしゃいました。

また、判定保留の方からの電話も最近増えています。陽性発覚時の心境やその後の治療経過などの話を陽性当事者から直接聞くことで、不安の軽減を図っているようです。

専任の相談員と比べて専門知識や相談スキルでは不十分な点も多くありますが、同じ立場の者として電話をくださる方に寄り添って話を聞かせていただきたいと思っています。

＜お手紙プロジェクト 2020　相談員 M ＞

今年度も引き続き、主に留置所や刑務所で収容されている方からの相談の手紙に、対応しています。

内容として多いのは、セクシャリティの開示ができないことや、HIV についての理解が進んでいない環境下での生きづらさ、出所後に必要な情報にアクセスが簡単にできないことから起きる不安などです。

迅速な回答や対応ができづらい体制ではありますが、収容されている方の苦しさを少しでも軽減できるよう、引き続き、対応していきたいと思います。

■相談／連絡期間

2020 年 4 月 1 日～ 2021 年 3 月 31 日

■相談／連絡件数

		陽性者相談員対応
電話による相談	1700 件	(148 件)
対面による相談	336 件	
手紙による相談	27 件	(うち新規4件)
合計	2063 件	

■相談者の背景

▼電話相談、対面相談（メール /fax/ 手紙は除く）
のべ合計 2036 件（男：1718 、女：191、TS/TG：127）

HIV 陽性者	1727 件	(1566：	34：	127)
パートナー / 配偶者	70 件	(43：	27：	0)
家族	38 件	(1：	37：	0)
専門家	80 件	(37：	43：	0)
その他	39 件	(20：	19：	0)
確認検査待ち/判定保留	82 件	(51：	31：	0)

「家族」の内訳（38）

母親(19)、きょうだい(16)、こども(2)、おば(1)

「専門家」の内訳（80）

医療機関(22)、福祉/行政関連(18)、法律関連（弁護士/警察）(15)、地域団体(9)、就労関連(7)、保健所/検査所(1)、その他(8)

「その他」の内訳（39）

判定保留者のパートナー /配偶者/家族/元パートナー/娘/友人/周囲(17)、友人/知人(15)、性的関係のあった人(2)、過去に判定保留(1)、HPV 陽性者とおぼしき方(1)、PrEP 服用者(1)、不明(2)

▼相談者の年代　(n=2036)

10 代	1 件
20 代	76 件
30 代	329 件
40 代	618 件
50 代	558 件
60 代	181 件
70 代以上	18 件
不明	255 件

■ 新規相談（電話・対面）のまとめ（n=263）

属性		[男:202	女:59	TS/TG:2]
HIV 陽性者	129	(122：	5：	2)
パートナー / 配偶者	29	(21：	8：	0)
家族	9	(1：	8：	0)
その他 / 不明	28	(12：	16：	0)
専門家	13	(9：	4：	0)
確認検査待ち / 判定保留	55	(37：	18：	0)

相談者の属性は、HIV 陽性者が、全体の約 5 割を占め、トランジェンダーの方の相談もあった。昨年同様、確認検査待ち / 判定保留者とその周囲の人の相談がついで多かった。パートナー / 配偶者は 29 人、うち男性の同性パートナーが 21 人だった。家族は、母親(4)、きょうだい(3)、おば(1)、こども (1) だった。その他は、友人 / 知人 (10)、判定保留者のパートナー / 配偶者 / 母親 / 娘 / 家族 / 友人 / 元パートナー / 周囲 (13)、性的関係のあった人 (1)、HPV 陽性者とおぼしき人 (1)、PrEP 服用者 (1)、不明 (2) であった。

専門家の背景は、企業 (5)、福祉関連 (3)、行政 (2)、弁護士 (2)、薬剤師 (1) であった。

居住地 / 発信地	
関東	169
近畿	30
九州 / 沖縄	16
中国 / 四国	16
東海	16
北海道 / 東北	11
甲信越 / 北陸	4
海外	1

相談者の居住地 / 発信地は、関東地方が全体の 64% を占め、そのほか全国から相談がよせられていた。

情報提供者	
情報・ネットワーク (ネット・冊子等)	168
医療や行政などの専門家	35
人的ネットワーク (他陽性者・家族等)	20
地域のネットワーク (電話相談・団体)	19
その他	7
不明	14

情報源は、インターネットや冊子などをもとに相談者が自ら情報を集め、連絡を取ってきた方が 6 割以上を占めていた。次いで、医療や行政の専門家からの紹介、他の陽性者や家族などの個人的なネットワークからの紹介、電話相談や団体など地域のネットワークからの情報提供、と続いた。その他の中には、前からぷれいすを知っていた、つながっていた、といった方も多かった。

検査を受けた機関（n=125）	
病院（外来）	66
病院（入院）	21
保健所 / 検査所	20
郵送 / 自主検査キット	6
イベント検査	1
その他	3
不明	8

検査のきっかけ（n=119）	
自発的（症状なし）	31
自発的（症状あり）	24
HIV 関連の症状（医師の勧め）	21
術前検査	15
その他の症状（医師の勧め）	12
妊婦健診	3
健康診断のオプション	2
性的接触があった人からの通知	2
献血	1
その他	8

新規に相談があった HIV 陽性者と確認検査待ち / 判定保留者が、どのような経緯で検査をしたか、どこで検査を受けたかをまとめた。ただし、相談の中で聞き取れた範囲内であり、対象となる 184 人中 125 人 /119 人の傾向である。

HIV 検査を受けた場所は、医療機関の外来 / 入院が 87 件、保健所 / 検査所が 20 件であった。また、少数だが郵送 / 自主検査キットでの検査もあった。保健所 / 検査所で検査し判明した人は昨年に比べ減少し、病院で判明した人が増えてていた。

検査を受けたきっかけは、自発的な検査（症状のあり / なしを含む）によるものが 55 件、医師の勧め（症状あり）が 33 件あった。前者は、自ら HIV 感染の可能性を考えた上で、自主的に保健所や病院の外来で検査を受けていた。後者はエイズ発症や初期症状と思しき症状など、何かしらの症状をきっかけとして医療機関を受診し、医師の勧めで検査を受けていた。

術前検査や妊婦健診は、判定保留 / 確認検査待ちの人の検査のきっかけとして聞くことが多かった。

■電話 / 対面相談によせられた内容項目

HIV 陽性者と確認検査待ち / 判定保留者からの相談について、相談記録をもとに内容を 1 ～ 9 の項目に分類し、詳細をまとめた。複数の項目に該当する相談内容であった場合は、それぞれの項目に含めて集計している。

周囲の人の相談、専門家からの相談や連携については、それぞれの属性で内容をまとめた。

1　検査や告知に関する相談 107
2　告知直後の漠然とした不安 82
3　対人関係に関する相談 262
4-1　生活に関する相談 791
4-2　制度に関する相談 256
5　心理や精神に関する相談 759
6　病気や病態の変化や服薬 318
7　医療体制や受診に関する相談 173
8　医療機関以外の支援体制・リソースへのアクセス 13
9　連絡等のコミュニケーション 998

▼ 周囲の人からの相談 302
▼ 専門家（外部）からの相談や連携 127

1　検査や告知に関する相談：107

1　検査や告知に関する相談	
判定保留時の不安や対応	87
告知の状況	9
検査機関の対応	6
検査の信憑性	1
その他	4

今年度は判定保留の結果を受けた方から「判定保留時の不安や対応」に関する相談が 87 件よせられた。そのほか、スクリーニング検査の信頼性、確認検査について、検査機関の対応に関する相談もよせられていた。献血で陽性と判明した人からの相談もあった。

保健所やイベント検査などで実施される迅速 / 即日 HIV 検査、医療機関で手術前、検査前に行われる感染症の検査、妊娠初期の検査、何らかの体調不良の原因を特定するために実施される HIV 検査、さらに業者による郵送 HIV 検査など、現在様々な場面でスクリーニング検査が実施されている。その検査における陽性の結果は「HIV 陽性の可能性がある」ということを意味しており、この検査で陽性（判定保留）となった次のステップは、確認検査を受けることになる。しかし、この「HIV 陽性の可能性はあるが、陰性の可能性も否定できない」という状況のなかで、多くの受検者は 1 ～ 2 週間、その結果をまつことになるのだが、検査結果がどちらかはっきりしない中で過ごすのは、気持ちの揺れが大きいとかたる相談者も多い。

過去の研究によると、真に陽性である可能性は女性、特

に妊婦は低く、MSM（男性と性行為をする男性）では高いため、相談を受ける側は相談してくる方の過去の行動や背景を聞きつつ、不安に寄り添うようにしている。

2　告知直後の漠然とした不安：82

2　告知直後の漠然とした不安	
漠然とした不安や混乱	32
身体状況に関する不安	20
生活のイメージ	18
他陽性者との交流	9
プライバシー不安	3

当項目は、原則告知後３ヶ月以内の方を対象としている。

相談者の状況としては、自分が陽性である可能性を考えずに受けた検査、体調不良の解明の検査、献血、不妊治療前の検査などで陽性の結果を受け取り、不安になって相談したり、誰にも話せないつらさから相談してきた方が多かった。相談者の多くは、ネットで情報を見すぎて不安になったり、自分の古いHIVのイメージ、死ぬイメージに振り回されて不安になっていた。

今年度は、発熱の原因究明の際にコロナ疑いになった方が複数あり、何度もコロナの検査をし、HIVが判明するまでに時間がかかったため、それが精神的につらかったという話も聞かれた。

3　対人関係に関する相談：262　（項目は複数選択）

3　対人関係に関する相談	
相手との関係性	136
トラブル	30
HIVの通知	23
恋愛、結婚や離婚、子づくりなど	18
性に関する相談 （sexやセクシュアリティ、セイファーセックス）	17
検査（受検勧奨等）	5
プライバシー	4
その他	29

相談の対象者（n=228）	
パートナー / 配偶者	66
家族	29
周囲	29
友人 / 知人	27
性的関係のあった人	21
他陽性者	18
会社	15
NGOスタッフ	11
元パートナー	8
行政	2
その他	2

接点がある人との関係性についての相談（136件）が最も多かった。HIVの通知に関して「カミングアウトする / しない」という伝える前の相談もあれば、「伝えた / バレた」などの関係性が緊張してしまった、悪化してしまったという相談などもよせられていた。UPDATEされた知識を、通知する相手が持っている場合 / ない場合もあり、また相談者自身も情報がUPDATEされている場合 / ない場合もあった。プライベート領域のかつ関係性が近い人ほど、HIV＋である自分を知ってほしい / どのように捉えたかが気になるといった相談が多かった。

相談の対象者は、配偶者 / パートナーが最も多く、次いで家族、友人 / 知人、性的な関係性があった人、他の陽性者等となっていた。当然、関係性は、HIVだけに関連しているわけではないが、完全な線引きは難しく人間関係の悩みも含めて、傾聴していくことになる。例えば、親の介護や近隣のトラブルなど、身近な話題がでることも多い。

新たな出会い、パートナーシップや結婚、子作り、セーファーセックス　といったセクシュアルヘルスに関する相談もよせられている。U＝Uなどの情報を持っている人、知らないでいた人などの状況も、相談者により様々である。

HIV陽性者の多くは長期に療養生活を送ることになる。その状況では当然、人間関係を広げていく必要がある。カミングアウトの義務はないが、相手に受け止めて欲しいと願うのは自然な感情で、私たちはその後方支援を行っている。

4-1 生活に関する相談：791

4-1　生活に関する相談	
就労 / 就学	445
外国人	86
住宅問題 / ホームレス（野宿生活）	83
経済的な問題	52
法律問題	50
生命保険	35
海外渡航（留学）/ 海外からの帰国	16
健康診断	10
医療費	6
その他	8

生活に関する相談の中では、就労についての相談がもっとも多く、56％を占めた。昨年より、やや増えた印象がある。就職活動は、一般枠での求職活動と障害者枠での求職活動がある。また、ブランクが多くある場合には、就業移行支援事業、就労継続支援事業などを見学、試しで通ってみることを勧めている。当団体の研究班の研究結果によると、年齢が高いほど離職率が高い傾向があり、その背景には離転職回数が関連しているという結果がある。そのため、不安からくる必然性がない離職が生じないように、冷静な判断を促すような就労継続の支援、定着のための支援も重要だと考えている。

昨年の新型コロナウイルス感染症の拡大により、多くの国で入出国に何らかの制限があるため、外国籍の旅行者、

国内に定住する外国籍住民からの相談が増えた。彼らの多くは母国では無料で医療、抗 HIV 薬が提供されるため、半年に一度など帰国しており、国内の医療、福祉のアクセスがなかった人たちだ。しかし、このコロナ禍で、母国に帰国することが難しい状況に追い込まれていた。日本に入国するときにも、自費で経過観察が必要になるし、日本に戻るためのビザを取得し入国ができるかどうか不明であるため、ギリギリまで日本国内に滞在し、手持ちの抗 HIV 薬がなくなり連絡してきた人たちが 20 人以上いる。相談者の国籍は欧米もあるが、アジアの国々の人からの相談が多かった。相談の中では、手帳の申請に必要な情報を母国の医療従事者に連絡して取得する必要性が生じることがあったが、それが難しい場合には家族や友人に支援を得るための手伝いもした。さらに、日本語能力に課題がある場合には、医療機関、調剤薬局、行政の担当者との連絡調整をしたり、必要に応じて同行支援を行った。

また、就労に関する相談では、コロナ禍により、脆弱な就労形態の人たちが直撃されている現状がある。なかには職を失い、その結果、住居を失った相談者がいる。自立支援センター、更生施設などで周囲と馴染めずに、自主的に退所、逃げてきたという事例も複数、含まれていた。これらの事例のうちの数例は「LGBT ハウジングファーストを考える会」と連携して、シェルターに入所してもらった。

4-2 制度に関する相談：256

4-2　制度に関する相談	
障害者の制度利用 （手帳取得、自立支援、重度医療、障害者控除、施設入所）	93
生活保護	77
健康保険（高額療養、傷病手当、付加給付、後期高齢者医療）	30
障害者雇用	27
障害年金	18
プライバシー	5
サービス利用時の対応	1
ビザ	1
失業給付	1
その他	3

障害者の制度利用に関する相談が多かった。なかでも、COVID-19 の影響を受けて、日本で服薬継続が難しくなった外国人の方から、日本での手帳の取得に関する相談、医療費の軽減の制度に関する相談が増えていた。生活保護に関する相談では、保護受給中の引越しや就労に関する相談、路上生活になる直前の状態での相談、生活保護申請前の相談、パートナーシップ制度と生活保護に関連した相談などがあった。全体の傾向として、ネットを使って事前に情報収集している方が多く、そうした情報の確認のために連絡される方が多かった。

5　心理や精神に関する相談：759

5　心理や精神に関する相談	
精神疾患（抑うつ障害、適応障害、統合失調症、その他）に関する相談	512
薬物依存	113
ストレス	30
その他の依存傾向 （アルコール、セックス、ギャンブル、対人、その他）	27
人間関係の閉塞感	24
精神的な不安定さ	13
セクシュアリティの受容	12
精神科の受療に関する状況	12
自殺念虜	7
HIV の受容	5
その他	4

本項目の「精神疾患」は、本人から病名や通院履歴等の申告があり、その時の相談内容に影響していると相談員が判断した場合に選択している。

抑うつ障害、適応障害、統合失調症、広汎性発達障害、注意欠陥・多動性障害など、治療をする中での相談が多くよせられていた。状態が良くない時に、自分の考えを誰かと話して客観的に整理したい、感情を落ち着かせたいという相談も多く、そうした相談は、時に頻回になったり、時間が長くなる傾向があった。今年は、COVID-19 の拡大で感染不安が強くなったり、外出できないストレスを感じていた方からの相談も増えていた。

薬物依存やその他の依存症を持つ方は、定期的に相談される方が多く、依存対象の欲求との付き合い方、生活のバランスの取り方について話をしながら、日々の振り返りを行っていた。COVID-19 の影響で、NA や AA といったミーティングが開催されず、他者との接触が減ることでストレスが蓄積し、再使用の欲求が高まる機会も多かったようで、中には逮捕されて連絡があった方もいた。

6　病気や病態の変化や服薬：318

6　病気や病態の変化や服薬	
その他の疾患	155
服薬の継続	48
入院中の病態	47
CD4 の変化	23
HIV の関連症状	11
副作用	10
投薬前の不安	1
その他	23

その他疾患の具体的な疾患としては、本人の申告に基づく以下のものがあった。

その他の疾患（順不同）

風邪、喘息、A 型 /B 型 /C 型肝炎、梅毒、アメーバ赤痢、

膵臓がん、大腸がん、小腸がん、乳がん、脳腫瘍、花粉症などのアレルギー症状、下痢、再発性角膜びらん、白内障、緑内障、尖圭コンジローマ、帯状疱疹、潰瘍性大腸炎、勃起不全、ヘルニア、急性胃腸炎、ばね指、熱中症、腸閉塞、剥離骨折、糖尿病、白斑、夜尿症、その他

今年度も、昨年度に引き続きCOVID-19の影響で、外国人で薬が入手できなくなった方から、日本国内での薬の入手に関する相談があり、残薬がある方から中断中の方まで色々な状況の方があった。

HIVの関連症状としては、以下のものがみられた。

HIVの関連症状（順不同）
進行性多巣性白質脳症の後遺症、HAND（HIV関連神経認知障害）、悪性リンパ腫、ニューモシスチス肺炎、カポジ肉腫、サイトメガロ網膜症、リポジストロフィー、結核

数年前からの傾向ではあるが、投薬前の不安に関しては少なくなっており、薬の改善や服薬開始時期が早くなったことが影響していると思われた。

7　医療体制や受診に関する相談：173

7　医療体制や受診に関する相談	
医療従事者とのコミュニケーション	49
医療・検査機関の選択	47
他科受診	34
歯科受診	16
通院や服薬の中断・拒否	8
精神科受診	3
その他	16

医療従事者とのコミュニケーションは、医療従事者への不平や不満を聞くことが多いが、今年度はCOVID-19の影響で電話受診になる医療機関もあり、普段は受診時にできていた話や質問ができない、先生が忙しいのではと思い電話での相談を遠慮してしまう等の相談もあった。加えて告知直後の方や外国人の方から、これからの通院にあたって、自分の住んでいる地域の医療機関の情報を求められることも多かった。他科受診、歯科受診は、地方の方からの相談が最近は増えている。

8　医療機関以外の支援体制・リソースへのアクセス：13

初めてぷれいす東京に電話をした方が半数を占めていた。相談内容として、ネスト・プログラムやバディ派遣に関する問い合わせ、海外赴任にあたっての海外の情報、地方の交流会に関する相談などがあった。

8　医療機関以外の支援体制・リソースへのアクセス	
ぷれいす東京のサービスの問い合わせ	4
その他の機関・リソースの利用	2
外国の情報（ビザ、医療機関、医療状況）	2
他陽性者との交流	2
地域の支援団体	1
その他	2

9　連絡等のコミュニケーション：999

9　連絡等のコミュニケーション	
近況報告	687
ネストプログラムの利用	57
面談の調整等	51
利用登録	30
積極的な協力・参加	23
その他	151

今年度も件数の多い項目となった。昨年2月以降COVID-19に関する相談も続いており、今年度はその他にまとめて集計している。

近況報告の内容として、精神疾患を持つ方や周囲に病名等が話せていない方から、定期的な通院報告や日常の報告をいただくことが多い。相談員と話をしながら、通院で得た情報整理をしたり、周囲の人との関係性を整理したり、自分の状況を客観的に把握したり、病気について話す機会としたりと、多様な利用の仕方があった。

その他のうち、COVID-19に関する相談が134件あり、内容はHIVとの関係性、感染不安、通院の不安、外出制限のストレス、ワクチンの接種と副反応などであった。また、COVID-19の影響を受け、今年度はネストプログラムがリモート開催になったり、中止になったりしており、そうした問い合わせやリモートでの利用登録などもあった。

▼ 周囲の人からの相談：302

(1) 検査や告知に関する相談	18
(2) 通知を受けた直後の漠然とした相談	25
(3) 対人関係に関する相談	111
(4) -1 生活に関する相談	29
(4) -2 制度に関する相談	11
(5) 心理や精神に関する相談	16
(6) 病気や病態の変化や服薬	26
(7) 医療体制や受診に関する相談	21
(8) 支援機関・リソースへのアクセス	4
(9) 連絡等のコミュニケーション	37
その他	4

相談者の背景はP45を参照。

パートナー / 配偶者からの相談（70：男43/ 女27）が最も多く、ついで、家族からの相談（38）であった。内訳は母親（19）、きょうだい（16）、こども（2）、おば（1）から

となっていた。その他 / 不明 (39) は、判定保留者のパートナー/配偶者/家族/元パートナー/娘/友人/周囲(17)、友人 / 知人 (15)、性的関係のあった人 (2)、過去に判定保留 (1)、HPV 陽性者とおぼしき方 (1)、PrEP 服用者 (1)、不明 (2)、であった。判定保留者の周囲の人たちからの相談が多かったのは、それだけ、結果を受け取った本人の混乱の大きさを反映しており、伝えられた側も、実際どのように対応したらいいのかを戸惑う中での相談がよせられていた。

内容の項目では、「対人関係に関する相談」(111) が最も多かった。元々の人間関係から、カミングアウトされた後の関係性、通知の受け止めや感情の整理など、複雑な心境を吐露される場面も多かった。その他、陽性者の生活に関する相談、病気や病態、医療体制など、陽性と通知を受けた後の情報収集を目的とした相談も多くあった。

▼ 専門家(外部)からの相談や連携：127

(1) 検査や告知に関する相談	0
(2) 通知を受けた直後の漠然とした相談	1
(3) 対人関係に関する相談	18
(4) -1 生活に関する相談	29
(4) -2 制度に関する相談	11
(5) 心理や精神に関する相談	1
(6) 病気や病態の変化や服薬	2
(7) 医療体制や受診に関する相談	5
(8) 支援機関・リソースへのアクセス	0
(9) 連絡等のコミュニケーション	59
その他	1

相談者の背景は、P45 の内訳を参照。

所属機関は、医療機関 (22)、福祉 / 行政関連 (18)、法律関連（弁護士 / 警察）(15)、地域団体 (9)、就労関連 (7)、保健所 / 検査所 (1)、その他 (8) であった。背景としては、MSW (18)、弁護士 (12)、HIV 関連 NPO/NGO (9)、行政 (9)、カウンセラー (6)、不動産業者 (6)、企業 (6)、医療関連 (3)、福祉関連 (3)、警察 (2)、行政書士 (1)、障害者職業センター (1)、保健師 (1)、法律関係 (1)、牧師 (1)、薬剤師 (1) であった。

医療機関からは、MSW (医療ソーシャルワーカー)、カウンセラーからの相談が多くあった。また、薬物使用に関連した相談も多くよせられ、国選の弁護士から裁判対応や支援の相談があった。時には、陽性者本人の依頼により、弁護士から連絡がくる事例があった。警察からの連絡も同様であった。以前から支援関係にあった HIV 陽性者については、裁判で情状証人として、本人の再出発を支援する役割を担うことも何度かあった。こうした多様な連携があるなか、新型コロナウイルスの出現により、医療機関の余裕がない様子がうかがえるものもあった。

■1年を振り返って

今年度もCOVID-19の影響を大きく受けた1年であった。

対面相談は、新型コロナウイルスの感染予防対策が整うまで休止し、再開後も昨年より減少した。なお、今年度からは必要に応じてリモートによるオンラインの面談も行っている。一方、電話相談に関しては影響はなかったように思われる。

相談内容にも COVID-19 が様々なところで影響をしており、具体的には以下のものがあった。検査に関する項目では、保健所による HIV 検査の機会の減少により、それ以外の機関で検査をする人が増え、情報不足から混乱して連絡する人がぷれいす東京の相談の中では増えた印象があった。保健所による HIV 検査について、しばらく運営の難しい状況が続くのだとすると、医療機関や郵送検査による HIV 検査を増やす必要が出てくる。そうなると、スクリーニング検査で陽性 (要確認検査 / 判定保留) と知る人たちへのサポートがより重要になるだろう。また体調不良があってもコロナ疑いの検査が先行され、HIV の判明が遅くなり大変だった方の話もあった。生活や医療に関するところでは、日本に在住する外国人からの相談が多く、母国に帰国できなくなり、日本での薬の入手や病院の受診をどうしたらいいかという相談が昨年度に続き多くあった。また、脆弱な就労形態の人では、仕事や住居を失った方もいた。精神や心理に関しては、元々精神疾患のある方で COVID-19 の感染不安が強くなる方や、外出できないストレスを感じている方が多くいた。また、そのストレス発散としての薬物使用に影響があったと思われる方もあり、警察に逮捕された人から、弁護士を通じた相談や連絡が多くよせられた。そのほか、通院が電話受診になり、医師や看護師等とのコミュニケーションが減ることで不安になる方、最近ではワクチンの接種に関する相談も増えている。次年度もこうした影響が続くものだと思われるが、今後も海外の情報も含め、信頼できる情報を集め、情報提供と精神面での支援などができればと考える。

今後も多様で複雑な問題を持つ相談者に対して、自分たちの限界を知りつつ、周囲の医療機関や支援機関と役割分担をしながら、支援に関われればと思う。

（文責：牧原 / 生島 / 福原）

(2) HIV陽性者等のHIVに関する相談・支援事業

本事業は、厚生労働省の受託事業として12年目となった。今年度もシェア（特定非営利活動法人シェア＝国際保健協力市民の会）と任意団体 CRIATIVOS（P-LATINO）とぷれいす東京の３団体にて運営を行った。

「HIV 陽性者等の HIV に関する相談・支援一式（関東地域におけるピア・カウンセリング等支援事業）」は、HIV 陽性者（エイズ患者を含む）やパートナー、家族を対象にピア・カウンセリングや電話・対面による相談サービスを提供することを通して、その社会生活を支援し、生活の質を高めることを目的としている。

Ⅰ　事業の概略

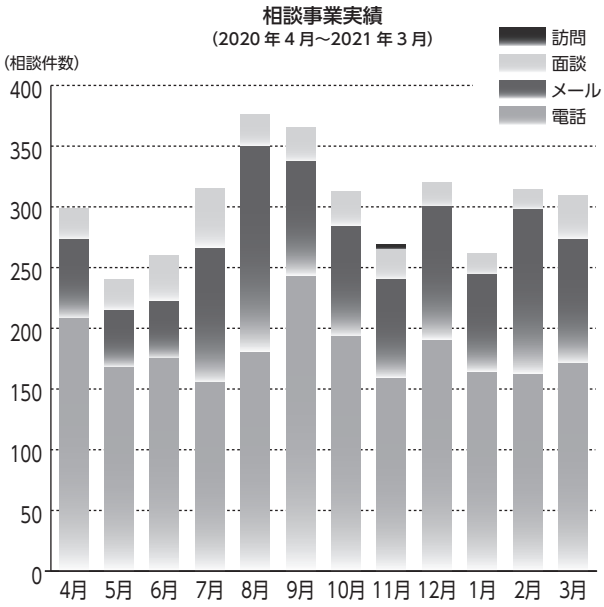
本事業は、以下の７つの柱からなっている。

① HIV 陽性者参加型のピア・カウンセリングの実践とグループ・プログラムの開発と運営
② HIV 陽性者を含むスタッフの研修及び育成
③ HIV 陽性者の社会参加のためのサポート
④フリーダイヤルによる HIV 陽性者と確認検査待ちの人、そのパートナー、周囲の人のための電話相談
⑤ HIV 陽性者と確認検査待ちの人、そのパートナー、周囲の人のための対面相談
⑥関東地域における当事者支援とぷれいす東京での在日外国人のサポート
・群馬サテライト・ミーティングを継続開催
・中国語、英語を話す陽性者の小グループミーティングの継続開催
⑦在日外国人への相談サービスの提供

Ⅱ　事業の実績

①～③、⑥に関しては、P29 部門報告（ネスト）をご参照ください。

④～⑤に関しては、P44 部門報告（HIV 陽性者と判定保留／確認検査待ちの人、その周囲の人への相談サービス）をご参照ください。



	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
訪問	0	0	0	0	0	0	0	4	0	0	0	0
面談	26	25	38	49	26	28	29	25	20	18	16	36
メール	65	47	47	111	170	94	91	81	110	80	136	102
電話	208	168	175	155	180	243	193	159	190	164	162	171
合計	299	240	260	315	376	365	313	269	320	262	314	309

※メール相談には、ぷれいす東京のものは含まない。

●３団体合計の月別相談件数の実績

⑦在日外国人への相談サービスの提供
（令和２年４月１日～令和３年３月 31 日）

□外国語相談（再委託）による相談者の合計（のべ件数）：1,500 件（ぷれいす東京の数字は含まず）

今年度は、シェアと CRIATIVOS（P-LATINO）の２団体で、電話、メール、LINE、訪問／同行（Zoom を含む）による相談をおこなった。クリアチーボスは、ぷれいす東京と共同で、LINE 上に P-LATINO の公式アカウントと web を作成、2020 年の７月よりそこで LINE をメインにした相談をおこなった。

主な相談者は、HIV 陽性者が 1247 件、次いで専門家 325 件、その他 28 件、家族７件だった。確認検査の結果を待っている間の相談も 28 件あった。言語によるコミュニケーションの課題をもつ方が多く存在し、そうした方の通訳として貢献していると思われた。

□外国語相談（再委託）での相談者の属性（のべ件数）

HIV 陽性者	：	1247	（男： 964、	女： 281、	その他： 2）
家族	：	7	（男： 5、	女： 2、	その他： 0）
専門家	：	325	（男： 43、	女： 282、	その他： 0）
その他	：	28	（男： 10、	女： 12、	その他： 6）
合計	：	1,607	（男： 1,022、	女： 577、	その他： 8）

□外国語相談（再委託）での対象者の属性（のべ件数）

HIV陽性者	：	1490	（男：	960、女：	518、その他：	12）
家族	：	29	（男：	29、女：	0、その他：	0）
専門家	：	4	（男：	4、女：	0、その他：	0）
その他	：	84	（男：	79、女：	4、その他：	1）
合計	：	1,607	（男：	1,072、女：	522、その他：	13）

□外国語相談（再委託）でのサービス対象者の国籍／言語（のべ件数）

国籍（対応言語）は、ブラジルが最も多く、次いで日本、ペルーと続いた。ポルトガル語、スペイン語圏からの相談の多くはCRIATIVOS（P-LATINO）が対応している。

その他の言語の相談は、主にシェアが対応しており、タイ、ネパール、エジプト、フィリピン、中国などの方から相談があった。また、数は少ないがアフリカ圏、ロシア語圏など、その他の多様な言語による相談が求められていた。

ブラジル	：	1049
日本	：	247
ペルー	：	174
スペイン語圏	：	42
ネパール	：	23
エジプト	：	21
タイ	：	18
フィリピン	：	17
アメリカ	：	5
中国	：	3
シンガポール	：	2
アフリカ圏	：	1
ロシア語圏	：	1
不明	：	4
合計	：	1,607

□外国語相談（再委託）への相談手段（のべ件数）

相談や支援の手段は、CRIATIVOS（P-LATINO）ではLINEが多く、次いで電話、メールと続いた。シェアは、メールの相談が多く次いで電話相談、訪問／同行となった。今年度は、COVID-19の影響をうけ、来所や訪問しての活動が難しいことも多く、Z00Mを使った通訳同行もあった。各地の相談者、医療機関等の専門家から相談があり、広域に及ぶため、電話/LINE/メールによる対応を中心にしている。

電話による相談（n=462）

HIV陽性者	：	216	（男：	147、女：	69、その他：	0）
家族	：	7	（男：	5、女：	2、その他：	0）
専門家	：	220	（男：	40、女：	180、その他：	0）
その他	：	19	（男：	7、女：	12、その他：	0）
計	：	462	（男：	199、女：	263、その他：	0）

メールによる相談（n=156）

HIV陽性者	：	87	（男：	66、女：	19、その他：	2）
専門家	：	60	（男：	3、女：	57、その他：	0）
その他	：	9	（男：	3、女：	1、その他：	5）
計	：	156	（男：	72、女：	77、その他：	7）

LINEによる相談（N=985）

HIV陽性者	：	944	（男：	751、女：	193、その他：	0）
専門家	：	41	（男：	0、女：	41、その他：	0）
計	：	985	（男：	751、女：	234、その他：	0）

訪問／同行（n=4）

専門家	：	4	（男：	0、女：	4、その他：	0）
計	：	4	（男：	0、女：	4、その他：	0）

□外国語相談（再委託）のサービス対象者の年代（N=1607）

対象者の年代

20代	：	57	（3.5%）
30代	：	662	（41.2%）
40代	：	421	（26.2%）
50代	：	261	（16.2%）
60代	：	22	（1.4%）
70代以上	：	0	（0.0%）
不明	：	184	（11.5%）

□外国語相談(再委託)のサービス対象者の居住地域（N=1607）

各地域から相談がよせられており、関東甲信越（東京以外）：1020（63.5%）、北陸：327（20.3%）、東京：134（8.3%）、九州：96（6.0%）、東海：19（1.2%）、海外：5（0.3%）、中四国：1（0.1%）、北海道：1（0.1%）、不明：4（0.2%）だった。数は少ないが、母国との連携も相談ニーズとして存在していた。

□外国語相談（再委託）による相談対応時間（N=468メール/LINEを除く）

相談時間は、30分以未満：453（96.8%）、30分～59分：6（1.3%）、60～119分：9（1.9%）となった。

□外国語相談（再委託）の相談内容（複数選択 N=1708）

相談内容は、「通訳派遣及び調整」が499件、「医療体制・医療との関わり・連絡」428件、「服薬・副作用に関する相談」193件、「心理や精神に関する相談」116件、「通訳／翻訳」114件、「病気や病態の変化に伴う不安や混乱」96件、「社会資源活用の情報提供」38件、「HIV検査や告知に関する相談」40件、「移住支援」29件、「パートナーに関する相談」15件、「専門家や他機関からの相談」14件、「海外移住と渡航支援」11件、「他のSTIや医療の相談」7件、等となった。

相談方法別でみると、電話相談では、「通訳派遣及び調整」194件、「医療体制・医療との関わり・連絡」109件、

「通訳 / 翻訳」60 件、「社会保障等行政の手続き」20 件、等となった。メールの相談では、「医療体制・医療との関わり・連絡」61 件、「通訳派遣及び調整」51 件、「服薬・副作用に関する相談」と「医療費や支払いについて」がそれぞれ 36 件となった。LINE の相談では、「医療体制・医療との関わり・連絡」258 件、「通訳派遣及び調整」254 件、「服薬・副作用に関する相談」142 件、「心理や精神に関する相談」103 件、「病気や病態の変化に伴う不安や混乱」69 件、「通訳 / 翻訳」48 件、等となった。訪問／同行では、「通訳／翻訳」のみで 4 件だった。

外国語相談（再委託）の団体別の内容

■CRIATIVOS (P-LATINO) (N=1472)

電話相談(402)、メール相談(85)、LINE相談(985)
対象者の国籍／使用言語は、ブラジル(1020)、日本(242)、ペルー(168)、スペイン語圏(42)

■シェア＝国際保健協力市民の会 (N=135)

電話相談(60)、メール相談(71)、訪問／同行(4)。
対象者の国籍／使用言語は、ブラジル(29)、ネパール(23)、エジプト(21)、タイ(18)、フィリピン (17)、ペルー (6)、日本(5)、アメリカ (5)、中国(3)、シンガポール(2)、アフリカ圏(1)、ロシア語圏(1)、不明(4)

研究・研修部門では、当事者の視点を生かした独自の研究や、受託研究などのさまざまな調査研究と、HIV/ エイズやセクシュアリティ等をテーマにした講師派遣や、研修の企画・運営などを行っています。

担当…生島、牧原、大槻

研 究

ぷれいす東京の研究班

2018 年度から 3 か年にわたり、厚生労働科学研究費補助金エイズ対策政策研究事業「地域において MSM の HIV 感染・薬物使用を予防する支援策の研究」を、理事の樽井（研究代表者）、代表の生島（研究分担者）を始めとするぷれいす東京スタッフが実施しました。

くわしくは…

上記の厚生労働科学研究班の制作物や報告書などは、下記の Web サイトに掲載しています。

地域において MSM の HIV 感染・薬物使用を予防する支援策の研究班

「地域における HIV 陽性者等支援のためのウェブサイト」
https://www.chiiki-shien.jp/

「Love Life and Sexual Health（LASH）」
https://www.lash.online/

「StayHealthy」
https://stayhealthy.tokyo/

地域において MSM の HIV 感染・薬物使用を予防する支援策の研究（3か年計画の3年目）

研究代表者：樽井 正義（ぷれいす東京）

2018 年度（1年目）

HIV 陽性者の健康と生活調査の協力依頼と予備調査
精神保健福祉センター薬物相談担当者への質問紙調査
ダルクにおける MSM・HIV 陽性者支援に関するインタビュー
MSM 向け薬物使用に対処する啓発・支援、国内外文献レビュー

2019 年度（2年目）

HIV 陽性者の健康と生活調査実施
精神保健福祉センターのインタビュー調査、ケースメソッド研修プログラムの開発
ダルクにおける MSM・HIV 陽性者支援の調査
MSM における薬物使用に対処する啓発・支援方策に関する研究

2020 年度（3 年目）

HIV 陽性者の健康と生活調査の調査票回収、データクリーニング、分析、報告 ..... 若林 チヒロ（埼玉県立大学）

精神保健福祉センターのケースメソッド研修プログラムの、実施・評価 ..... 大木 幸子（杏林大学）

ダルクにおける MSM・HIV 陽性者支援の調査 ..... 樽井 正義（ぷれいす東京）

MSM における薬物使用に対処する啓発・支援メッセージ集の作成 ..... 生島 嗣（ぷれいす東京）

成果物
HIV 陽性者の健康と生活調査報告書、精神保健福祉センターのケース・メソッド研修プログラム、MSM における薬物使用に対処する啓発・支援メッセージ集

研究報告書の全文は、Web サイト（https://www.chiiki-shien.jp/）でご覧いただけます。

MSM における薬物使用に対処する啓発・支援方策に関する研究
― STAY HEALTHY and be HAPPY の運営―

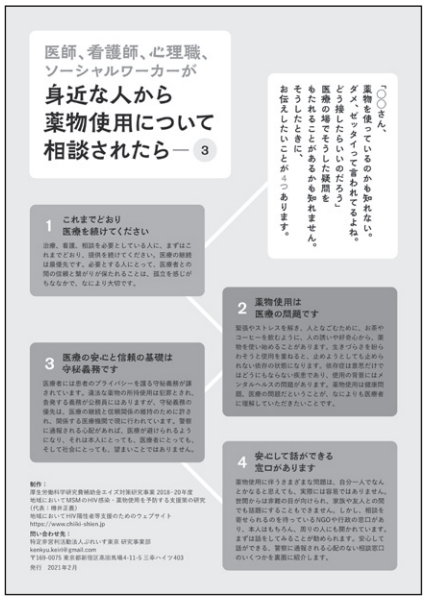
研究分担者：生島 嗣（ぷれいす東京）

Web サイト「Stay Healthy」コンテンツ

2016 年に実施した LASH 調査の結果によると、薬物の生涯使用経験があるもののうち、その使用を開始した年齢は 10 代～20 代が 8 割を占めていた。また、悩みやストレスを抱える者の割合が 9 割以上であった。その状況を受けての相談行動では、親や教師、職場の上司には相談できず、相談先がわからないという回答が多かった。唯一、友達・知人には半数以上が相談することから、若年 MSM 全般の知識の底上げが必要だと推測された。そこで、本研究では、10 ～20 代の MSM に届けるために、「友人から薬物使用について相談されたら」という文脈で、周囲から相談を受けた際に健康に役立つ情報提供ができるよう支援する目的で、「STAY HEALTHY and be HAPPY」というタイトルの Web サイトを構築した。サイトには、HIV、薬物依存、アルコール依存、ギャンブル依存などの事例を制作し掲載した。また、HIV、薬物や依存に関する支援情報、依存に関する知識の情報提供を行った。

ダルクにおける MSM・HIV 陽性者支援の調査―ダルクにおける性的少数者・HIV 陽性者受入の現状と課題に関する質問紙調査 ―

研究分担者：樽井 正義（ぷれいす東京）



パンフレット「身近な人から薬物使用について相談されたら 3」

本研究は、ダルクにおける男性とセックスをする男性（MSM）を含む性的少数者およびHIV陽性者の受け入れの現状と課題を明らかにし、HIV感染と薬物使用の予防策、陽性者の支援策を検討することを目的とした。

ダルクにおける性的少数者と HIV 陽性者の受入の現状と課題について昨年実施した調査結果をダルクに還元し、意見を求めた。ダルクと陽性者支援 NPO の職員に面接調査を行い、陽性者と薬物使用者の支援策を検討した。薬物使用者への理解を促すパンフレットを、とくに HIV に関わる医療者に向けて作成した。

結果、調査結果を受け取ったダルクから、HIV に関わる医療者、支援者に対して、HIV と陽性者の医療、支援についての情報の提供が求められた。ダルクと陽性者支援 NPO 職員への面接から、今後の情報の共有と支援での連携の必要性と可能性が確認された。HIV に関わる医療者に向けたパンフレットには、薬物使用者や関係者が安心して相談できる窓口を紹介した。

薬物依存は孤立の病と言われ、回復には人とのつながりが不可欠だが、HIV 診療の場でつながりをもっている医療者が健康問題としての薬物使用への理解を持つことは、使用を控えることを促す一助になると思われる。また、注射器共用による HIV 感染が危惧されるが接触が困難な薬物使用者への感染予防策として、刑務所内での薬物依存離脱指導に参加するダルクの職員の協力を得て、HIV に関わる情報を伝達することが考えられる。

ダルクにおける HIV と診療に関する情報提供、および HIV に関わる医療者の薬物使用理解の促進によって、陽性者支援と薬物使用予防を促す方策、またダルクとの連携によって薬物使用者への HIV 感染予防情報提供を進める方策を検討することができた。

HIV 陽性者の生活と社会参加に関する研究

研究分担者：若林 チヒロ（埼玉県立大学保健医療福祉学部健康行動科学専攻）

エイズ治療ブロック拠点病院および都内クリニックに通院する陽性者を対象に質問紙調査を行い、生活の現状と変化を明らかにすることを目的とした。

エイズ治療ブロック拠点病院 8 施設、都内診療所 2 施設の計 10 施設の陽性者を対象に、無記名自記式質問紙を医療者より配布、本人が調査事務局に郵送し回収した。2019 年 9 月～2020 年 4 月実施。ブロック拠点病院調査 1,930 票配布、1,184 票回収、回収率 61.3%、診療所調査 625 票配布、357 票回収、回収率 57.1%。

精神保健福祉センターにおける MSM・HIV 陽性者支援の調査

研究分担者：大木 幸子（杏林大学保健学部看護学科）

精神保健福祉センター、薬物相談担当者、プログラム参加者を対象に質問紙調査を行い、実情を把握することを本研究の目的とした。

東京都の精神保健福祉センターへの面接調査と先行研究を踏まえて、同センターにおける薬物相談事業について調査する質問紙を作成し、全国の同センター（69 カ所）に郵送して施設としての回答と相談担当者各 2 名の無記名による回答を依頼し回収した。回収率は施設調査 72.4%、相談担当者調査 65.2%。

ぷれいす東京スタッフが研究分担を行う研究班

ぷれいす東京のスタッフが研究に協力した厚生労働科学研究費補助金エイズ対策政策研究事業「HIV 感染症の曝露前及び曝露後の予防投薬の提供体制の整備に資する研究」（研究代表者：水島大輔（国立研究開発法人国立国際医療研究センター））並びに同「職域での健診機会を利用した検査機会拡大のための新たな HIV 検査体制の構築に向けた研究」（研究代表者：横幕能行（独立行政法人国立病院機構名古屋医療センター））は、2020 年度に 3 か年の研究計画がスタートしました。研究成果について、くわしくはそれぞれの Web サイトをご覧ください。

日本在住 MSM の PrEP（曝露前予防）に関する意識や行動に関する研究

研究分担者：生島 嗣（ぷれいす東京）

2018 年に実施した「PrEP に関するアンケート調査」の第 2 回調査「セックスライフと PrEP に関する調査 2021」をこの 2021 年 2 月 16 日～ 3 月 15 日に実施した。MSM 向けの出会い系アプリにバナー広告を出稿し、合計 8,135 人が回答した。現在、矛盾回答、重複回答などをチェックするためのデータクリーニングを実施している。積極的に出会いに参加している集団の回答であるので全体を代表しない。

2018 年の調査では、現在・過去に PrEP を服用したことがある人の割合は 2.2%であった。今回の調査では、速報値ではあるが、過去に飲んだことがある割合が 2.9%、現在飲んでいる割合が 7.0%であり、合計でほぼ 10%に達しており、この 3 年で大きな変化が起きていることがわった。ただ、半数は医療の見守りを受けておらず、約 8 割は、国内外からのインターネットによる個人輸入者であった。PrEP 使用者のための HIV 検査、副作用の見守り環境の整備が急務であることがわかった。

その他の報告事項：

- 10 月 17 日（土）アジア太平洋エイズ・重複感染症会議（APACC2020）で発表
- 12 月 13 日（日）「PrEP 処方ドクター（東京、大阪）に聞く～ online トーク」開催
- PrEP 使用者のインタビュービデオを作成
- 台湾で制作された PrEP に関する動画の日本語版を制作

「PrEP in JAPAN」
HIV 感染症の曝露前及び曝露後の予防投薬の提供体制の整備に資する研究班
https://prep.ptokyo.org/

職場における HIV 検査実施に必要とされる配慮と環境に関する研究

研究分担者：生島 嗣（ぷれいす東京）

日本では、HIV は職域健康診断の法定項目ではないことなどから、職域検査が積極的には実践されてこなかった。2017 年より開始された本研究班の健診併設イベント検査形式での郵送 HIV 検査のプログラムでは、これまでに機会がなかった層にも HIV 検査や HIV/ エイズに関する一般知識・情報等を提供しながら、HIV ステータスにかかわらず働きやすい職場と社会環境づくりを提言するプラットフォームを構築している。

今年度は、新型コロナウイルス感染症の流行下でも HIV 等の啓発・検査プログラムを実施するための支援をすることを目的とし、弾力的に運営可能な研修コンテンツと、啓発等に活用できるツールの開発を行った。その結果、労働者の権利や健康を守る取り組みは、コロナ禍でも応用可能な基盤であることが確認された。今後も、感染症と共に生きる社会で労働者の健康を支援するという観点からの HIV 等の検査機会の提供と、働きやすい職場環境づくりを支援していく取り組みの展開が求められるといえる。

「BRTA JAPAN」
職域での健診機会を利用した検査機会拡大のための新たな HIV 検査体制の構築に向けた研究班
https://brta.jp/

ぷれいす東京スタッフによる調査研究で、2020 年度中に発表（共同発表を含む）を行った学会は以下の通りです。

学会発表

・アジア太平洋エイズ・重複感染症会議（APACC2020）
（2020 年 10 月 15 日～ 17 日　オンライン開催）
「Patterns of PrEP use among men who have sex with men in Japan」
発表者：生島 嗣

・第 79 回日本公衆衛生学会総会
（2020 年 10 月 20 日～ 22 日　オンライン開催）
「地域における HIV 検査－『HIV 陽性者の健康と生活に関する全国調査』の結果から 」
発表者：生島 嗣

・第 34 回日本エイズ学会学術集会・総会
（2020 年 11 月 27 日～ 12 月 25 日　オンライン開催）
「ダルクにおける性的少数者および HIV 陽性者への薬物依存回復支援の現状 」
発表者：樽井 正義

「HIV 検査と告知時期に関する考察－『HIV 陽性者の健康と生活に関する全国調査』の結果から－ 」
発表者：生島 嗣

「HIV 陽性と就労に関する考察－『HIV 陽性者の健康と生活に関する全国調査』の結果から－ 」
発表者：生島 嗣

「新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の、地域における HIV 陽性者向けサービスへの影響 」
発表者：大槻 知子

「ネスト・プログラムのオンライン開催についての考察 」
発表者：加藤 力也

「新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の、地域における HIV/ エイズ不安相談への影響 」
発表者：佐藤 郁夫

「バディ派遣サービスの利用の変化に関する考察 」
発表者：牧原 信也

・第 9 回日本公衆衛生看護学会学術集会
（2020年12月25日～2021年1月24日　オンライン開催）
「HIV 陽性者のもつ生きづらさへの支援 」
発表者：生島 嗣

講師派遣・研修

ぷれいす東京では、HIV/エイズの一般知識、HIV陽性者支援、性教育やセクシュアリティ、人権などをテーマに、学校や企業、専門家の集まりなどへ向けた講師派遣や研修の企画・運営を行っています。講師派遣では、HIV陽性者の支援経験が豊富な相談員やセクシュアリティの専門家、性教育の専門家などが出講しています。企業や教育機関、保健所を含む行政機関、医療機関、国際協力団体などの研修を受託し、独自の研修企画の立案も行っています。

くわしくは…

講師派遣や研修をご希望の場合は、ぷれいす東京Webサイト「講師派遣・研修の依頼」（https://www.ptokyo.org/know/lecturers）からご連絡ください。

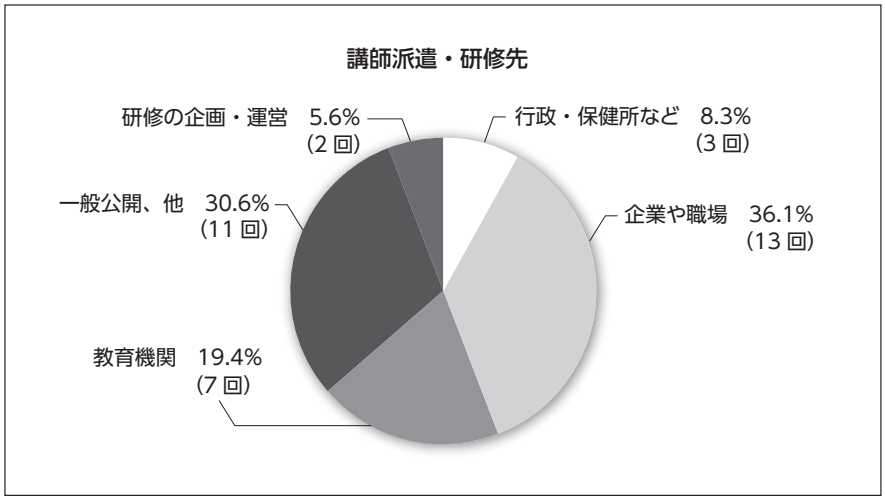
2020年度の講師派遣・研修実績は以下の通りです。

月	日	担当	内容	参加者数（人）				
				行政・保健所など	企業や職場	教育機関	一般公開、他	研修の企画・運営
5月	9日（土）	生島・佐藤	MISS GRAND JAPAN（オンライン）		45			
6月	7日（日）	生島	中村キース・ヘリング美術館 HIV検査普及週間特別インスタライブ「生島さん、教えてください！」（オンライン）				*	
7月	26日（日）	生島	「LGBT×貧困2020＝シェルターを増設～実践報告2019、新型コロナによる影響を見据えて～」（オンライン）				40	
	27日（月）	佐藤	群馬大学大学院（オンライン）			128		
8月	11日（火）	生島	小売企業		2			
	26日（水）	生島	ドットジェイピー（オンライン）				20	
	31日（月）	生島	東北HIV検査従事者研修会	12				
	31日（月）	生島	community center ZEL「U=U勉強会」				5	
9月	19日（土）	生島	プライドハウス東京スタッフ研修（オンライン）		20			
10月	25日（日）	生島	カラフル＠はーと 医療者向けPrEPオンライン学習会「HIV/AIDSの最新情報―ハイリスク層を診察するにあたって」（オンライン）				160	
	30日（金）	生島	新宿区議会超党派学習会	60				
11月	15日（日）	佐藤	Living Together「オンラインリーディング」（収録）				*	
	22日（日）	池上・生島・佐藤	「東京HIVと性の教育セミナー2020 令和の若者たちの性事情UPDATE!」（オンライン）					36
	29日（日）	生島	Blued Japan「U=U、セックスしても感染しない時代らしい話」（オンライン）				808	
	30日（月）	生島	ジョンソン・エンド・ジョンソン株式会社・ヤンセンファーマ株式会社（オンライン）		400			
12月	2日（日）	加藤	ヴィーブヘルスケア株式会社（オンライン）		100			
	4日（金）	佐藤	横浜市立大学附属病院		11			
	5日（土）	大槻	カラフル＠はーと「トランスジェンダーのセクシュアルヘルス」（オンライン）				47	
	11日（金）	佐藤	東京都「Words of LOVE streaming live」（オンライン）				*	
	13日（日）	生島・大槻	「PrEP処方ドクター（東京、大阪）に聞く～ onlineトーク」（オンライン）					42
	14日（月）	佐藤	東京女子大学（オンライン）			*		
1月	7日（木）	加藤	国際医療福祉大学（オンライン）			5		
	12日（火）	大槻	埼玉県立大学（オンライン）			34		
	16日（土）	生島	岩瀬たけし事務所「当事者の方からお話を聴くシリーズ『HIV陽性者の方のお話』」（オンライン）	40				
	27日（水）	生島	藤岡ダルク（オンライン）		14			

※「*」は、参加者数のデータがないもの。

月	日	担当	内容	参加者数（人）				
				行政・保健所など	企業や職場	教育機関	一般公開、他	研修の企画・運営
2月	3日（水）	加藤	上野学園中学校			30		
	6日（土）	加藤	「社会福祉施設 HIV/ エイズ啓発研修会」（オンライン）		40			
	12日（金）	加藤	NCGM 市民公開講座「がん領域における市民・患者参画～臨床から研究まで～」（オンライン）				40	
	17日（水）	生島・加藤	武田薬品労働組合（オンライン）		64			
	24日（水）	生島	国立国際医療研究センター エイズ治療・研究開発センター e-Learning（収録）		*			
	28日（日）	生島	Living Together「オンライン配信 LIVE ショー」				*	
3月	3日（水）	生島	ビッグイシュー基金（オンライン）		14			
	5日（金）	加藤	港区立六本木中学校			79		
	11日（木）	加藤	community center akta（オンライン）		5			
	12日（金）	大槻	港区立小中一貫教育校 お台場学園港陽中学校			30		
	28日（日）	生島	LGBT 自治体議員連盟（オンライン）		30			
参加者数合計（人）				112	745	306	1,120	78
実施回数合計（回）				3	13	7	11	2
実施1回あたり参加者数（人）				37.3	56.3	42.7	97.8	39.0

※「*」は、参加者数のデータがないもの。



2020年度も、序盤は新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、講師派遣・研修等の依頼件数は低調でした。依頼元がオンライン形式の講演・講義に移行してからは幾分盛り返しましたが、それでも年度を通しての実施件数は計36件と、昨年度の53件からさらに減少しました。当団体でも、Webを活用した情報発信の強化に引き続き取り組んでいきたいと思います。

相談員派遣

相談員派遣

● 「akta ゆうそう検査」

2021年2月22日（月）・3月1日（月）、ともに16:00～19:00開催

各回に相談員1名を派遣

※厚生労働科学研究費補助金エイズ対策政策研究事業「MSMに対する有効なHIV検査提供とハイリスク層への介入に関する研究」（研究代表者：金子典代（名古屋市立大学））の一環として実施。

（文責：大槻）

寄付のお願い

ぷれいす東京は HIV/ エイズとともに生きる人たちが自分らしく生きられるように、多様な活動を展開しています。
私たちの活動を応援してください。

▼ 寄付で応援する

ぷれいす東京を財政面から応援してください。匿名でも寄付いただけます。

単回の寄付
クレジット決済、郵便振替、銀行振込、現金などでいつでもご寄付いただけます。

定期引落

毎月の寄付（クレジット決済）
毎月 1,000 円、2,000 円、3,000 円、5,000 円、10,000 円など、定期引落の金額を選べます。

送金方法

・クレジットカード　ぷれいす東京 Web サイトから
https://ptokyo.org/support/donation#credit

クレジットカードによる寄付

・ゆうちょ銀行振替口座　00160-3-574075　「特定非営利活動法人ぷれいす東京」
※送金される際、通信欄に寄付か会費納入かご一筆ください。専用の振替用紙もあります。

・三井住友銀行　高田馬場支店　普通預金　2041174　「特定非営利活動法人ぷれいす東京」
※銀行振込の場合、名前・住所などのご連絡をいただかないと、
お礼や寄付金控除の案内等ができません。
ご希望の場合はメールフォームをご利用ください。

メールフォーム

・事務所で寄付することもできます。事前にご連絡ください。（TEL:03-3361-8964）

▼ 賛助会員になって応援する

毎年継続して寄付をすることでぷれいす東京を支えていただく会員です。
合わせて認定 NPO サポーターになることもできます。
年会費（4 月～翌年 3 月）
個人賛助会員（一口）1 万円　　団体賛助会員（一口）2 万円
詳しくは、https://ptokyo.org/support/supportingmembers

賛助会員

※ 寄付 / 賛助会費振込の際はぜひ「認定 NPO サポーター」に！

認定 NPO 法人になりました！

2019 年 12 月 3 日に認定 NPO 法人になりました。
認定 NPO 法人になることで寄付が増え、団体の安定に繋がることを期待しています。
認定 NPO 法人を継続するためには、年間（4 月～翌年 3 月）3,000 円以上の寄付者が毎年 100 人以上必要です。
ご協力いただける方は、寄付や賛助会費を振り込まれる際、「認定 NPO サポーター希望」「名前 / 住所 (自宅)（団体の場合は、団体名と所在地）」をお知らせください。
詳しくは、https://ptokyo.org/support/authorizednpo

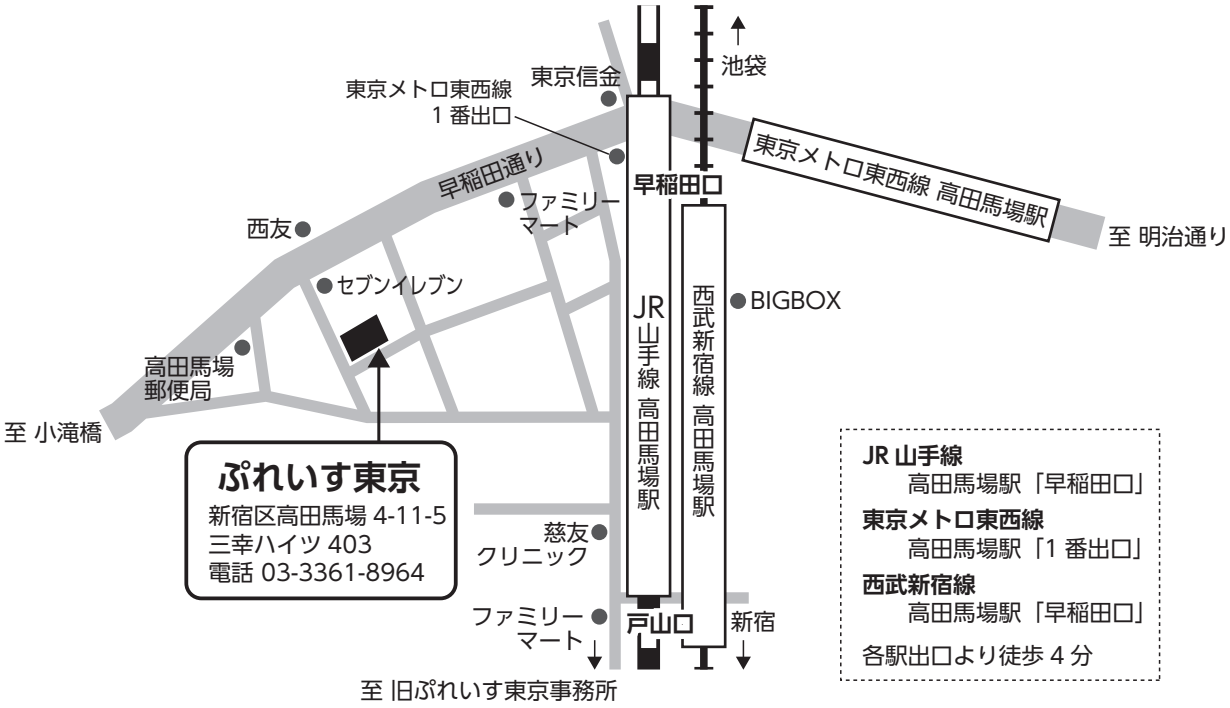
認定 NPO サポーター

認定 NPO 法人への寄付は、寄付額に応じた所得税の税額控除が受けられます。賛助会費も控除対象です。
法人が寄付した場合は、損金算入限度額の枠が拡大されます。
また、遺産を相続し、そこから寄付をした金額は非課税になります。

▼ チャリボンで寄付する

https://www.charibon.jp/partner/ptyo/
引越しなどで不要になった本・CD・DVD などを「チャリボン」に送ると、
その売りあげ金がぷれいす東京に寄付されます。
読み終わった本などを処分しようと思っているみなさま、どうぞご協力をお願いします。

チャリボンで寄付



ぷれいす東京　2020 年度年間活動報告書

2021 年 6 月 7 日発行

発行　特定非営利活動法人　ぷれいす東京
Positive Living And Community Empowerment TOKYO
〒 169-0075　東京都新宿区高田馬場 4-11-5　三幸ハイツ 403
TEL：03-3361-8964　FAX：03-3361-8835　E-mail：office@ptokyo.org
ゆうちょ銀行振替口座：00160-3-574075「特定非営利活動法人　ぷれいす東京」
URL：https://www.ptokyo.org/
Facebook：https://www.facebook.com/PLACETOKYO
Twitter：@placetokyo（https://twitter.com/placetokyo）
印刷　株式会社翔美

認定NPO法人 ぷれいす東京
あなたのアクションが誰かの力に！
https://ptokyo.org/weare/